

K y u s h u

I n s t i t u t e o f

T e c h n o l o g y

平成24年度

現状と課題

九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書

九州工業大学大学院工学研究院部局評価委員会

目 次

1	はじめに	1
2	工学部・工学府・工学研究科の教育	
2.1	2012年度卒業生アンケート(工学部)	2
2.2	2012年度修了生アンケート(工学府・工学研究科)	37
2.3	教育達成度評価アンケート:雇用主(2010年3月以前卒業生)	61
2.4	教育達成度評価アンケート:雇用主(2010年3月以前修了生)	67
2.5	教育達成度評価アンケート:卒業生(2010年3月以前卒業生)	73
2.6	教育達成度評価アンケート:修了生(2010年3月以前修了生)	79
3	大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営	
3.1	大学院工学研究院・工学府・工学部の組織図	85
3.2	各種委員会活動の点検・評価	86
3.2.1	大学院工学研究院部局評価委員会	86
3.2.2	工学部教務委員会	87
3.2.3	工学部学生委員会	94
3.2.4	工学部入学試験委員会	96
3.2.5	大学院工学府・工学部安全環境委員会	99
3.2.6	大学院工学研究院情報化推進委員会	100
3.2.7	工学部広報委員会	104
3.2.8	大学院工学府学務委員会	106
3.2.9	大学院工学府入学試験委員会	109
3.3	教員組織	112
3.3.1	教員の配置	112
3.4	事務組織	114
4	大学院工学研究院・工学府・工学部の財政	
4.1	運営費交付金配分状況	115
4.2	科学研究費補助金の採択状況	116
4.3	外部資金導入状況	117
4.3.1	寄附金(奨学寄附金)	117
4.3.2	民間等との共同研究	117
4.3.3	受託研究	117

4.3.4	寄附講座	118
4.3.5	寄附金の利息	119
5	大学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり	
5.1	地域貢献活動	120
5.1.1	大学公開	120
5.1.2	公開講座等	121
5.1.3	北九州市民カレッジへの協力	125
5.1.4	出前講義	126
5.1.5	情報公開	130
5.2	学生の国際交流	131
5.2.1	外国人留学生（国籍別・課程別・費用別）在籍状況一覧表	131
5.2.2	外国人留学生（学科別・専攻別）在学状況一覧	132
5.2.3	学生の海外派遣	133
6	おわりに	134

1 . はじめに

平成25年度版九州工業大学大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書「現状と課題」をここに発刊する運びとなりました。

本報告は、この「はじめに」の章に続けて4つの章

第2章 工学部・工学研究科の教育

第3章 大学院工学研究院・工学府・工学部の管理運営

第4章 学院工学研究院・工学府・工学部の財政

第5章 学院工学研究院・工学府・工学部と社会とのつながり

から成り、工学研究院・工学府・工学部の活動の評価資料です。

大学組織にとっても継続的に改善を行っていくことは極めて重要なことではありますが、そのためには現状を把握し、その評価結果を分析・記録し続けることが必要です。

本報告では大学における活動の実情のデータに加え、修了・卒業を控えた学生、修了・卒業した学生、修了生・卒業生を受け入れた企業に対するアンケートも実施し、その結果を分析しています。

これらの記録や分析結果は、各種委員会や教員にフィードバックし、大学の教育・研究の改善に繋げるべく利用されるものです。

なお、本報告書は平成18年度版以降、閲覧を便利にしてより社会に開かれた状態で大学の役割を知って頂けるよう、工学部のホームページにて掲載しております。

平成26年2月吉日

橘 武史（大学院工学研究院部局評価委員会委員長）

2 工学部・工学府・工学研究科の教育

2.1 2012年度卒業生アンケート（工学部）

アンケート実施年月日 平成25年2月22日

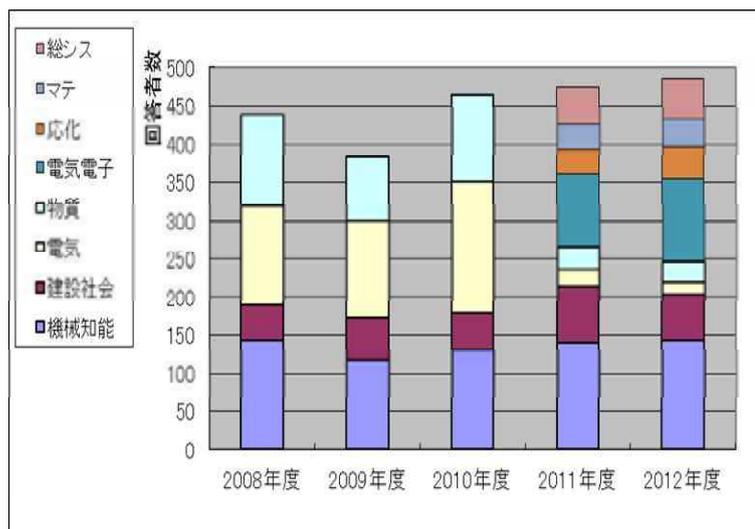
アンケート回収率

学年	配付枚数	回収枚数（回答率）
4年生(卒業予定者)	582枚	487（83.7%）

[1]所属する学科・コース名を書いて下さい。

機械知能工学科（143名）
 建設社会工学科（61名）
 電気工学科（15名）
 物質工学科（27名）
 電気電子工学科（109名）
 応用化学科（42名）
 マテリアル工学科（37名）
 総合システム工学科（52名）

回答者数が昨年から更に増加し、過去5年（実際は2003年以来）で最も多い。できればこの状況を維持したい。



[1-1] 3年次編入の人は[]に○を入れて下さい。 [26名]

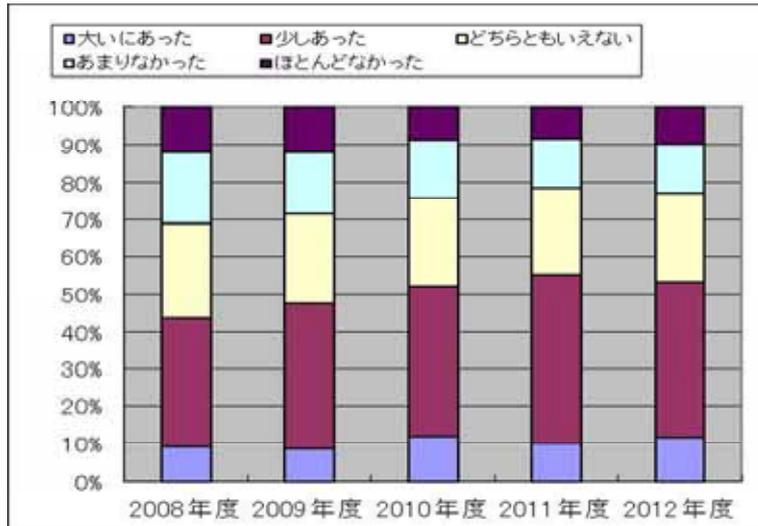
殆ど全ての学生が回答をしてきて、大学とのつながりが好ましく維持されており、今後もこの状態が維持できればよい。



[2]大学教育があなたの成長（自己形成）に及ぼした効果についてお尋ねします。

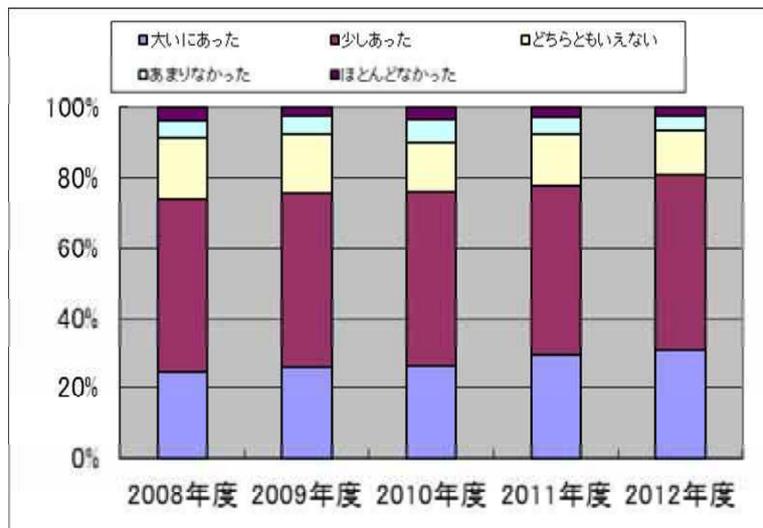
[2-1]人間科学科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（法学、経済学、社会学、哲学、倫理学、歴史学、語学、保健体育学、文学、教育学等）

前回と変化は殆どなく（あまりなかった+ほとんどなかった）と回答した者の割合は低位で維持されている。これは、人間科学科目における教育内容・状況が学生に受け入れられているためと判断される。



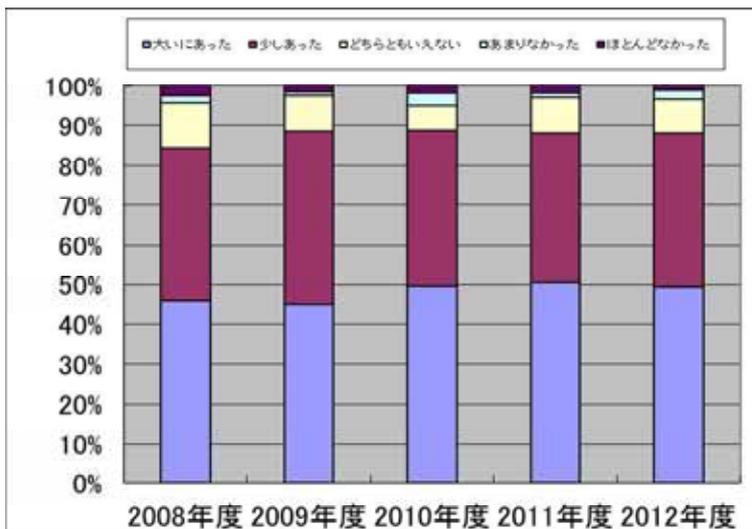
[2-2]工学基礎科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。（数学、物理学、化学、情報関連基礎科目）

効果があった（大いにあった+少しあった）と回答した者の割合が昨年度からさらに増加し80%とかなり高い水準に達している。逆に効果がない（ほとんどなかった+あまりなかった）と回答した者の割合はかなり少なくなっている。これは、工学基礎科目の教育が望まれる内容・状況に維持されていると判断され好ましい。



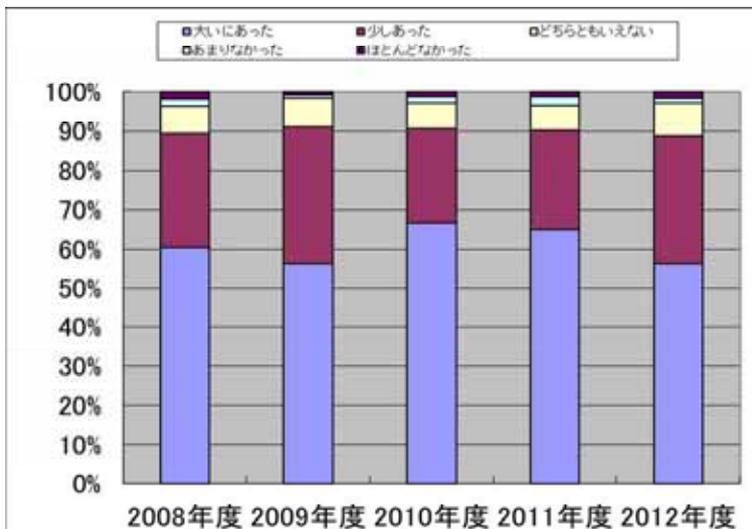
[2-3]工学専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

効果があったと回答した学生の割合は、本年度も90%近くであり、そのうち、大いにあったと回答した者も増えている。これは、学生にとって本学の工学専門科目教育が充実した内容で、実際に役立っていると感じていることを示しているものと判断される。



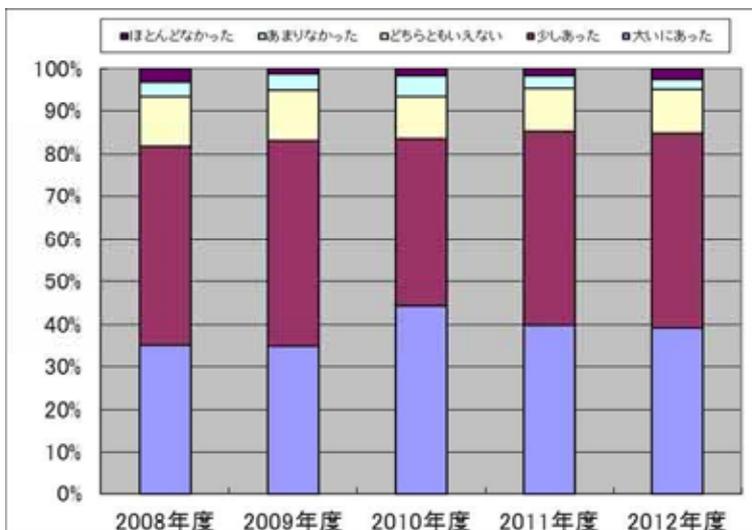
[2-4]卒業研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。

効果がない(あまりなかった+ほとんどなかった)と回答した学生の割合は数パーセントであり、大学に於ける卒業研究の意味が大きいことの裏付けでもあろう。只、過去3年で本年度において、大いに役立ったと回答したものが少し減っていることがやや気になるが、直接役立つことを期待しているための反応かもしれない



[2-5]実験・実習・演習・製図はあなたの自己形成に効果がありましたか。

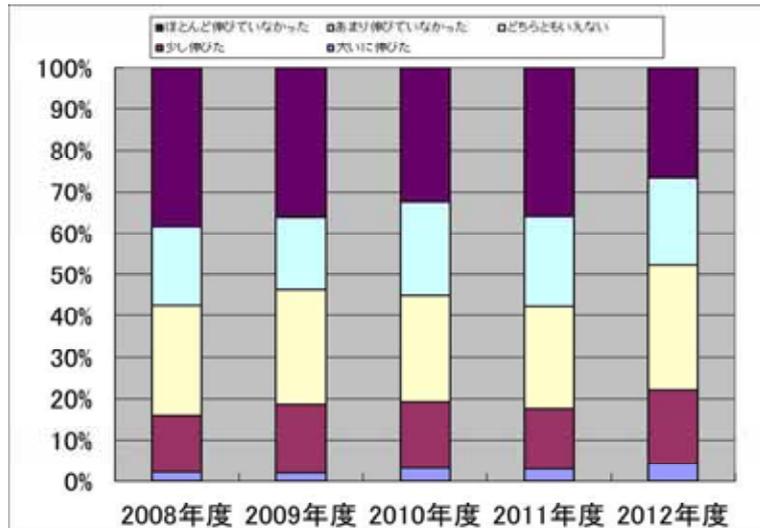
前回と殆ど同じで、効果があった(大いにあった+少しあった)と回答した学生の割合が非常に高い水準に維持されている。これは工科系大学においては、実験や実習などの効果が大きいことを示していて、今後もこの水準が維持されることが願われる。



[3]英語力についてお尋ねします。

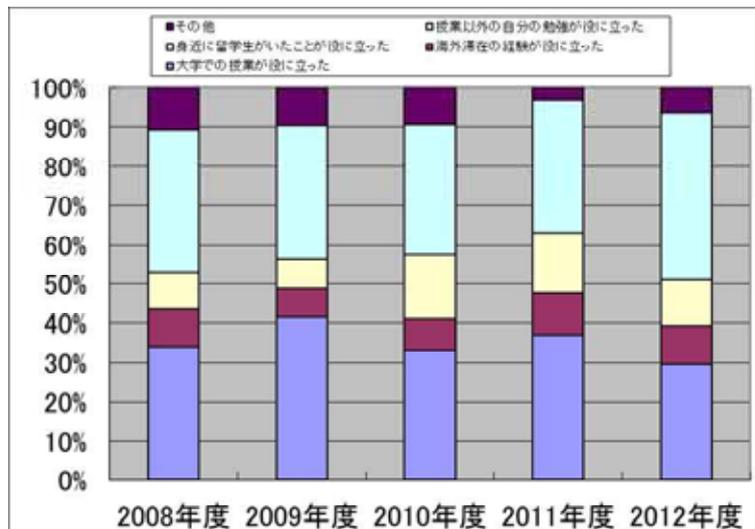
[3-1]大学の4年間であなたの英語力は伸びましたか。

英語力がほとんど伸びていないと回答している学生が今回はぐっと減った。これは大学では、英語学習に割くことのできる時間割合が高校までとくらべてずっと少ないなか、本学では英語教育に関して持続的な教育改善が行われ、学生に実感できるような状況に近づきつつあることを示されているように思われ、この調子が維持されることが期待される。



[3-2][3-1]でA (大いに伸びた) またはB (少し伸びた) と答えた方: その理由は何ですか。(複数回答可)

大学での授業が役に立った割合よりも授業以外の自分の勉強が役に立った割合が増えている。これは、英語力は、授業だけで伸びる性格のものではないことを認識し、大学が講義以外のいろいろな選択肢を提供し、自発的に、自然に英語を身につけるような仕組みづくりを行ない始めていることによるものと思われる。いずれにせよ英語能力が伸びたと感じていることは望ましい。



E (その他) [具体的に]

- ・ TOEICの対策に取り組んだ
- ・ 英語を使用する人の話を参考した。
- ・ 英語の文化に興味を持つことで苦手意識をなくせられた。
- ・ TOEICの勉強をしたため。

- ・ 研究で英論文を読んだため
- ・ 英語の文献(論文など)を読んだため
- ・ 国際交流サークル所属により
- ・ 自分で勉強した
- ・ 院試のトピックが役に立った

[3-3][3-1]でD(あまり伸びていない)またはE(ほとんど伸びていない)と答えた方:その理由は何ですか。

元来工学部では、工学科目の負担は非常に大きく課題などに割かなければならない時間が多いため、英語力強化に時間を割くのは難しい。又、とくに英語の不得手な学生の中には、何とか単位をとることだけを目的とするに者がかなりいるのも事実であろう。このような様々な状況のなかで、英語の授業だけで全員の英語能力を伸ばすことには限界があり、独学出来る機会やツールを増やすことや、専門科目においても継続して英語に触れ続けられるような仕組みの検討も必要であろう。

- ・ 高校英語より簡単だったので。
- ・ 英語の授業が2年までしかないから自主的にやらないとやらないから
- ・ 意欲的に取り組まなかった。
- ・ 授業のレベルが低すぎる。
- ・ 英語を勉強する機会が少なかった。
- ・ 勉強していない、使うことがない
- ・ TOEICの点数
- ・ 高校の時の方が授業のレベルが高かったから
- ・ 授業がなく、英語に触れる機会がなくなったから。
- ・ 英語に触れる時間があまりなかった。
- ・ 勉強していないから
- ・ リーディングが中心で、文法やリスニングができなかった。
- ・ 英語の授業をうけていないから。
- ・ 読解力メインの授業だったため。
- ・ 学習時間が少ない
- ・ 授業ではあまり効果がなかったため
- ・ 授業が少ない(英語の)
- ・ 実際に使えるような内容ではなかった
- ・ 英語の勉強時間が減った
- ・ 授業が少ない
- ・ 英語を自学することがなかった。
- ・ 会話形式の授業が無かった為
- ・ 時間がなく継続して自宅学習ができなかった
- ・ 興味を持てなかった。
- ・ 2年間のみでそれ以降英語にふれていなかったため
- ・ 学部1～3年生のときに、英語を使用する機会がほとんど無いため。
- ・ 2.3年でほとんど英語の授業がなかった

- ・ 自宅学習が高校時代に比べ少なかったため
- ・ 勉強不足
- ・ 授業がなくなったら勉強しなくなった
- ・ 内容がなかった。
- ・ あまりべんきょうする機会がなかった
- ・ 真剣に取り組まなくても単位がとれた。
- ・ 意欲がなかった
- ・ 自ら進んで学習しなかった。
- ・ 授業が高校とほとんど変わらない
- ・ TOEICの対策をもっとすべき。
- ・ 英語を勉強する機会が少なかった。
- ・ 使用する機会があまりなかった
- ・ 興味が持てなかった
- ・ 英語を学ぶ期会がなかった
- ・ 英語の授業が意味ない
- ・ 講義が中途半端
- ・ 英語に関して意欲をもつ場がなかったため。
- ・ 何も感じなかったから
- ・ 英語が嫌いだから
- ・ 週に1回しか英語に触れなかったから。
- ・ 英語の講義が満足のものではなく触れる機会が少ないから。
- ・ 英語がもともと苦手であるから。
- ・ 英語をしなかった
- ・ 勉強していないから。
- ・ 週に1度や2度の授業では英語にほとんど触れていないのと同じだから。
- ・ 授業が高校の復習みたいな内容だったため
- ・ 英語が伸びるような授業内容ではなかった。
- ・ 英語に触れる機会が少なかったから
- ・ 率先して英語を勉強しなかった。英語の授業はほぼ身に付かなかった。
- ・ 継続して勉強しなかった為
- ・ 高校生の時に比べて英語に接する時間が減ったため
- ・ 実践的に使うときがなかった。
- ・ 話すことが苦手なままなので
- ・ 英語に取り組まなかった
- ・ 高校で学んだことよりもレベルが低い授業だったから
- ・ 授業としては2年間くらいしか勉強していないから
- ・ 話す英語が少ないと感じた。自分が怠惰であった。
- ・ 関心がない
- ・ 実用的な英語の勉強が少ない(必修では)
- ・ 英語を熱心に勉強しなかった。

- ・ 高校時代のほうが英語に触れる機会が多かったから。
- ・ 勉強量が少ない
- ・ 使う機会が少ない、レベルが低い、虹林先生のだけためになった。
- ・ 勉強する機会が少なかった。
- ・ TOEICが悪かった
- ・ 自主勉強がたりていなかった。
- ・ 何もしていなかったから。
- ・ 自主的にトイック等を受験しなかったから
- ・ あまり勉強してないから
- ・ 英語を学ぶ時間が少なかった。
- ・ 編入なので英語の講義を受けていない
- ・ 3.4年生では英語をやっていないから
- ・ 特に勉強していないから
- ・ 勉強しなかったから
- ・ 高校の時ほど英語にふれなくなったため
- ・ 英語に触れる機会があまりなかったため
- ・ やる気を持って講義を受けることが少なかったため
- ・ 英語を使う機会が少なかった
- ・ 継続的に勉強していなかった。伸びたかどうかわからなかった。
- ・ レベル低かった。体験数も少ないと思います。
- ・
- ・ 英語の授業数の少なさ、授業が大学1.2年しかないことが原因だ。もっと、英語の授業を増やしてほしい。
- ・ 理解ができなかった
- ・ 回数が少なかった
- ・ 新しいことはしてないから
- ・ TOEICであまり点をとれなかったから
- ・ TOEICの知らせなどが少ないし、そもそも英語教育に力を入れていると思わない。
- ・ 意欲がなかった
- ・ 授業がないので
- ・ 英語に触れる時間が短かったから。
- ・ 英会話の機会があまりなかったため。
- ・ 自ら進んで英語を学ぼうと努力しなかったためである。
- ・ 英語の勉強をしなかったから
- ・ 英語を使う機会が、あまりないため
- ・ 学習量が少ない
- ・ 単位の取り方を覚えただけだったから
- ・ 実践的なことをしていない
- ・ 先生が変わるので、授業に統一性がない
- ・ 英語が好きじゃないから
- ・ 使用する機会がほぼない
- ・ 勉強不足

- ・ 英語は苦手だから
- ・ 授業が簡単だったから
- ・ 量が少ない
- ・ 英語を使う機会が、少なかったため。
- ・ 高校までと大して変わりなかったため
- ・ 1、2年間の英語の授業は、高校までの英語力を使う授業が多かったから。
- ・ 意欲がもてなかった
- ・ 英語を勉強しないといけない必要性がなかったから勉強しなかった。
- ・ 英語を勉強できていない
- ・ 勉強していないから
- ・ 英語に触れる機会を自分からはつくらなかった
- ・ 授業以外で勉強していないため
- ・ 英語を活用する機会は授業以外になかった。その機会を望まなかった。
- ・ 授業以外で英語を話す機会がなかったから。
- ・ 英語に触れる機会が少なかった。
- ・ 英語に触れる機会が少なかった。
- ・ 使わなかったから
- ・ 大学が英語能力を伸ばす気がないから
- ・ 自己学習が足りなかった。
- ・ やる気がなかったため
- ・ 英語を話す授業が少ない。実用的じゃないと、英語の授業の意味がない。
- ・ 高校の授業と内容が変わらなかった。
- ・ 英語の授業は必要最低限しか取っておらず、自主的な勉強も特にしていないため。
- ・ 学内において、英語に触れる機会が少ないから(授業を含めて)
- ・ 高校でやった勉強と大して変わらないと感じたので。(リスニング 筆記テストばかり。)
- ・ 授業数が少ない。毎日あるぐらいないと、する意味ない。自分でやろうとしても続かないので。
- ・ 授業数が少なかった。
- ・ 英語の受ける授業があまりないから
- ・ 勉強しなかった
- ・ 2年生以降、英語の勉強しなかったから
- ・ 勉強したのは、週1、2回の英語の授業のみかつ、2年後期までしか勉強してない。
- ・ 勉強不足で伸びなかった
- ・ 苦手意識がまだあるから
- ・ 日々の学習不足
- ・ 授業の内容
- ・ やる気がなかったから
- ・ 英語力を高めるのに適した授業ではなかった。
- ・ 英語に触れる機会が少なかった。
- ・ 授業以外では、英語に触れる機会がなかったから
- ・ 英語に接する機会が減った

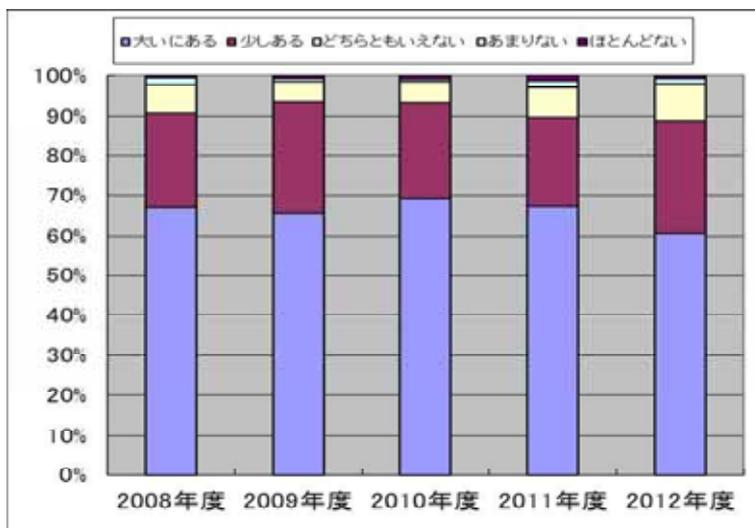
- ・ 自発的に英語に取り組まなかったため
- ・ 通学時間の電車で単語の勉強をしたから
- ・ 高等学校の英語教育から離れたから。
- ・ 3、4年で英語を使う機会が減ったから。
- ・ 勉強していないから
- ・ 授業のみでは、あまりのびなかった
- ・ 勉強する機会がなかった
- ・ 何もしていないから
- ・ 学習時間の不足
- ・ 英語以外の科目の勉強に時間をとられたため。
- ・ TOEIC 以外の英会話や文法練習を自的に全くやっていたから。
- ・ 3、4年で自分で英語を勉強しなかった。
- ・ 勉強時間が少なかったから。
- ・ あまり勉強しなかった
- ・ TOEIC でとれてなかったから
- ・ 授業以外に英語の勉強をあまりしなかったため
- ・ 授業以外で英語の勉強をしなかったため
- ・ 授業が少ない
- ・ 興味がおきなかったから。
- ・ 必修も可であったし、トイックもあまりよくなかった。
- ・ TOEIC で点がとれない
- ・ あまり集中できず、意欲的にとりくめなかった
- ・ 伸びる理由がなかった
- ・ 実践的できていなかった
- ・ あまり勉強していない
- ・ 伸びる要素がまったくない
- ・ 中1の文法がわからなかった
- ・ 勉強する機会がなかった。
- ・ 英語の実力が伸びるような内容ではなかった
- ・ それほど勉強をしていなかったため
- ・ 勉強不足
- ・ 勉強不足
- ・ 勉強不足のため
- ・ 面白くなかった。
- ・ 英語に触れる機会が少なかった。
- ・ 授業以外での勉強を怠ったため
- ・ 高校の時より英語に触れる機会が減ったから
- ・ テストがすべてだった
- ・ 文章を読むことは少しはできるようになったと思える。しかし、実際に会話する場合に、力を発揮できるような授業構成ではなかったと思う。

- ・ 大学の英語は中、高の応用のような部分が大いだが、自分は基礎が出来てないため理解ができなかった。
- ・ 3年次にしか英語の授業を受けていないため
- ・ TOEICの点が変わらなかったから、英語を使う機会が無いから
- ・ 勉強する機会が、大学院入試の時くらいしかなかった
- ・ 勉強してない
- ・ 勉強する機会が少なく、他の勉強がいそがしかった。
- ・ 勉強不足
- ・ 余り勉強しなかった為
- ・ 授業が簡単すぎた。高校レベルですらない。
- ・ 勉強不足
- ・ 英会話など実践的ではなかった
- ・ 英語にあまりふれなかったから
- ・ 他の勉強ばかりしていたから
- ・ 専門科目が難しく、英語にあまり力を入れられなかったから。
- ・ 英語に対する意識が足りてなかっただけの問題
- ・ 教科書の内容を覚える事になりがちで、英語事体を覚えなかったから。
- ・ TOEICのスコアが悪かったから

[4]卒業研究についてお尋ねします。

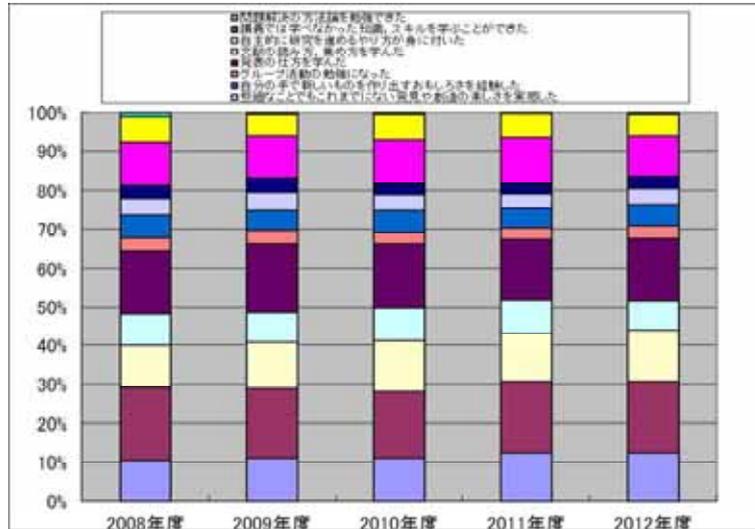
[4-1]卒業研究の意義はありますか。

工学部では、教員各自が卒業研究を通じて行っている学生教育への負担は本学でも非常に大きいですが、それは卒業研究の意義を強く認識しているからである。その結果として、(大いにある+ある)と回答した学生の割合が、この年も90%程度が維持されていることは、教員の思いと同じく卒業研究の意義は常に高いものであり、当然の帰結として反映されていることを示すものである。この状況が今後も維持され、優秀な学生を社会に送り出せるよう願う。



[4-2][4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

工学部では卒業研究を通じて多くの実践的・応用的な能力の向上を目的としており、その目的通りに、卒業研究を行うことの意義が広く深いことをこの回答は示している。卒業研究を意義がある（大いにある+ある）と回答した理由としては、例年と同じ傾向で、研究の仕方や問題解決方法が学べた、発表の仕方が学べた等、講義では学べなかった知識・手法が学べた、が多く、他にも様々な理由を挙げられている。



L(その他) [具体的に]

- ・ A～Kはもちろんなのですが、難しいです。
- ・ 大学は研究機関なので研究をするのは当然と言えば当然だと思う
- ・ 論文等の文章の書き方を学べた
- ・ 復習できた
- ・ 先生に厳しく指導していただいたお陰です。
- ・ 研究においては反復した反省と原因の解析が必要であり、短期・長期の展望の予測をしながら行わなければならない

[4-3][4-1]で卒業研究の意義がD(あまりない)またはE(ほとんどない)と答えた方：その理由は何ですか。

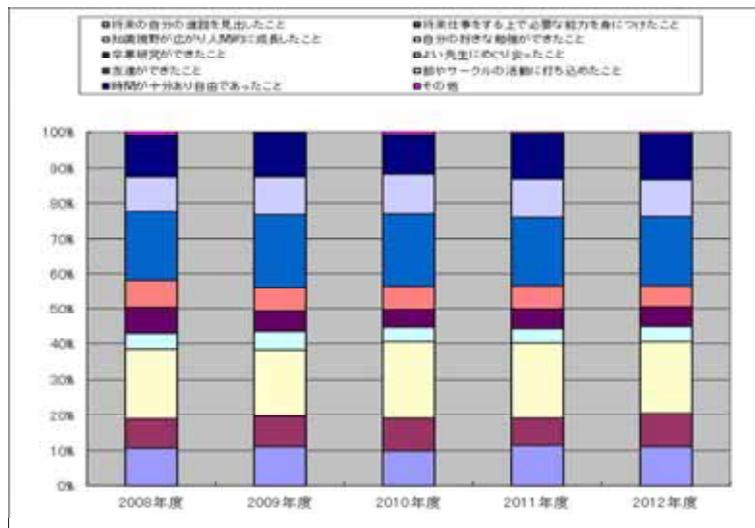
例年、僅かながら卒業研究の意義がない(あまりない+ほとんどない)と回答する学生が必ずいる。恐らくその理由は、研究テーマが自分自身の希望していたものではなかった等の理由から、卒業研究を行う意欲が低くなってしまったこと等が原因ではないかと推察される。研究テーマの意義を理解しないことによる場合なども加わり、少数のこれらの学生をさらに減らすことは容易ではないが、研究室配属方法の工夫等でこのような場合への対処をすべきか難しい問題である。

- ・ 企業に入社したときに役立ちそうなことをたくさん学べた。
- ・ 常に指示が自主的にする機会がほとんどなかった。
- ・ めんどくさいから
- ・ 日々実験して、ゼミなどやっていけばいい。
- ・ 興味のあるところを研究できるとは限らないから
- ・ 既往の研究が深く行われておらず、その穴うめばかりやった。引き継ぎのやり方に大きな問題があると思う。

- ・ 教授が難しい人だった
- ・ 時間対効果が悪すぎる
- ・ 興味がないため
- ・ 記念にしかない。日ごろ研究していない人でも、書いてしまう
- ・ 難解極まりないから
- ・ 卒業研究の内容が電気の内容と違う気がするため、自分で調べ自主的に行うことは、身につけているとは思。

[5] 大学生生活を振り返って、どのようなことがよかったですか。（複数回答可）

大学生生活の意義は各人多様であり、それに伴い、知識や視野の広がり、友人が出来たことなど、多面的でバランスのある回答をしている。例年と同じような現状の回答は、大学生生活が全般的に有意義であったと感じていることの証しであることを示しているものと思われる。



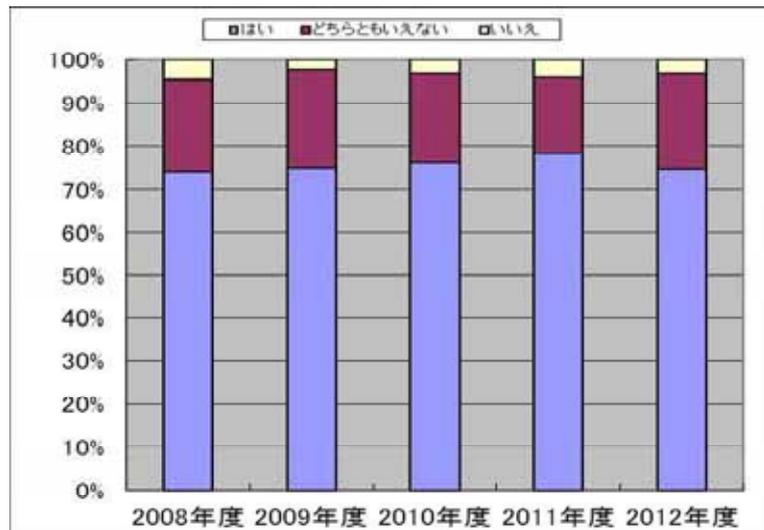
J (その他) [具体的に]

- ・ 長期海外留学が出来たこと。
- ・ 金銭的な管理が自分でできたこと
- ・ 人生の夏休みを楽しむことができた
- ・ 短期だけど留学ができたこと(英語圏ではないが)
- ・ なかった
- ・ 色々な人の考えがきけたこと
- ・ プリンをたくさん食べた
- ・ アルバイトで全国大会に行けた。

[6]入学した学科についてお尋ねします。

[6-1]現在の学科に入学してよかったと思いますか。

必ずしも希望の大学を受験したとも限らないことや、合格した学科が希望の学科であるとも限らないことを考慮すれば、入学した学科について良かったと思った学生の割合が今回も3/4もいるという現況はかなり良いレベルと判断される。現在の学科に入学してよかったと思うということは、現在の学科の教育内容などにも満足していることの証とも判断される。



[6-2][6-1]でC(いいえ)と答えた方：その理由は何ですか。

受験だけを基準として学科選びをしたり、その学科のことをよく知らないまま入学してしまったなどが、いいえと答えることの原因の根本にあるようである。入試やコース配属方法などで弾力的運用をしてこれに対応する方法もあろうが、むしろ逆に弊害も生じる可能性があることも留意しておかなくてはならないので、受験の時点での判断は重要であることを、高校などで知らせてもらうことも大事である。

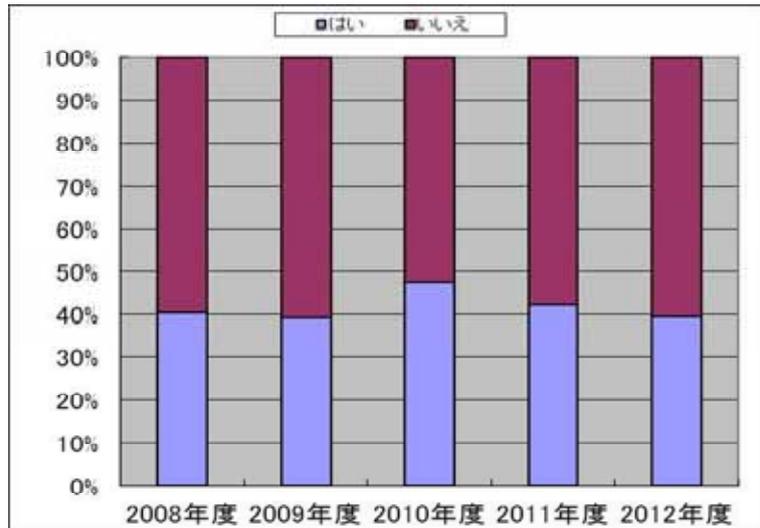
- ・ 他の大学の同学科と比べて大差はないから
- ・ 進路を考えてなかった
- ・ 想像と違った
- ・ 就職にそこまで強くない
- ・ なんとなく
- ・ 多分、面白くなかったから
- ・ 学科の本質をよく見ずに入学したから。
- ・ 技術士など
- ・ 違う学科に行きたかったと今になって思う。
- ・ 卒業後の進路について、結果として別学科の方が幅があった。知識を広く浅く得た感じがあるので、あまり得た気がしない。
- ・ 研究室の選択肢の少なさ。マテリアル、情報系は多いが、電気、機械系がかなり少ない。
- ・ 機械系研究室がほとんどない
- ・ 何も身につかないと思う
- ・ その分野もあまり深くやらないため就活で困ったから
- ・ 建築を学ぶ環境がゼロというかマイナス
- ・ 先が見えない
- ・ 学科回しをくらい一時期絶望した。
- ・ もともと興味がなかったため

・ 職種幅大

[7]入学時の目標の達成についてお尋ねします。

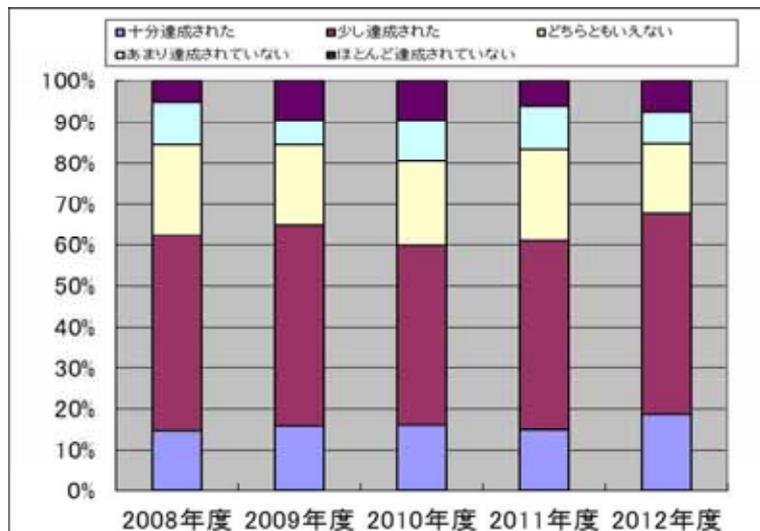
[7-1]あなたは入学の時に大学で達成したい目標がありましたか。

過去5年間をみても、入学時に達成したい目標を持って入学した学生は、持っていた学生よりも少なく例年約40%で推移している。目標の有無の判断は個人の目的意識レベルに依るので、この数字をそのまま捉えることが出来るかは、概して日本人は、強い目的を表明しない傾向にあるようにも思われるため疑問だが、もう少しは高校までの教育の中で、目的や目標を設定することの必要性が強調されたい。



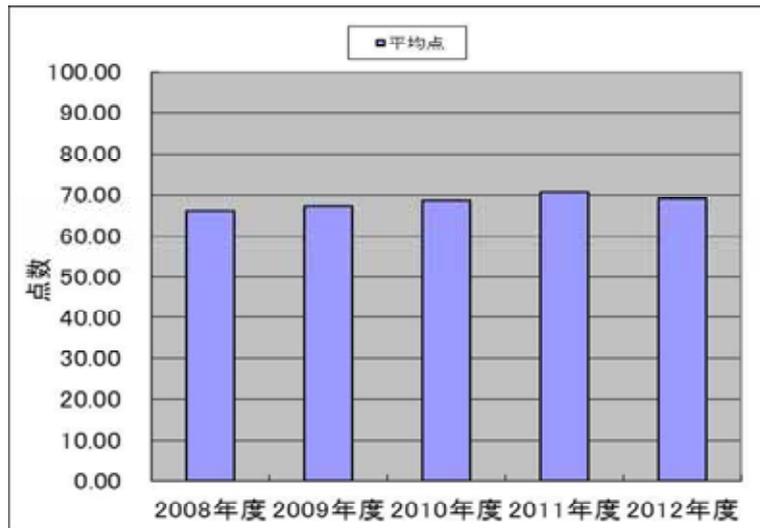
[7-2][7-1]でA(はい)と答えられた方、それは現在のどの程度達成されていますか。

達成された(十分達成された+少し達成された)と感じている学生の割合が過去5年間とも、60%以上が維持されていることは、目標の中には到達が困難なレベルの場合もあることを思えば、かなり高い結果であり、本学がかなり満足いく教育が提供できている証であると思われる。



[8]在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

満足度は、昨年に比べれば極微かに低下したが、それでも70点近くが維持されている。これは長年の本学の教育努力の結果と言って良いであろう。引き続きこの高水準を維持できるよう努めることが望まれる。

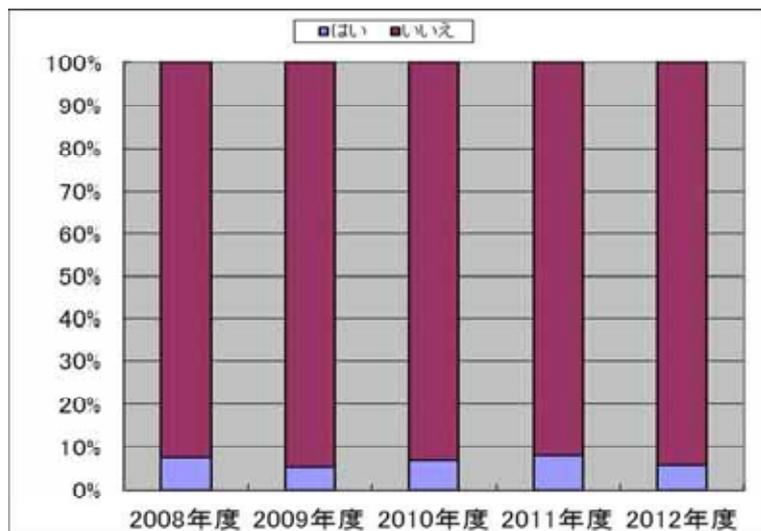


[9]卒業により取得予定の資格についてお答え下さい。

(本学の教育目標に適合しない資格(自動車免許等)は除外します。)

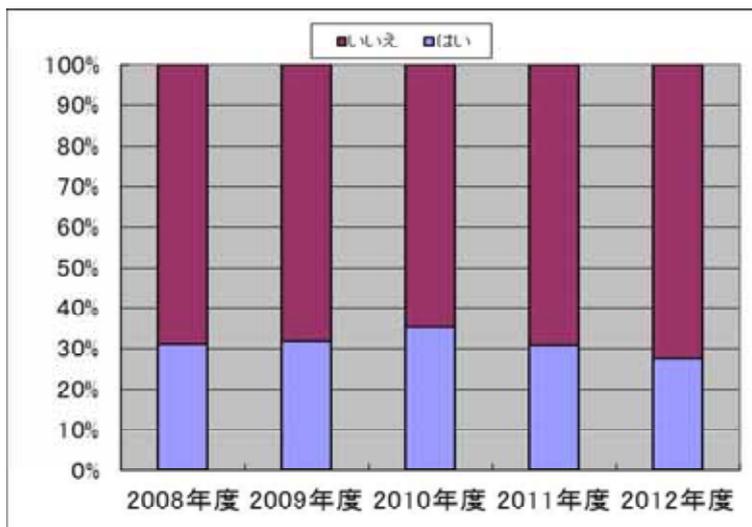
[9-1]あなたは教員免許取得を目標としていましたか。

本学の性質からして、教員免許を取得し、教員になることを目的に入学する者の数それほど多くないことは自然なことと思われる。その結果として、教員免許の取得を目的としている学生の割合はずっと10%を下回るレベルで推移している。とはいえ、教員免許取得希望を持っている者がこの程度はいるということも認識はしておくべきであろう。



[9-2]教員免許(数学)が可能でしたら、あなたは取得を希望しましたか。

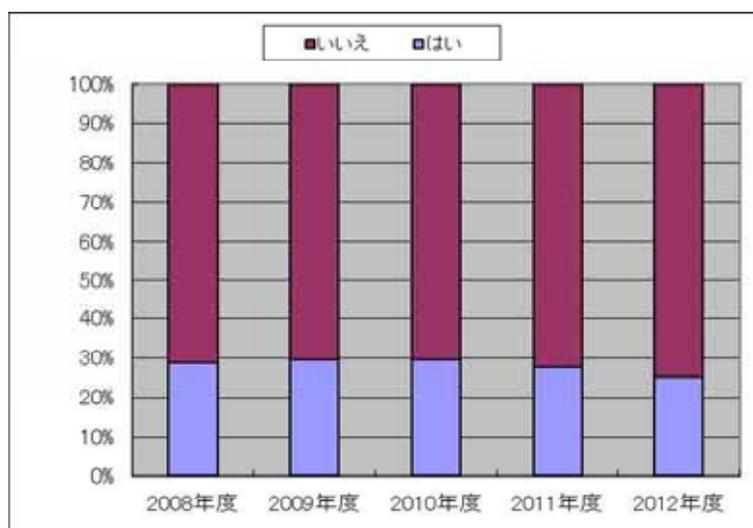
今回の調査でも、過去と同じように、教員免許取得希望者は毎年度30%程度いる。数学教員になりたいと彼らが本学に入学したとは思えないが、希望者の希望内容をまず把握した上で、工学部として数学教員免許取得が可能なカリキュラムを導入するのかについては検討すべきかも知れない。



[9-3]あなたは卒業後資格(教員免許を除く)を取得する予定ですか。

今回の調査でも、卒業後の資格取得を予定している学生の割合は30%程度で横ばいである。

固有の就職分野・業界との関連で取得を考えているものと予想されるが、取得を考える資格が就職先において必要となりそうな場合は取得をしたいと考えるのは自然であろう。



[9-4][9-3]でA(はい)と答えた方：どのような資格を取得する予定ですか。

多種多様な資格の取得について、自分が就職する分野や事業を意識しつつ考えているようである。

- ・ 機械関係の技術の資格
- ・ 通信システム系
- ・ 漢検
- ・ 技術師
- ・ 技術士
- ・ 技術士
- ・ 危険物など
- ・ 設計系の資格
- ・ 就職先に必要なもの
- ・ 危険物取扱
- ・ 危険物取扱試験

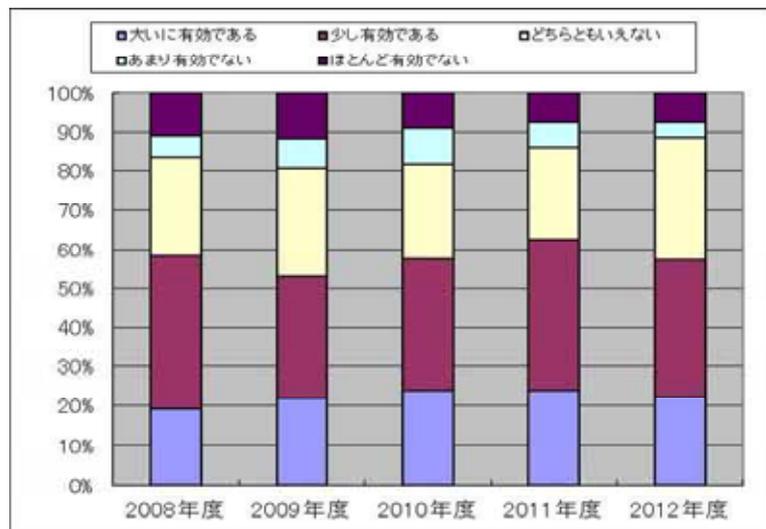
- ・ 危険物
- ・ 危険物
- ・ フォークリフト、調理師
- ・ 危険物
- ・ 危険物処理等
- ・ 環境計量士
- ・ カラーコーディネーター2級
- ・ 会社で必要なもの
- ・ 毒劇物取扱責任者、危険物取扱者
- ・ 危険物取扱い
- ・ まだ分らないが、工場勤務になるので、資格を取得する可能性がある。
- ・ 仕事に必要な資格
- ・ 仕事に有利になるものなら何でも
- ・ 義肢装具士
- ・ 簿記2～3級
- ・ 簿記など
- ・ 決めていない
- ・ PT
- ・ 危険物取扱い
- ・ 会社で必要な資格
- ・ 情報処理技術者
- ・ 専門の資格はなにかしら取得したい
- ・ 未定
- ・ 情報関係
- ・ 未定
- ・ 電験
- ・ 電気主任技師
- ・ 電気主任技術者
- ・ パソコンに関するスキル
- ・ 電気系
- ・ 電気主任技術者
- ・ 1・2級建築士
- ・ 技術士
- ・ ケンチクシ
- ・ 宅建など
- ・ 宅地建物取引主任者
- ・ 技術士
- ・ 宅建
- ・ 技術士、土木施工管理技士
- ・ 施工管理技士、技術士

- ・ 2級建築士
- ・ 技術士補・技術士
- ・ 技術士、施工管理技士など
- ・ 技術士
- ・ 土木施工管理技士などの仕事上必要な資格
- ・ 建築士、宅地建物取引主任者
- ・ 技術士
- ・ 建築士
- ・ 1級建築士、2級建築士
- ・ 建築士
- ・ 2級建築士、インテリアコーディネーター
- ・ 技術士、施工管理技士、測量士
- ・ 技術士
- ・ 技術士とか
- ・ 技術士
- ・ 技術士、土木施工管理技士
- ・ 宅建
- ・ 技術士、IELTS
- ・ 測量士補
- ・ 建築士
- ・ 施工管理士、建築士
- ・ プログラム系の資格
- ・ ゲキ物取り扱い
- ・ 仕事で必要なもの
- ・ 基本情報技術者
- ・ TOIECなどの外国語関連のもの
- ・ 特に考えてない
- ・ 情報処理応用
- ・ 第一級陸上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士
- ・ 電検3種
- ・ 電検3種
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気系の資格(電検、電気工事士等)
- ・ 電検
- ・ 電気主任技術者 種
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気関係の免許
- ・ 一陸技

- ・ 電気主任技術者
- ・ 電検
- ・ 通信士
- ・ 仕事に関する資格、施工管理士など
- ・ 電気主任技術者
- ・ 基本情報技術者試験
- ・ 電検
- ・ 電気主任技術者
- ・ 電気主任技術者
- ・ 第1級陸上無線技術士
- ・ 電気主任技術者
- ・ それは未定

[9-5][9-3]でA(はい)と答えた方：大学の授業は資格取得に有効ですか。

資格取得に大学の授業が『大いに有効である』『少しは有効である』と考える学生の割合は60%内外で推移している。この数字は、大学では資格取得を直接的な目的として教育はしていないが、大学で学ぶ内容は資格取得には関連していると認識されている妥当な結果と判断され、又、逆にこのことは本学教育内容がこの本観点でも意味があることを示している。



[9-6][9-5]でD(あまり有効でない)またはE(ほとんど有効でない)と答えた方：その理由は何ですか。

資格に直接役立つような教育をすることは本来の目的ではないし無理でもあるので、あくまで大学が提供すべきは資格対応より普遍的に重要な教育内容であろう。専門分野とは異なる資格の取得も希望として挙げる者もあり、学生の希望する取得資格に大きな幅があるため、多くの強い希望の資格が発生した場合に、対応を検討すれば良いと思われる。

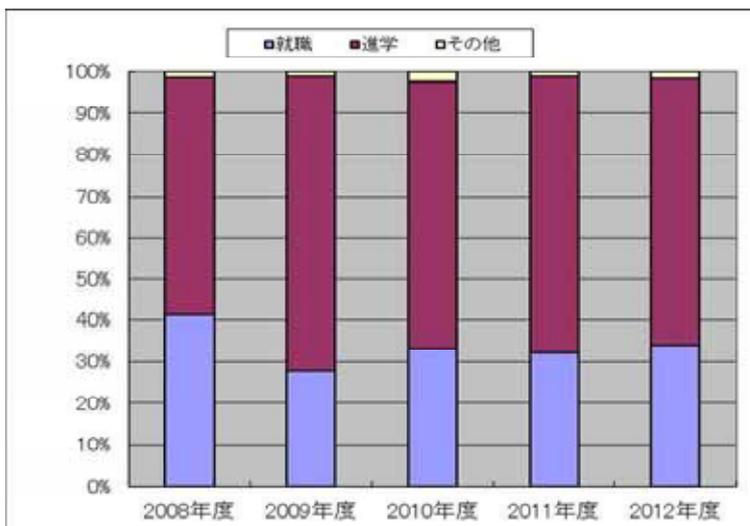
- ・ そのような授業が無いから
- ・ 理系が中心だから
- ・ 多分、めんどくさいから
- ・ 資格との内容と重複している内容がほとんどないから
- ・ まったく違う分野だから

- ・ 内容が違うため
- ・ 簿記とはほとんど関係のない授業だから。
- ・ まったく関係ないため
- ・ 科目が違う
- ・ 実際にいろいろつったり体験しないとわからないこと理解してないことに差があるから
- ・ 土木専攻の学科だから
- ・ 単位認定の為の申し訳程度の内容
- ・ 具体的な対策の講義がなかった。(しかし、その対策はそれぞれやればいいので講義まで必要ない)
- ・ 授業と資格試験は傾向が全く異なる。
- ・ 授業と関連する資格を知らないから
- ・ 実用的な英語や TOIECなどを意識する学生が多いが、この大学の英語の授業では、特にリスニング力が全く伸びない。
- ・ とるために、必要な授業はあるが、実験などであまりその免許のための関連のものがない。

[10]卒業後の進路についてお尋ねします。

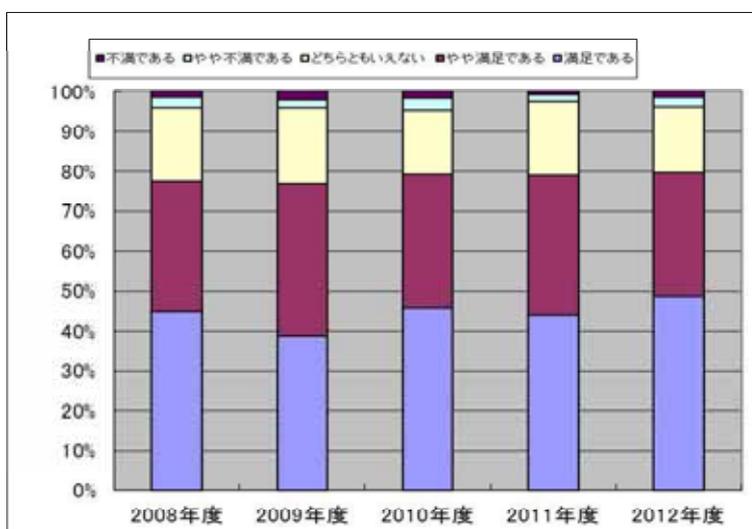
[10-1]あなたは卒業後就職しますか、進学しますか。

若干の変動は見られるものの、2009年度以降、進学率は70%前後で推移している。



[10-2]あなたは卒業後の進路に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とした回答が、80%近くあり、高い満足度を保っている。



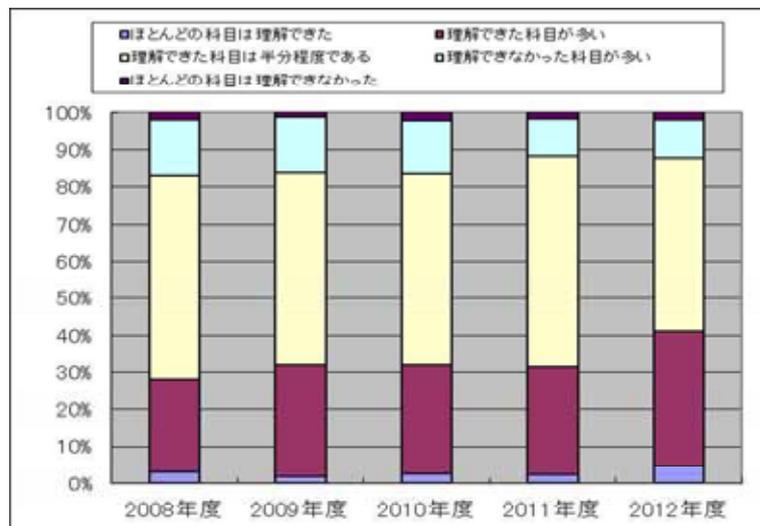
[10-3][10-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

自分の希望通りにいかなかったことなど、様々な思いが見られる。

- ・ 院の入試に失敗
- ・ 他大学院受験にもっと寛容的にするべき。
- ・ 1,2年生の頃にしっかり勉強をして、また進路について考えるべきだった。
- ・ この時代なので早く就職をするべきだと気付いた
- ・ 希望通りではないから
- ・ まだ未定、就職希望ではある。
- ・ 職
- ・ やりたい研究ができない。
- ・ 院の研究室配属の決め方に不満があった。

[11]これまでに受講した科目の理解度はどの程度ですか。

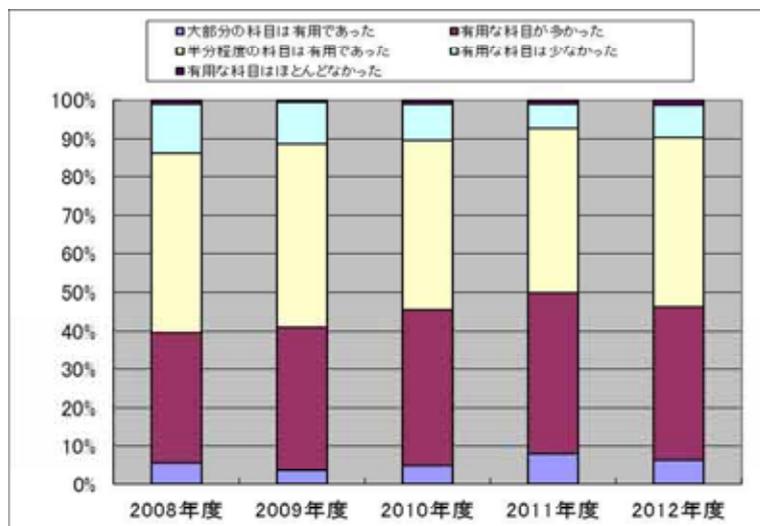
「ほとんどの科目は理解できた」または「理解できた科目が多い」とした回答が、2012年度は10%ほど増加した。一方、「ほとんどの科目は理解できなかった」または「理解できなかった科目が多い」とした回答は、2011年度と同じく10%程度である。改善傾向にある。



[12]履修価値のあった科目の割合についてお尋ねします。

[12-1]受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

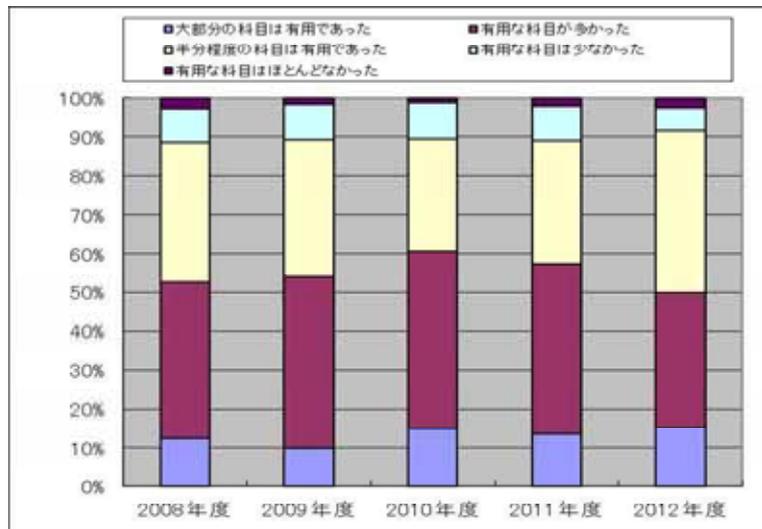
昨年度まで「有用な科目はほとんどなかった」または「有用な科目は少なかった」とする回答は減少傾向、「有用な科目が多かった」または「大部分の科目は有用であった」とする回答は増加傾向にあった。2012年度は、若



干であるが反転した結果となった。今後の動向に注意する必要がある。

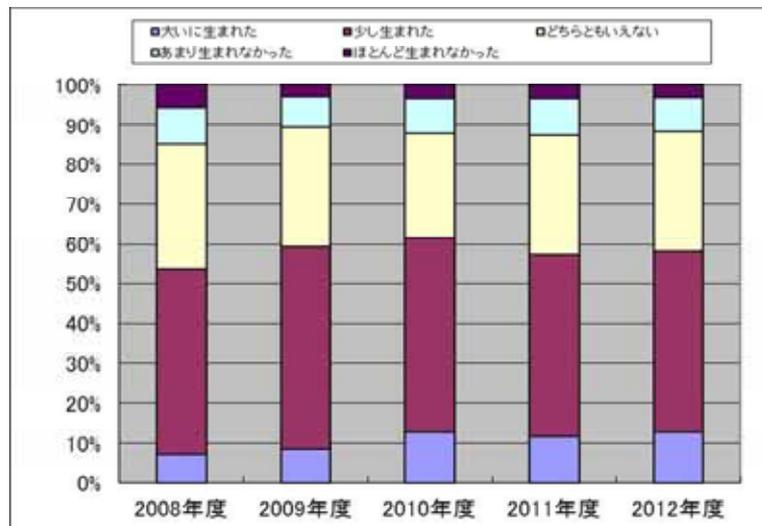
[12-2]受講した実験・実習科目の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「有用な科目はほとんどなかった」または「有用な科目は少なかった」とする回答は 約 10%で推移している。一方、「有用な科目が多かった」は 15%程度を保持しているが、「大部分の科目は有用であった」とする回答は 2012年度に減少した。今後の動向に注意する必要がある。



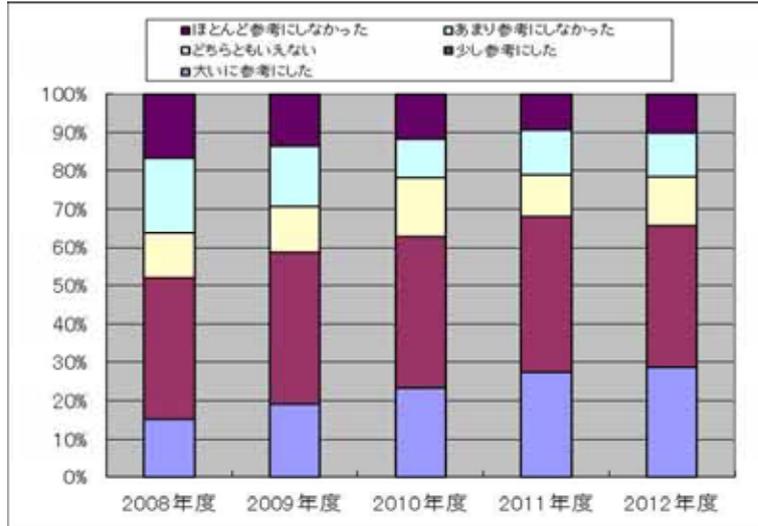
[13]大学における教育により、将来への自信や意欲が生まれませんか。

「ほとんど生まれなかった」または「あまり生まれなかった」とする回答、「大いに生まれた」または「少し生まれた」とする回答には、多少の変動はあるものの、大きな変化は見られない。



[14] 講義科目を選択する際に、シラバスを参考にしましたか。

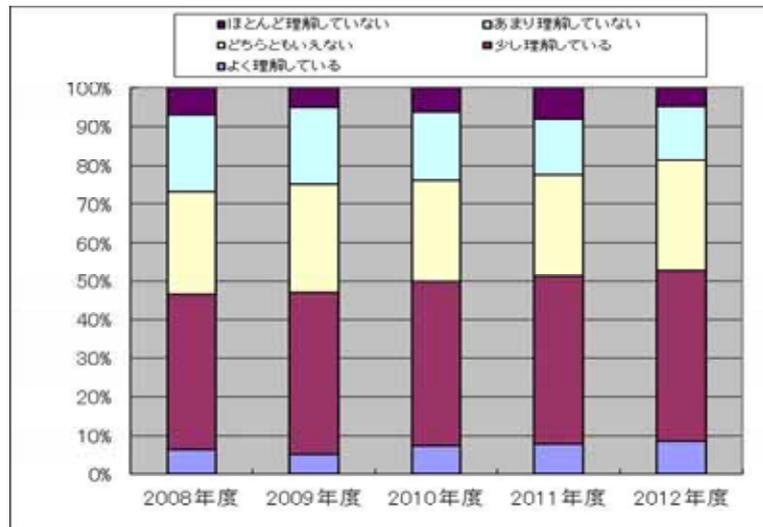
「ほとんど参考にしなかった」または「あまり参考にしなかった」とする回答は徐々に減少し、2010年度以降は20%を若干上回る程度になっている。「大いに参考にした」が増加傾向にある一方で、「少し参考にした」とする回答は減少し、両者の和も2012年度は減少した。ただし、下げ幅は小さい。



[15] カリキュラムについてお尋ねします。

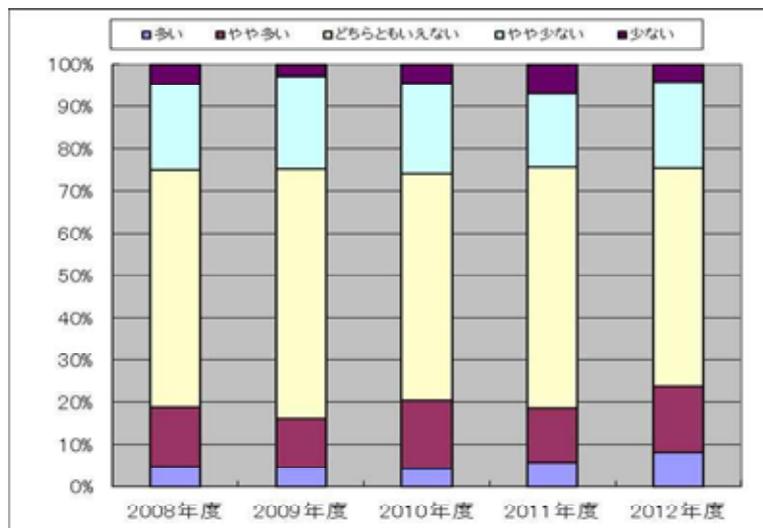
[15-1] カリキュラムの中で、科目間のつながりを理解していますか。

「ほとんど理解していない」または「あまり理解していない」とする回答は徐々に減少し、2012年度は20%を下回った。「少し理解している」または「よく理解している」とする回答は増加傾向にあり、50%を超えている。



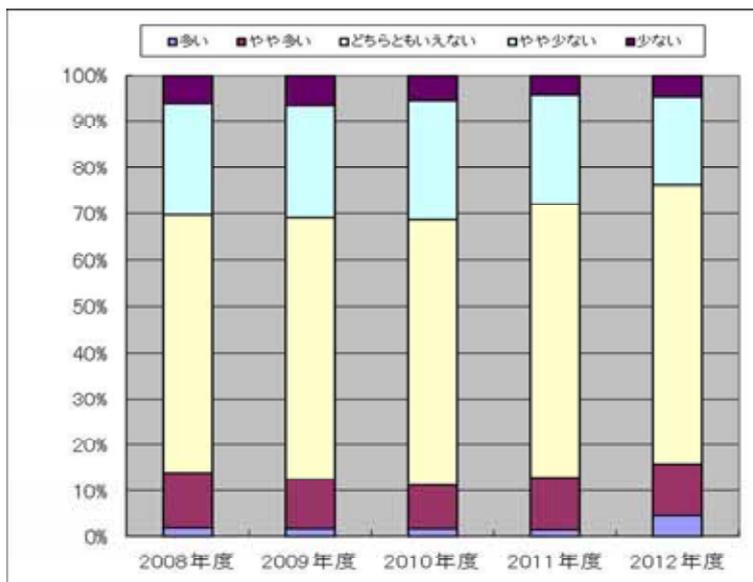
[15-2] カリキュラムの中で、実験・実習科目の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

「少ない」または「やや少ない」とする回答は、25%程度で推移している。「やや多い」または「多い」とする回答は20%程度であるが、2012年度は少し増加した。



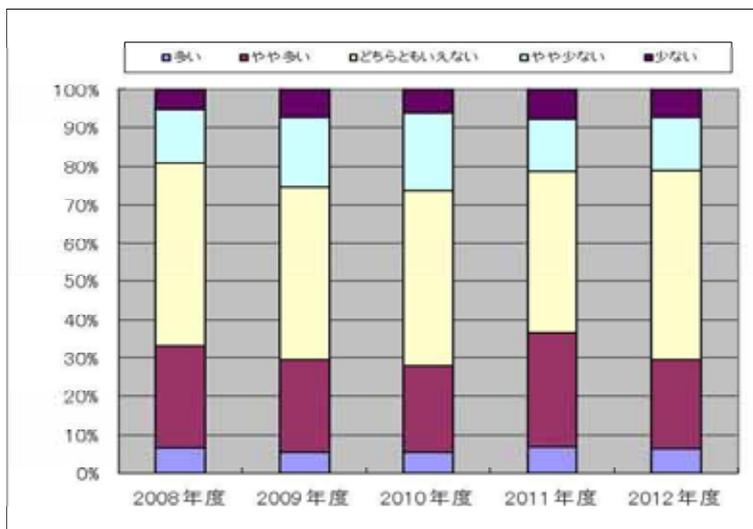
[15-3]カリキュラムの中で、演習時間の比重は多いと感じますか、少ないと感じますか。

2012年度、「少ない」または「やや少ない」とする回答は減少し、「多い」または「やや多い」とする回答は増加した。「どちらともいえない」が過半数を占める傾向は変化していない。



[16]受講した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

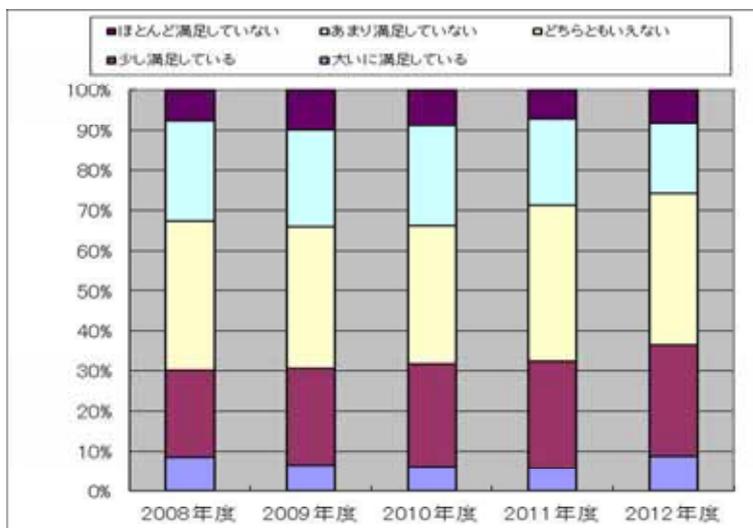
変動はあるものの、「多い」または「やや多い」とする回答が30%前後、「やや少ない」または「少ない」とする回答が20%程度で推移している。



[17]成績評価についてお尋ねします。

[17-1]成績評価(秀、優・良・可・不合格・未履修)に満足していますか。

「大いに満足」または「少し満足」とする回答は、徐々に増加している。一方、「あまり満足していない」または「ほとんど満足していない」とする回答は2010年度から減少している。改善傾向が見られる。



[17-2][17-1]でD（あまり満足していない）またはE（ほとんど満足していない）と答えた方：その理由は何ですか。

種々の理由が挙げられている。自己反省的な内容も多い。また、大学側で確認・検討すべき事項も見られる。

- ・ もっと上の成績をとることができたと思うから。
- ・ 勉強不足
- ・ もっと努力できたであろう授業が多かった。
- ・ もう少し成績を伸ばすことができるはずだったから
- ・ GPAが低い
- ・ もう少しがんばれたと思う
- ・ まじめに勉強に取り組んでいなかったから
- ・ 成績が悪かった
- ・ 思うように単位修得ができなかった
- ・ GPAが悪い
- ・ もう少し、自分が頑張ればよかったなと思う。
- ・ 全力で取り組めていなかった。
- ・ 留学した際に、受入先大学の学期始めが九工大のテスト期間と重なった。教授に聞くと、単位を落とす他はないと言われた。留学を勧めているのに、大学の留学へのシステム構築がされていなく、結果的にその期のGPAは非常に下がったため。
- ・ 1年次の成績が悪すぎたため。
- ・ 成績がかんばしくない
- ・ テスト前しか勉強しなかったから
- ・ もっと頑張れた
- ・ 勉強に真面目に取り組んでいなかったから
- ・ 目標としているGPAに達していないから
- ・ 成績があまり良くないため
- ・ 悪かったから。
- ・ 成績が悪かったから
- ・ 全体的に低い
- ・ 落とした単位があった
- ・ テストの点はあまり気にしていないから。
- ・ 悪かった
- ・ 2年次に良い成績がとれなかった。
- ・ 専門分野での科目の成績があまりよくなかったから。
- ・ GPAが低く、研究室配属の際、不利だった。また、就職においても不利だと思う。
- ・ 評価が悪い
- ・ 1年生のときに、GPAによって研究室や企業のすいせん、院試に有利になるということを教えてほしかった
- ・ あまり勉強していなかったため
- ・ 多分、いいかげんだから
- ・ 最初の頃、勉強していなかった

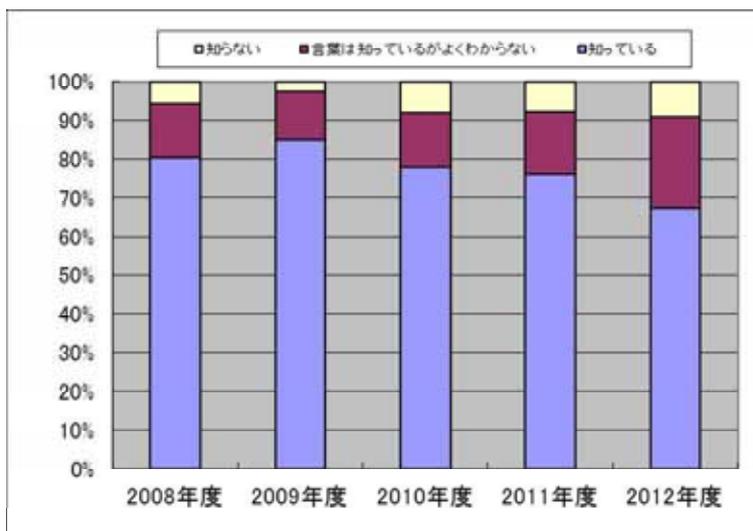
- ・ GPAは3.5以上ほしかった。やはりバイトしすぎてはならないと感じた
- ・ 院試勉強が大変だったため。
- ・ 勉強をする時間が短く成績が良くなかったから
- ・ 自分でサボったりして成績を下げてしまったから
- ・ 真剣に勉学に励むべきであったと後悔しているから。
- ・ 単位数が少ない
- ・ GPAが1点台である為
- ・ アルバイトをしすぎて学業に専念できなかったため
- ・ 良いときと悪いときの差が激しく、全体的に見ると悪かったから。
- ・ 成績が悪かった。
- ・ あんまり勉強しなかったから。
- ・ 単純に成績が悪い
- ・ 再試を数度受けたにもかかわらず、ある科目の単位を落としたこと。
- ・ もっと勉強しておけばよかったと後悔している
- ・ 1,2年時に遊び過ぎたこと。
- ・ あまり勉強しなかったから
- ・ クラスが分かれていると、先生によって成績が異なることがある。再試なのに点数成績が良いことがある。
- ・ 留年いっぱいした
- ・ GPAが低かった
- ・ もう少し努力できた。
- ・ 低かったから
- ・ 自分の努力不足
- ・ 勉強不足
- ・ 総シスは授業が簡単すぎる
- ・ 自発的な学習ができなかったため成績がついてこなかった。
- ・ 勉強をもう少しちゃんとするべきだった。
- ・ 自分
- ・ 悪かったから。
- ・ 悪いから
- ・ 特に解析学で、先生によって成績にバラつきがでるのはおかしい。章末からのみ+持ち込み可とかテストではない。不平等だ。
- ・ 先生によってバラバラ
- ・ まじめに勉強して65点、カンニング、レポートの写しをやって95点、頭に来る。ふざけんな。
- ・ 小テストの内容と評価方法に不満、実験科目と他の科目で両立できない部分があった。
- ・ バイトと勉強の両立が上手く出来なかった。
- ・ 普通すぎる
- ・ 良くなかったため
- ・ GPA や院試で苦労した
- ・ もう少しがんばれた
- ・ 再履修、可が多かった

- ・ 自身の取り組み方が甘かったと反省しています。
- ・ 体調を崩し、大事な試験に行けなかったことで留年につながったため
- ・ 勉強不足
- ・ 2 クラス授業で、先生によって授業の行い方が大いに異なり、クラス間の成績差を感じた。
- ・ 低い
- ・ もっと3年までに努力すればよかった
- ・ 学年を追うにつれて成績が下がってしまったから。
- ・ バイトとの両立
- ・ 理解度が低いため
- ・ 満足できる点を取れなかったから。
- ・ 可ばかりだから
- ・ 評価のしかた
- ・ もっと頑張れた。
- ・ 努力が認められなかった教科があった
- ・ 自分が全力で勉強に取り組んだとは言い難い
- ・ 思った結果が出なかった。実験を真剣にやっていない人より点数が低かった(自分は真剣にやってレポートの点数も高かった)
- ・ 成績が低かったから
- ・ 良くないから
- ・ 自分に厳しくしていればもう少し良い成績を取れたと思うから
- ・ 注意力と集中力の無さ
- ・ 単位を取得する程度にしか勉強してなかった。
- ・ 良くないから
- ・ 教員によって差が出る。
- ・ 飽く無き向上心
- ・ 可、良が多かった
- ・ 成績が良くない
- ・ 点数が低かった
- ・ 教員の性格に難があるため
- ・ 留年したので
- ・ あまりよくないから
- ・ 成績あんまりよくないから
- ・ 点が悪かったから
- ・ もっとやれたと思う
- ・ 勉強不足
- ・ 自分に甘かった
- ・ 自分自身が思うような成績がでなかったから。
- ・ 進学するにしたがって、成績が下がったから
- ・ 理解してないのに、GPA が高かったりしてたから

[18] オフィスアワー（質問・相談時間）についてお尋ねします。

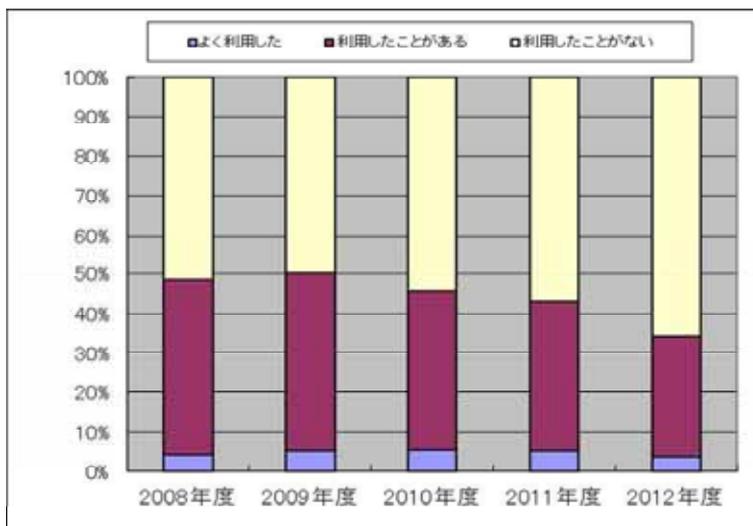
[18-1] オフィスアワーという制度を知っていますか。

「知っている」が多数を占め、かなり周知されてはいるものの、その率は減少にある。また、「知らない」とする回答も10%近くあり、改善の余地は残っている。



[18-2] オフィスアワーを利用して、教員に質問した経験がありますか。

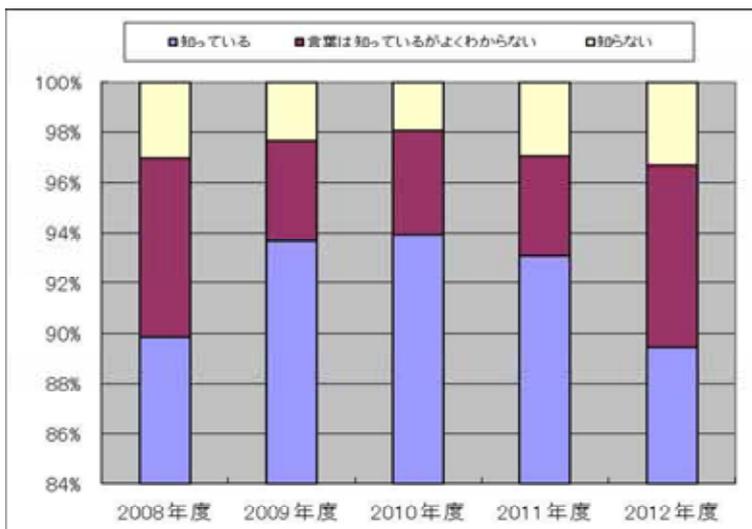
「よく利用した」または「利用したことがある」とする回答が、2009年度の50%をピークに徐々に減少し、「利用したことがない」が増加している。改善の余地がある。



[19]ティーチングアシスタント（TA）についてお尋ねします。

[19-1]ティーチングアシスタント（TA）という制度を知っていますか。

TA制度を「知っている」と回答した者が多数を占めており、認知度は十分高いものの、その割合は2010年度以降若干減少している。TA制度は定着していると考えられるが、今後の動向に注意しておく必要がある。



[19-2]ティーチングアシスタント（TA）に指導してもらった経験がありますか。（複数回答可）

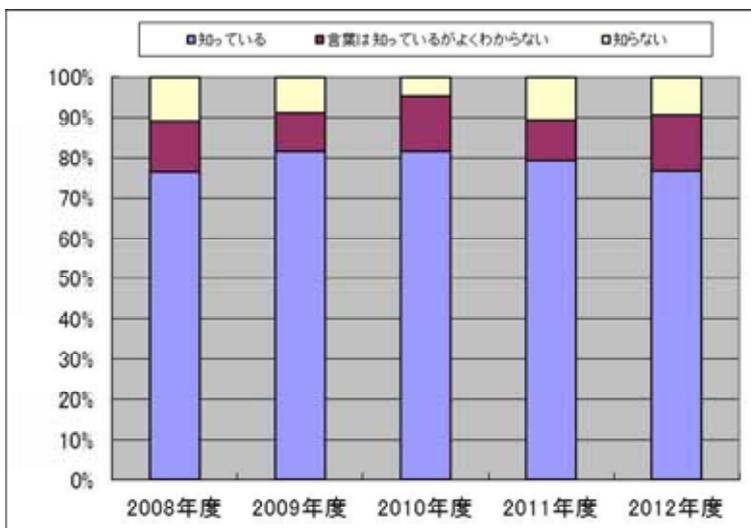
「演習」「実験・実習」「講義時間外」のいずれかで指導を受けたとする回答が90%を超えており、TA制度は定着している。



[20]指導教員制度についてお尋ねします。

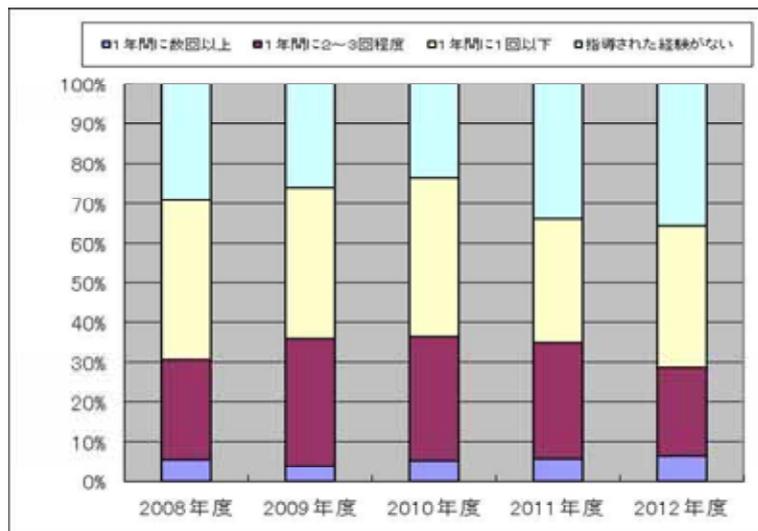
[20-1]指導教員制度を知っていますか。

「知っている」とする回答は、80%前後で推移している。一方で「知らない」、「言葉は知っているがよくわからない」の回答が20%程度ある。改善の余地がある。



[20-2] 1年生から3年生の間に、指導教員から指導やガイダンスを受けた経験がありますか。(受けた経験のある方は、1年間の平均的な回数を答えて下さい。)

「指導された経験がない」との回答が、2011年度以降1/3ほどいる。改善の余地がある。



[20-3][20-2]でA(1年間に数回以上)、B(1年間に2～3回程度)、C(1年間に1回以下)のいずれかを答えた方: 1年生から3年生の間に、指導教員から指導を受けた内容を答えて下さい。(複数回答可)

多岐に渡っているが、進路関係の内容が目立つ。



E(その他)[具体的に]

- ・ 進路
- ・ 奨学金について(三井)
- ・ 進路
- ・ 目標としている就職先に就職する為の勉強法等
- ・ 就活に関して。
- ・ インターンシップ、大学生活etc。
- ・ 大学をやめるかどうか

- ・ 成績の状況や進路について。
- ・ 将来の進学や就職のこと
- ・ 覚えていない
- ・ 大学編入を考えた際、相談に乗っていただいた
- ・ 取得するとよい資格など
- ・ 進路について
- ・ 覚えていない
- ・ 就職について
- ・ 学生の生活など、プライベートな事については一切ふれず、ただひたすら罵倒された。『年収 200 万の生活で良いのか?』が口ぐせだった。
- ・ 進路について
- ・ 進路
- ・ 就職活動について
- ・ 追試のお知らせ
- ・ 就職活動について
- ・ 就職関連
- ・ 就職について
- ・ 進学力、就職について
- ・ コース決めについて
- ・ 最初の顔あわせのみ。(1年生の初め)
- ・ 学生実験
- ・ 実験

[21]施設や設備等についてお尋ねします。

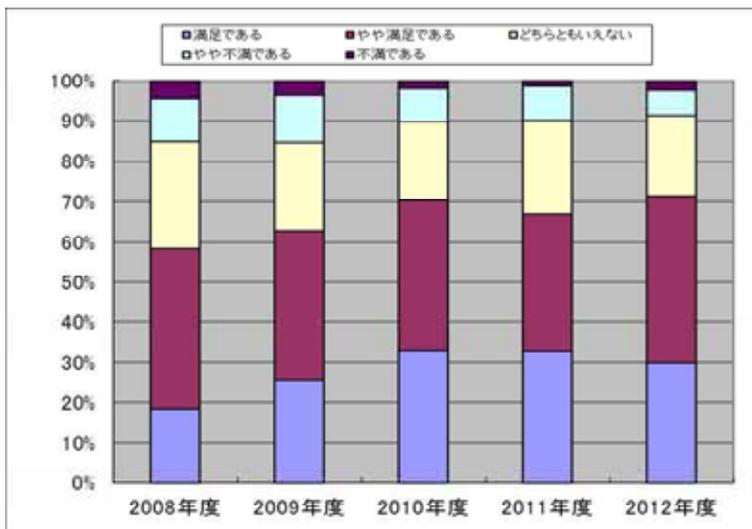
[21-1]教室の広さ、席数、明るさ等について、満足していますか。

「不満である」または「やや不満である」とする回答は徐々に減少し、2012年度は10%を下回った。一方、「満足である」または「やや満足である」とする回答は、変動しつつも増加傾向にあり、2012年度は70%を超えた。



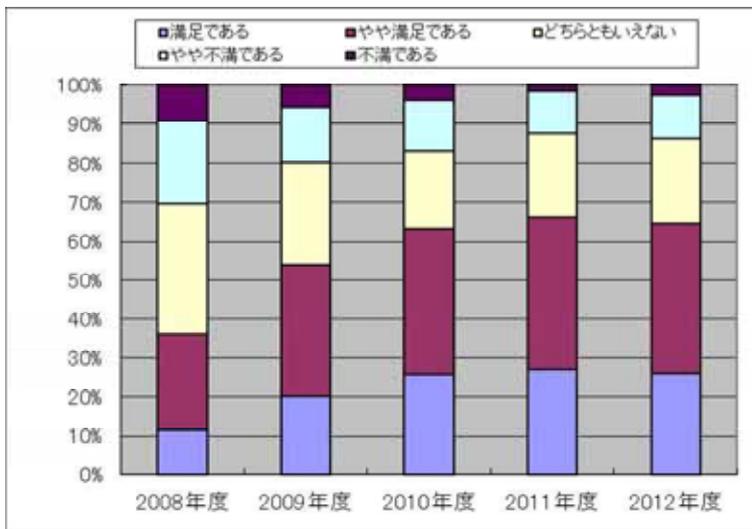
[21-2]必要な設備(マイク、OHP、プロジェクタ等)に満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2010年度以降は70%程度で推移している。「やや不満である」または「不満である」とする回答は、2010年度以降、10%程度に留まっている。



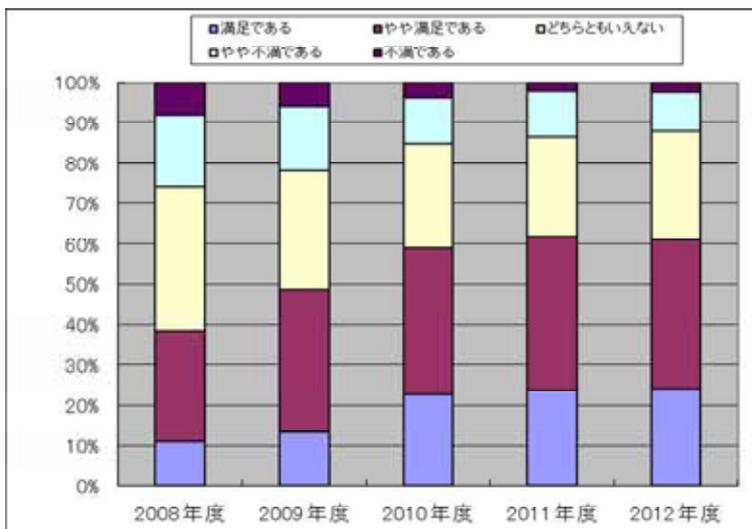
[21-3]1年生から3年生の間に利用した実験室・実習室の広さ、明るさ等について、満足していますか。

「満足である」または「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2010年度以降は60%を超えている。一方、「やや不満である」または「不満である」とする回答は10%近くまで減少している。



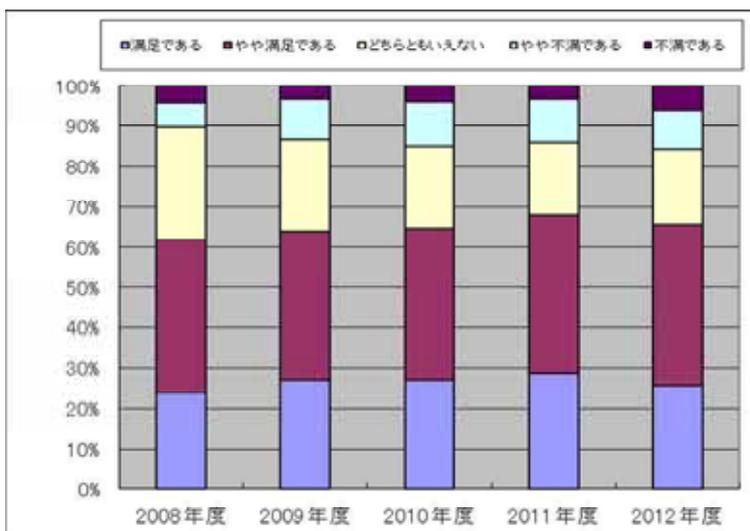
[21-4]1年生から3年生の間に利用した実験・実習に必要な設備・装置について、満足していますか。

「満足である」「やや満足である」とする回答は順調に増加し、2010年度以降は60%前後で推移している。一方、「やや不満である」「不満である」は減少し、10%近くまで減少している。



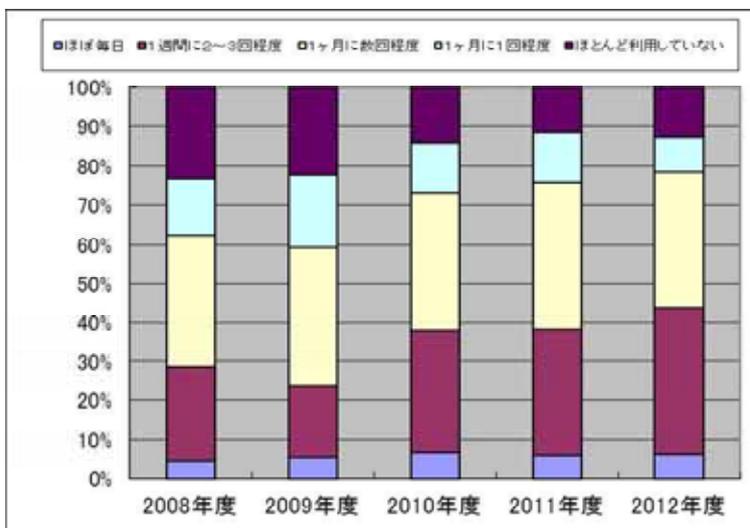
[22-1]情報機器（コンピュータ端末等）の整備状況について満足していますか。

昨年と比べて「不満である」が増加している。個人用情報端末の所有が増えており、活用の増加に伴って不満が出てきていると思われる。具体的な不満内容について、調査・検討する必要がある。



[22-2] 1年生から3年生の間に、講義以外でネットワークや情報サービス（ソフトウェア、教材を含む）を、どの程度利用しましたか。

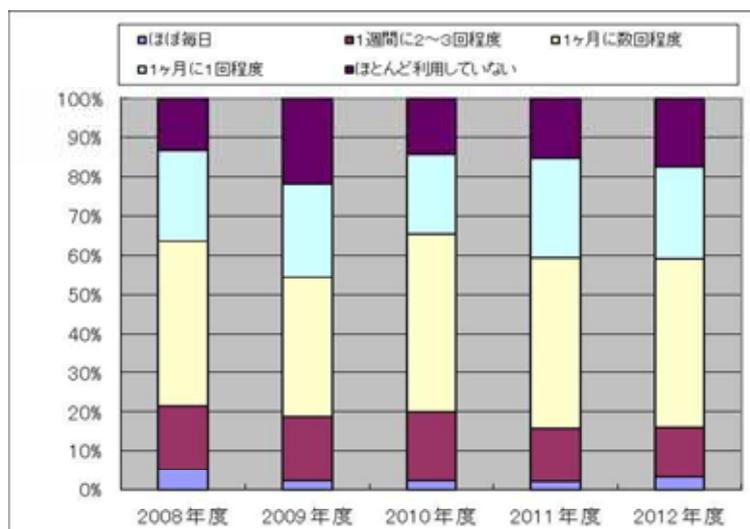
「ほとんど利用していない」が若干増加しているが、全体的にはほぼ横這いである。講義以外での利用も定着しつつあると考えられる。



[23]図書館についてお尋ねします。

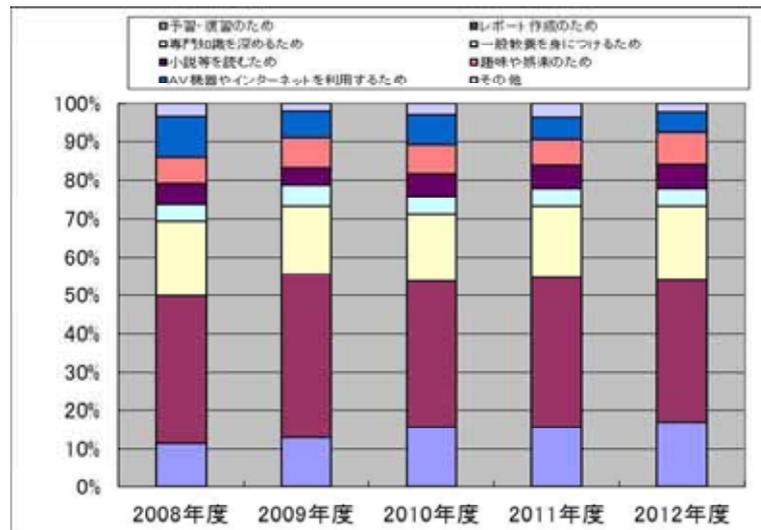
[23-1]図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

2010年度以降、「ほとんど利用していない」の割合が増加しつつあり、今後推移を注視する必要がある。また、電子的な図書・論文が容易に手に入る現代において、大学の図書館の役割や規模、組織についての再検討も今後必要。



[23-2]図書館を利用する主な理由を答えて下さい。（複数回答可）

ほぼ横這いであるが「趣味や娯楽のため」の利用率が若干増えている。ただ、「予習・復習のため」や「一般教養を身につけるため」などの利用で80%弱を占めており、おおむね良い傾向である。



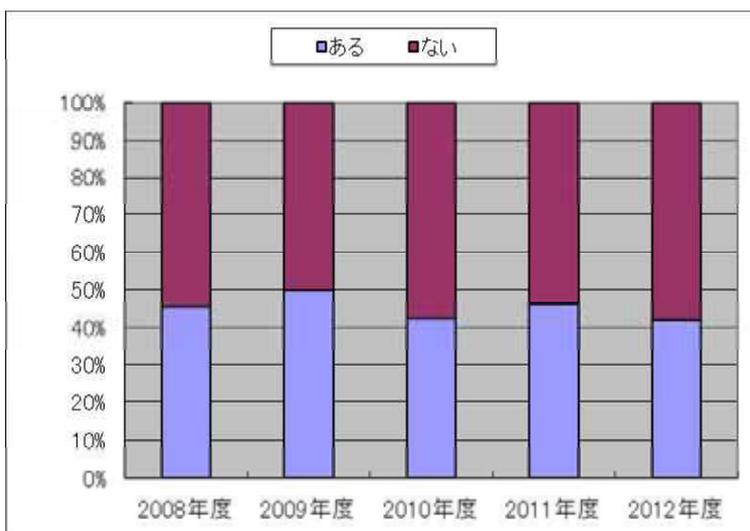
H (その他) [具体的に]

- ・ 英語学習
- ・ 静か
- ・ 昼寝
- ・ 新聞を読むため
- ・ テスト勉強
- ・ 英語の勉強のため
- ・ テスト勉強
- ・ テスト勉強
- ・ 研究に関する文書を見るため
- ・ PCを使用するため
- ・ 新聞
- ・ 休憩
- ・ 試験勉強
- ・ 試験勉強

[24]工場見学やインターンシップ(工場実習)についてお尋ねします。

[24-1]工場見学やインターンシップに参加した経験がありますか。

半数以上の卒業生がインターンシップを経験しておらず、経験している割合も増加していない。今後人数の増加に向けた対策として、キャリアセンターの活用が重要と思われる。



[24-2][24-1]でA(ある)と答えた方。工場見学やインターンシップに参加した経験が、自分自身の成長のために有意義であり、履修した価値がありましたか。

70%以上のインターンシップ経験者が有意義と答えており、キャリアセンターを活用し、経験する機会を増やすことが重要。



2.2 2012年度修了生アンケート（工学府・工学研究科）

アンケート実施年月日 平成25年2月22日

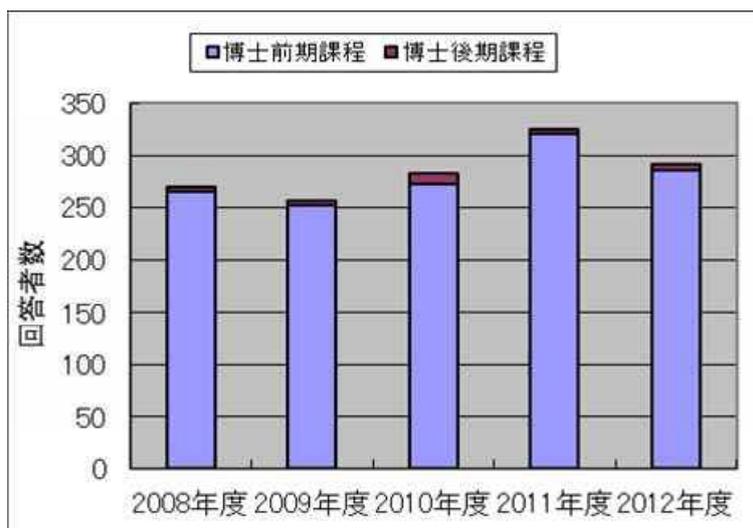
アンケート回収率

課程	配付枚数	回収枚数（回答率）
博士前期課程	342枚	287枚（83.9%）
博士後期課程	11枚	5枚（45.4%）

[1]あなたの課程、専攻についてお答え下さい。

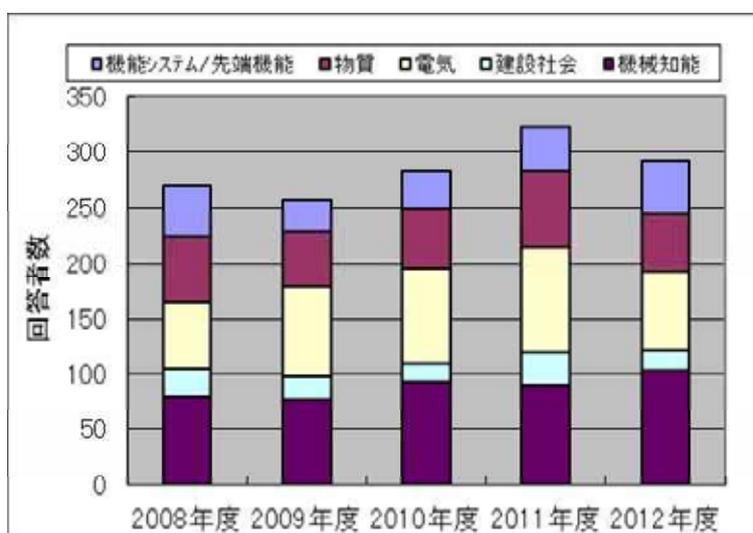
[1-1]あなたが修了される課程
は何ですか。

A（博士前期課程）287名
B（博士後期課程）5名
90%近くあった博士前期課程の回答者数が減少した理由を調査する必要がある。博士後期課程は配布数が少ないのであるから、アンケートの趣旨を理解してもらい、回答率を上げるための努力は必要である。



[1-2]あなたが修了される専攻
は何ですか。

機械知能 : 103名
建設社会 : 18名
電気電子工学 : 71名
物質 : 52名
先端機能システム : 47名



[1-3]飛び級入学の方は[]に
を入れてください。 [1名]

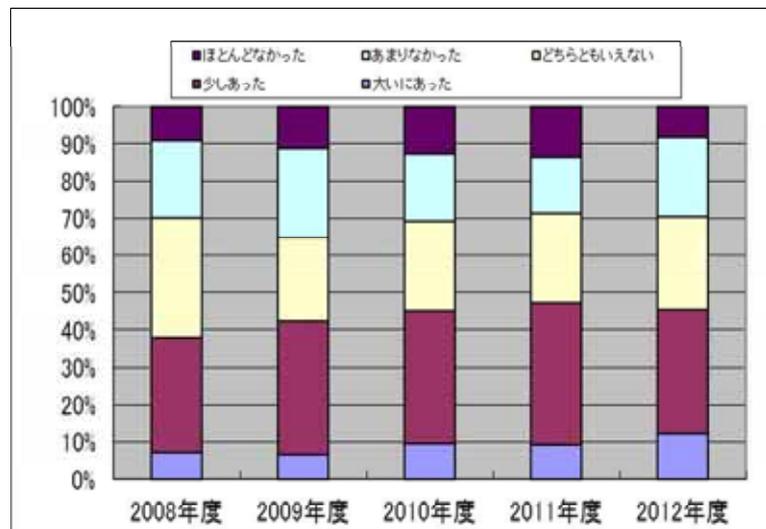
飛び級の入学者は1名であった。飛び級は多ければよいというものではないが、どのような理由で対象者が飛び級を行わなかったかなど調査し、制度を見直すことも検討が必要。



[2]工学府・工学研究科における大学院教育があなたの成長(自己形成)に及ぼした効果についてお尋ねします。

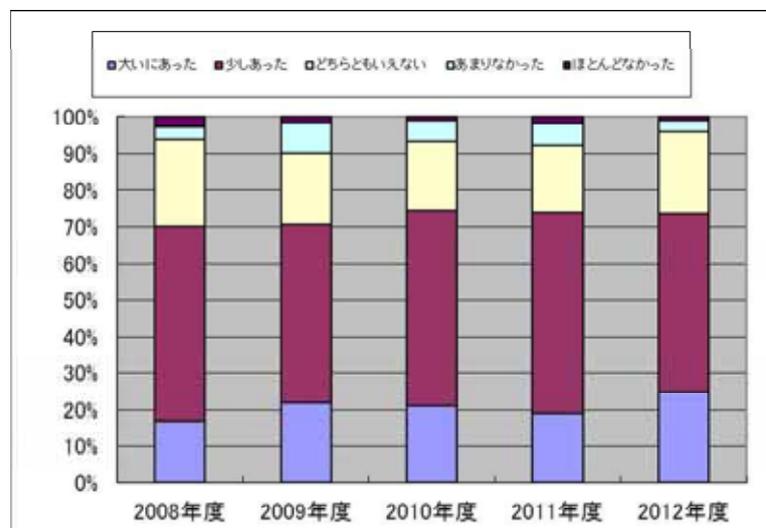
[2-1]外国語科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。
(受講生のみ)

昨年と比べると効果があったと回答した学生と、なかったと回答した学生の比率は、ほぼ横這いである。今後も、社会人になった時に外国語でのコミュニケーション能力が重要であることを認識させて行く努力が必要である。



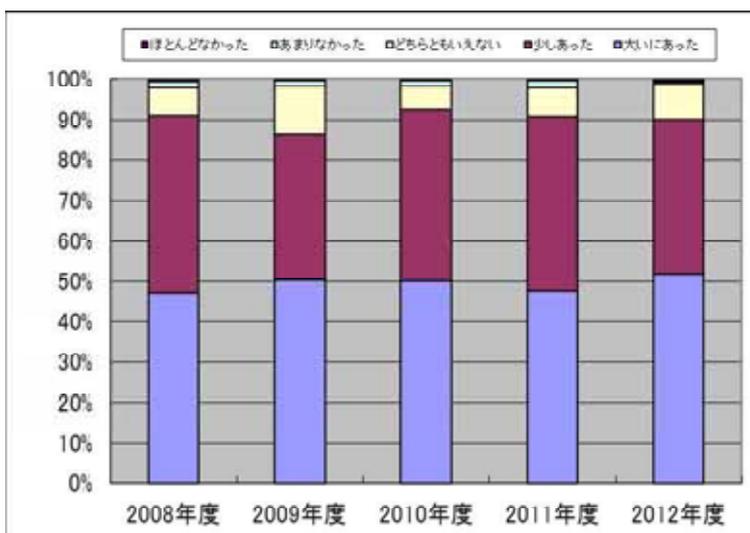
[2-2]共通科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

「どちらともいえない」の比率がやや増加したが、共通科目の教育効果については、「少しはある」以上が70%の水準にあり、一定の効果を果たしていると思われる。



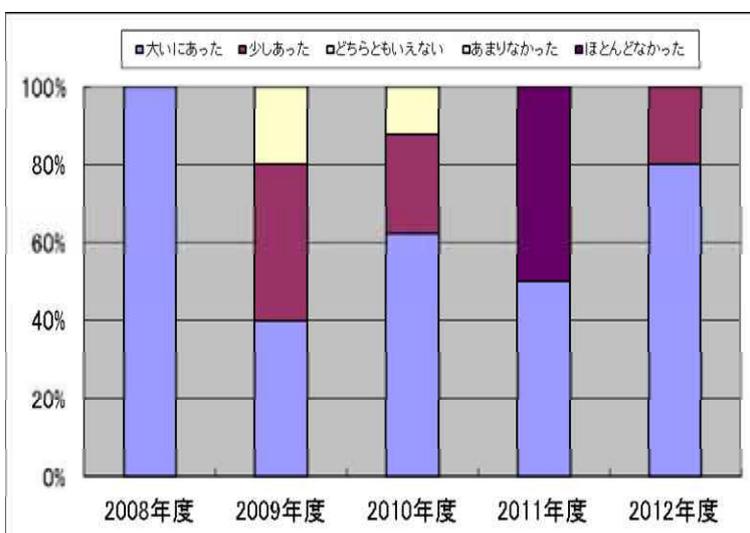
[2-3] 専門科目はあなたの自己形成に効果がありましたか。

「大いにあった」と「少しあった」で90%以上ということから専門科目の自己形成に対する高い影響力がうかがえる。また、昨年50%下回っていた「大いにあった」が、回復していることは良い傾向である。



[2-4] 学外研修・特別演習はあなたの自己形成に効果がありましたか。(博士後期課程の方のみ)

5名中4名が「大いにあった」で他の1名も「少しあった」と答えている。本人の自己努力によるところもあるが、100%「大いにあった」になるべきであろう。



[2-5] プロジェクト研究はあなたの自己形成に効果がありましたか。(博士後期課程の方のみ)

回答した全員が「大いにあった」と評価しているので、一定の効果があったと判断できる。



[2-6] 学位（修士・博士）論文のための取組みはあなたの自己形成に効果がありましたか。

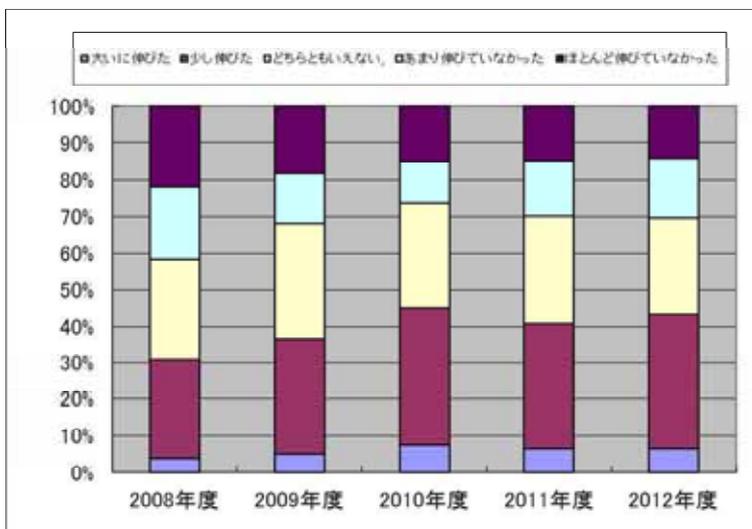
「どちらともいえない」「あまりなかった」が近年徐々に増えてきており、注意が必要である。この傾向が続くようであれば、対応が必要になるかもしれない。



[3] 英語力についてお尋ねします。

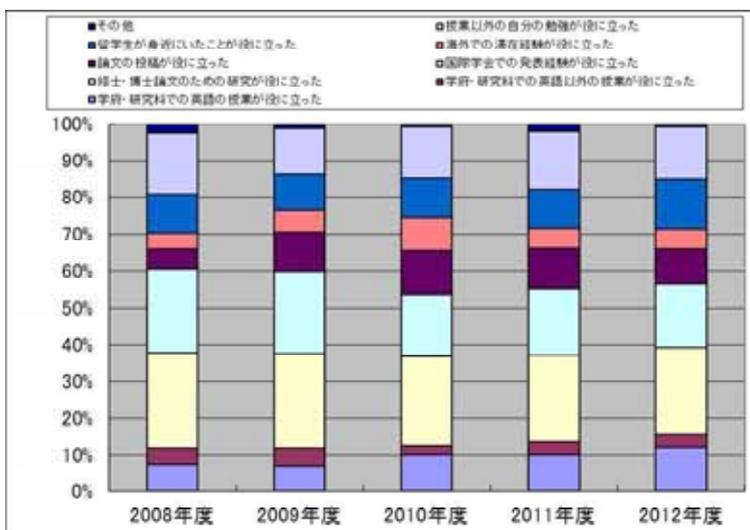
[3-1] 研究科の在学期間でああなたの英語力は伸びましたか。

昨年とほぼ同じ傾向である。英語力に関しては自己努力による部分も大きい、「あまり伸びていなかった」「ほとんど伸びていなかった」が減るよう、講義中にも努力を促す必要がある。



[3-2][3-1]でA（おおいに伸びた）またはB（少し伸びた）と回答された方：その理由は何ですか。（複数回答可）

ここ5年間で全体の比率に大きな変化はない。「留学生が身近にいたことが役に立った」がやや増加しており、ライティングやリーディングだけでなく、英語を話す機会が増えることは好ましいことである。さらに英語にふれあう機会を増やすことが必要と思われる。



I (その他) [具体的に]

- ・ 英語論文を読む機会が多かった。
- ・ 英語の論文を読むため。

[3-3][3-1]でD(あまり伸びていない)またはE(ほとんど伸びていない)と答えた方:その理由は何ですか。

社会に出てからの英語の必要性の認識不足、英語学習に対する努力の不足を自分自身で感じている。これからの社会での英語の必要性を強く認識させるとともに、「英語力」を必要とする機会を増やす方策が望まれる。

- ・ 特に取り組んでいない為。
- ・ 興味が無い。
- ・ 英語を使う機会が無かったため。
- ・ 英語の授業が無くなり、自ら勉強しなくなった。
- ・ つかわない。
- ・ 勉強していないため。
- ・ 英語を使用しなかったため。
- ・ 英語を使う機会があまり無かったため。
- ・ 勉強する気が起きなかったから。
- ・ 勉強しなかった。仕方がわからない。
- ・ TOEICを受けなかったのではわからない。
- ・ 学習時間をあまりとっていなかったから。
- ・ 使っていないから。
- ・ 英語をあまり勉強していない。
- ・ 英語が一年間しかなくその間は上がるかもしれないが、それから時間が空くと落ちてくる。
- ・ TOEICの点数が悪い。
- ・ 取り組む時間が少なかった。
- ・ 英語を使わないから。
- ・ 英語を話す場は度々あったが、向上しているとは言えない。
- ・ 英語を使う機会が頻繁に無かったため。
- ・ あまり積極的には取り組んでいなかったため。
- ・ 英語の授業の時間が少ない。
- ・ 専門の英語しかやっていないので。
- ・ 勉強不足。
- ・ 英語を使わなかったから。
- ・ あまり英語に取り組んでいなかったから。
- ・ 英語に関わるのが少ないから。
- ・ 英語に触れる機会がなかったため。
- ・ TOEICの点数があまり伸びなかったから。
- ・ 特別なことはしていない。
- ・ 英語学習に時間をとっていないため。
- ・ 勉強する必要性を感じなかった。
- ・ 英語に触れる機会が少なかったから。

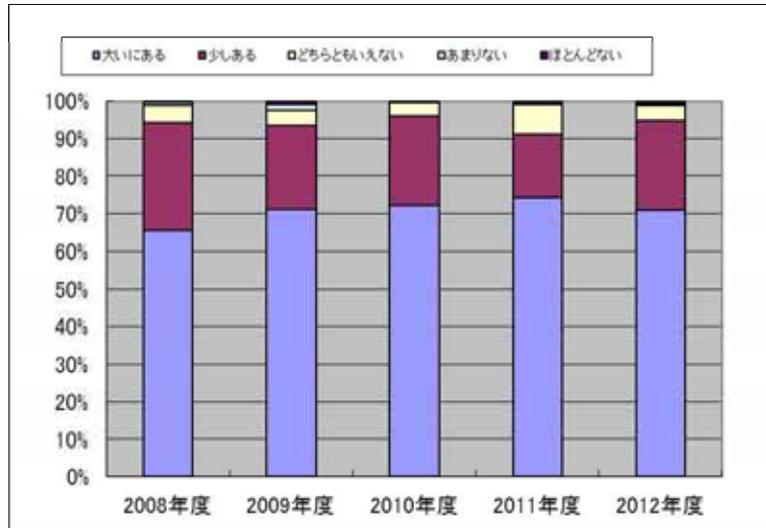
- ・ 英語に触れる時間が少なかった。
- ・ 英語に関する授業をほとんど受けなかったため。
- ・ 英語に取り組まなかったから。
- ・ 英語を身近に感じる事ができず、必要だとイメージできなかったから。
- ・ 読むのがメインで、会話がなかったため。
- ・ 勉強していない。
- ・ 英語に触れる機会が減ったから。
- ・ 嫌い。やりたくない。
- ・ 授業以外で英語を使う機会が少ない。
- ・ 英語の授業の内容があまり実践的でなかったから。
- ・ 覚える気が無い。
- ・ 何もしなかった。
- ・ 触れる機会が少なかった。
- ・ 自主的に勉強しなかったから。
- ・ 英語に触れる機会はさほど増えていない。
- ・ この期間で身についたのは、専門的な英単語の意味程度だから。
- ・ 英語の勉強をする時間が無かった。
- ・ 意欲が湧かなかった。
- ・ 論文を読むなどはあったが、実際に英語を使用するということがほとんどなかった。
- ・ 英語に触れる時間、機会が少なすぎる。
- ・ 自分の学習不足。
- ・ それ程、英語に触れる機会がなかったから。
- ・ 授業をあまり受けていなかった。
- ・ 特に英語力向上のための取り組みを行っていないため。
- ・ 英語の勉強をしなかったから。
- ・ 勉強を進んでしなかったから。
- ・ 学府に在学していたからと、英語を使う期間が特にない。自分自身のためには勉強した。
- ・ 工業英語を学べたが、暗記(耳についた)とは言えないから。
- ・ 授業以外で取り組む機械がないため。
- ・ 自分が語学力を磨くために時間を使わなかったため。
- ・ 英語を他の場面で使用する事がなかったため。
- ・ 勉強しなかった。
- ・ あまり勉強していない為。
- ・ 英語の論文を読むことはあるが、会話を出来る勉強をしなかったため。
- ・ 英語の論文は読むが、日常的に使うことが無かった。
- ・ 実用的な英語を学ぶ機会が無い。
- ・ 英語力をみる機会がなかった。
- ・ 英語に触れる機会があまりなかったため。
- ・ 英語の授業が有意義でなかったため。
- ・ 日常的に使う場面がなかったから。
- ・ 使う機会がなかった。

- ・ あまり力のつくような授業内容ではなかった。
- ・ やる気がなかったから
- ・ 集中して勉強することがなかった。

[4]学位（修士・博士）論文のための取組みについてお尋ねします。

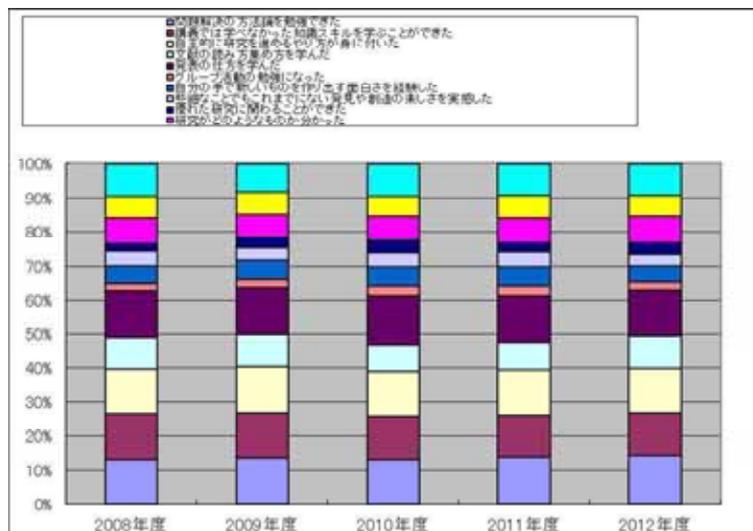
[4-1]学位論文の意義はあると思いますか。

昨年度10%程度いた学位論文に意義を見出せない学生が、減少したことは良いことであるが、このまま動向を注意して見ていく必要はある。



[4-2][4-1]でA（大いにある）またはB（少しある）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

こ5年間比率に大きな変化はなく、課題解決の方法論、講義では学べない知識・スキルの取得、文献の読み方・集め方、発表の仕方が上位を占めており傾向は変化していない。



N（その他）[具体的に]

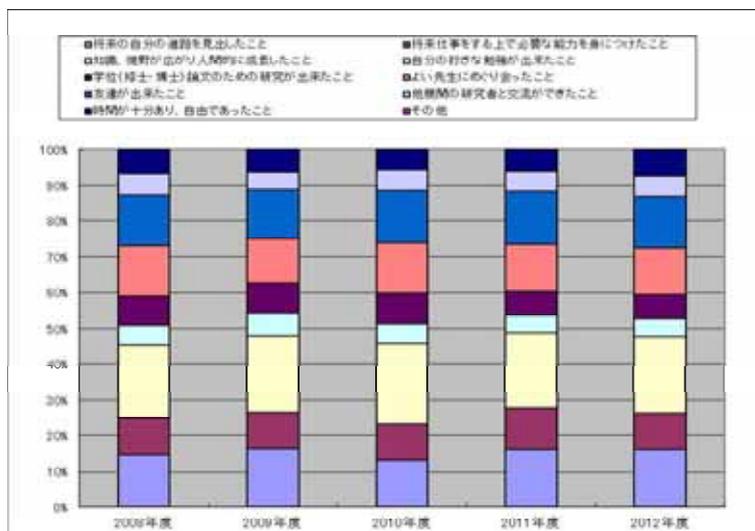
- ・ 単位数が割に合わない。
- ・ 相手に対する意見の伝え方が学べた。
- ・ 社会勉強になった。

[4-3][4-1]でD（あまりない）またはE（ほとんどない）と答えた方：その理由は何ですか。（複数回答可）

- ・ 分野がマイナーすぎて将来の役に立つかわからない。

[5] 学府・研究科生活を振り返って、どのようなことが良かったと思いますか。（複数回答可）

昨年度とほぼ同じで「将来の自分の進路を見いだした」と「知識・視野が広がり人間的に成長した」、「友達ができた」、「良い先生に巡り合えた」などが割合的に多く、研究生活が人生の一つの大きなかなめになっていることが分かる。



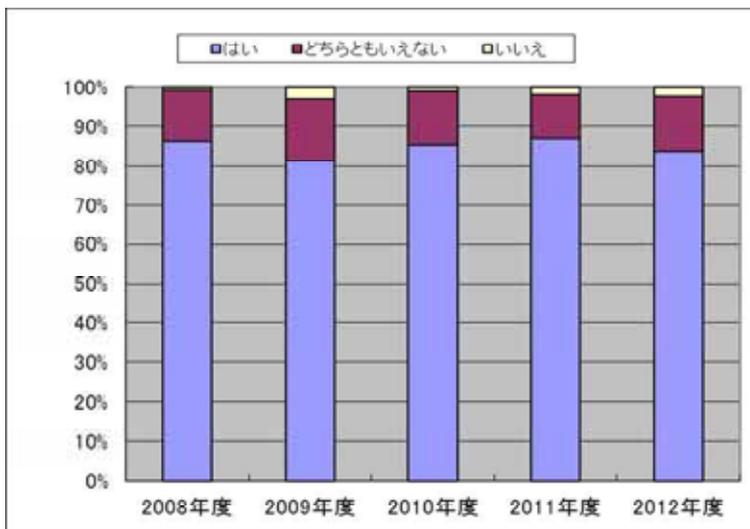
J (その他) [具体的に]

(回答者なし)

[6] 入学した専攻についてお尋ねします。

「はい」が高い値を維持しており、院生の意識の高さがうかがえるが、「いいえ」と答えた学生が増えていることは注意が必要である。[6-2]で理由を見ると、主に就職との関係が「いいえ」と答える理由となっているようである。

[6-1] 現在の専攻に入学してよかったと思いますか。



[6-2] [6-1]でC (いいえ) と答えた方：その理由は何ですか。

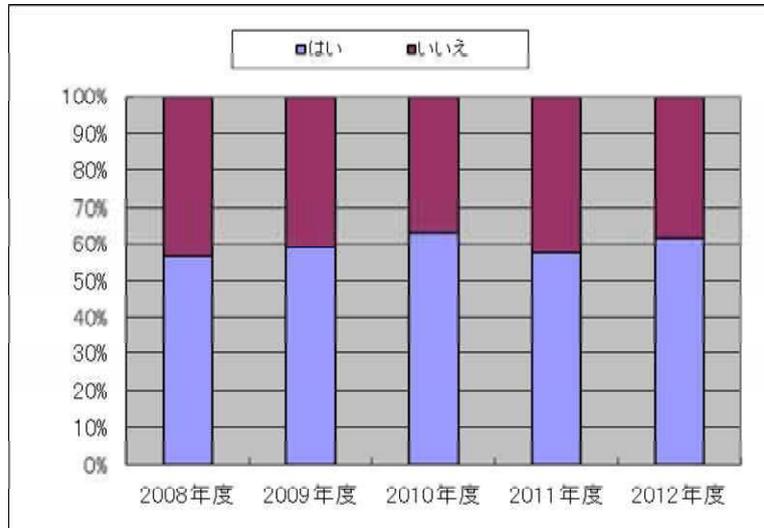
- ・ 先生が人間的に劣っている人が多い。
- ・ 難しすぎて理解できない。
- ・ もう少し授業が多いほうがいい。
- ・ 電気、機械の方が就職先がない。

- ・ 電気工学科の方が就職に有利だったため。
- ・ 就職活動に不利だから。

[7]進学時の目標についてお尋ねします。

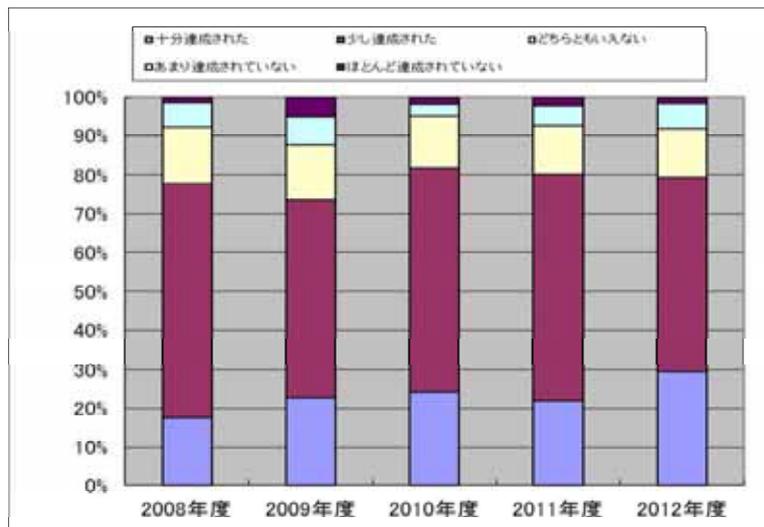
[7-1]あなたは進学の際に研究科で達成したい目標がありましたか。

目標を持って進学した院生の割合は60%以上あるが、もう少し比率が大きいことが望ましい。さらに増加をさせる努力をしつつ、今後の推移を見守る必要がある。



[7-2] [7-1]でA(はい)と回答された方。現在どの程度達成されていますか。

達成感を有している院生の割合は80%程度と、達成されたと感じている学生の割合が多い。また、「十分達成された」が増えていることは非常に好ましい傾向である。



[8]学府・研究科在学中の学生生活の満足度に対して100点満点で点を付けるとすれば何点と思いますか。

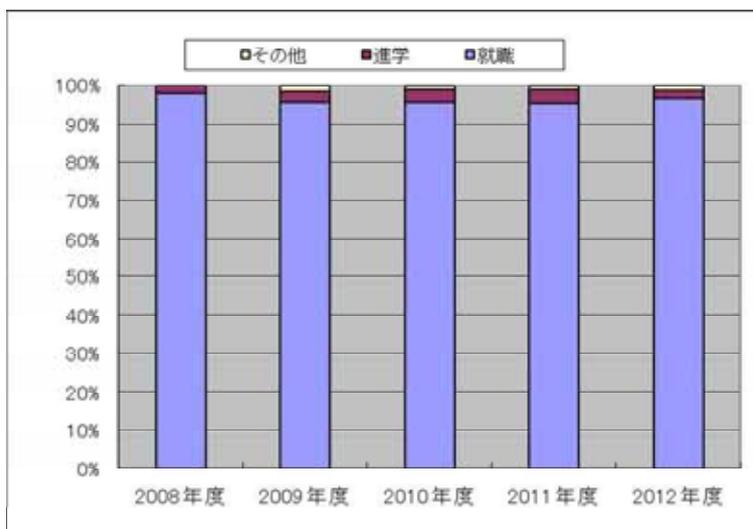
数年間大きな変動はなく、70%強となっている。さらに向上に向けた問題解明・解決方法等の調査などの努力が必要であろう。



[9]修了後の進路についてお尋ねします。

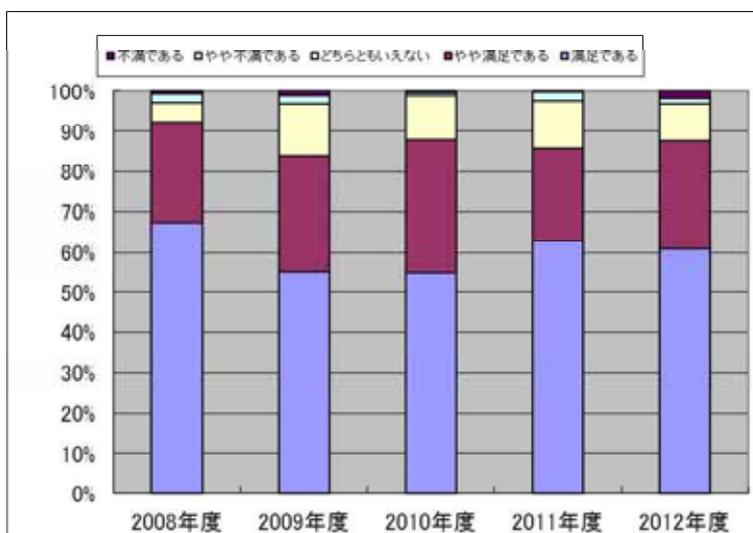
[9-1]あなたは修了後就職しますか、進学しますか。

数年間、就職する院生が95%以上で残りの学生が進学する傾向はここ数年変わらない。今後高度な研究者を社会に輩出するためにも博士後期課程への進学率向上に向けた努力が必要であろう。



[9-2]あなたは修了後の進路に満足していますか。

修了後の進路に満足を感じている院生の割合は、少し回復した。社会情勢も影響していると考えられる。満足度向上のためには、本人の研究科在学中での研究能力や基礎学力が向上するようにどれだけ努力したかが最も重要である。また、進路指導等についての大学側の今日路力・指導なども必要であろう。



[9-3][9-2]でD（やや不満である）またはE（不満である）と答えた方：その理由は何ですか。

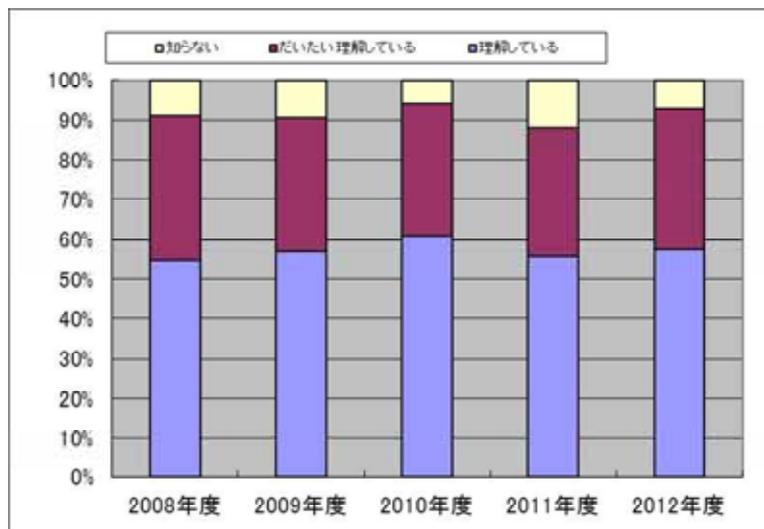
不満足感に加えて、不安感もあると思われる（結局は、本人の研究科在学中における努力不足に起因することも考えられる）。

- ・ 第一希望の就職先ではない。
- ・ 院生生活に満足できていないから。
- ・ 第一志望ではなかったから。
- ・ 就活に失敗したため。
- ・ 研究をがんばっても、就活にほとんど生きないから。
- ・ 希望した所でないから。

[10]研究活動についてお尋ねします。

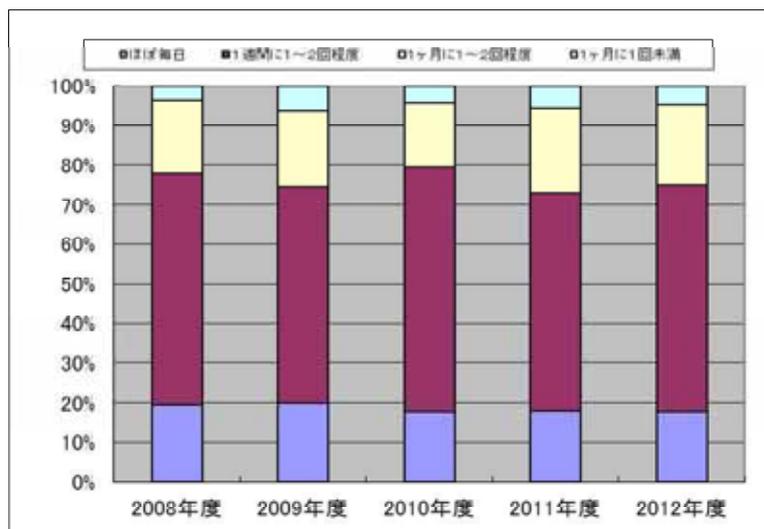
[10-1]進学時の研究室の配属決定方法を理解していますか。

研究室配属決定方法を知らない院生は10%前後で変わらない。配属に関するミーティング時に、配属規定の細かな説明・周知を行ってはいるが、さらなる周知徹底が必要であろう。



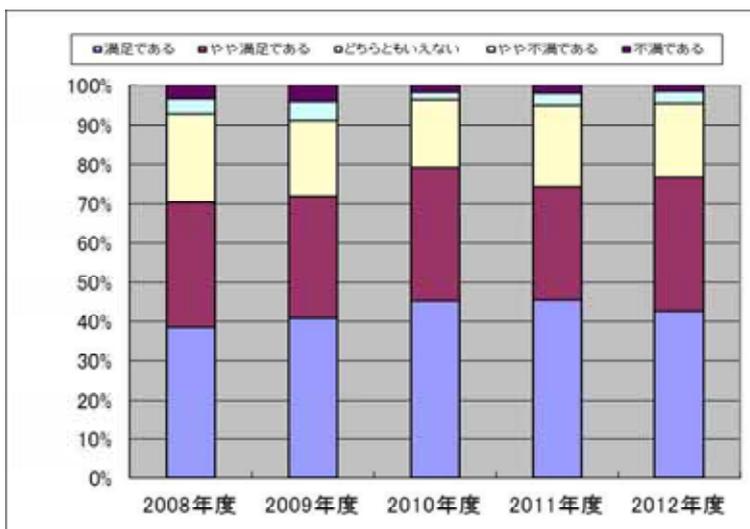
[10-2]研究指導はどの程度の頻度で受けましたか。

研究指導の頻度については、その割合は数年間変わっていない。「1週間に1～2回程度」が最も多く、「1ヶ月に1～2回程度」と「ほぼ毎日」が同程度であった。教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を講じる必要がある。



[10-3]あなたの研究に対する指導方法について、どのように思っていますか。

「満足である」と「やや満足である」と回答した割合が70%を超えている。更なる院生の研究指導方法の改善の努力・工夫を続ける必要がある。



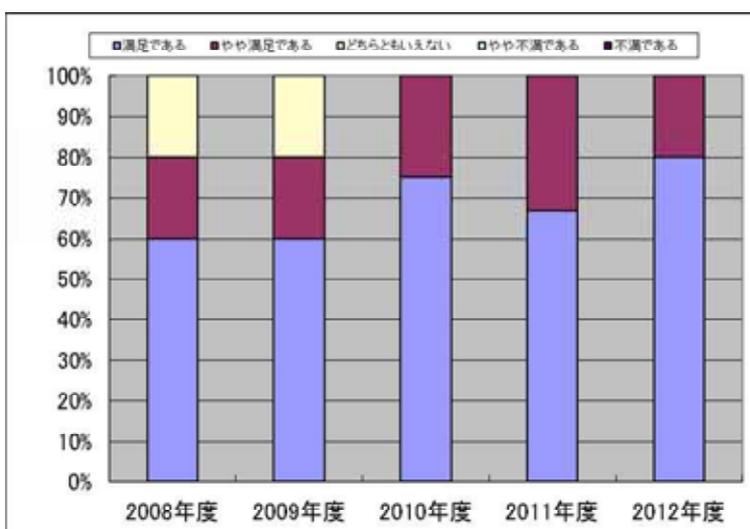
[10-4][10-3]でD（やや不満である）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。

指導時間が少なかった点に不満を感じている様子が伺える。その結果、学生の理解不足に繋がっていると考えられる。学内の各委員会・ワーキング会議等の簡素化・効率化などの検討を含め教員が院生の研究指導にもっと多くの時間を割けるような対策を早急に講じる必要がある。

- ・ 過剰。
- ・ 指導が不適切な部分がある。
- ・ 言い回しが理不尽。
- ・ 周期が短すぎて休めない。心身への負担が大きすぎる。
- ・ 話す機会がない。
- ・ 研究とは関係ないことしか話さない。
- ・ 先生に気軽に質問できるような雰囲気ではなかったから。
- ・ 方法論の取得があまりできなかった。
- ・ もう少し具体的に指導をしてほしい。
- ・ 具体的な道筋を示さず、問題解決のプロセスを教えていただけなかった。

[10-5]あなたの研究に対する指導体制（指導教官グループ）について、どのように思っていますか。（博士後期課程の方のみ）

特に否定的な解答は無く、大きな問題はないと思われる。

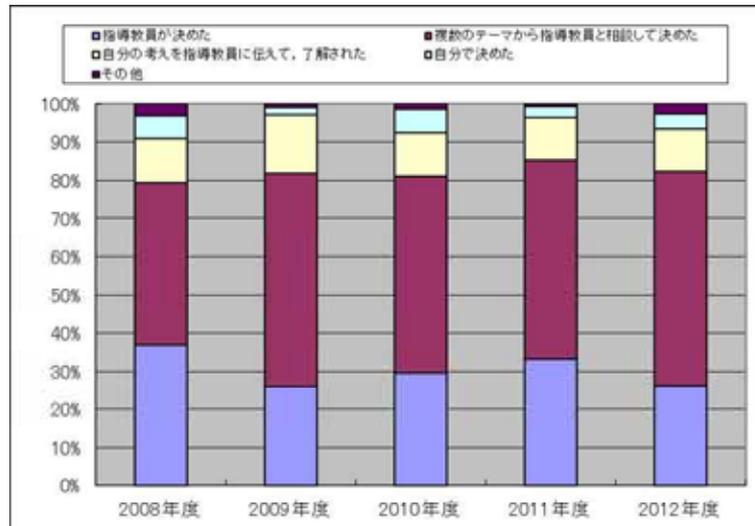


[10-6][10-5]でD（やや不満）またはE（不満）と答えた方：その理由は何ですか。

- ・ 過剰。バイトができない(自由な時間が少ない)。

[10-7]研究テーマはどのように決定されましたか。

指導教員との話し合い、あるいは複数の候補から研究テーマを決める割合が増えている。学生のポテンシャルが高ければ、学生本人から提案するよう指導するのも、1つのやり方かもしれない。

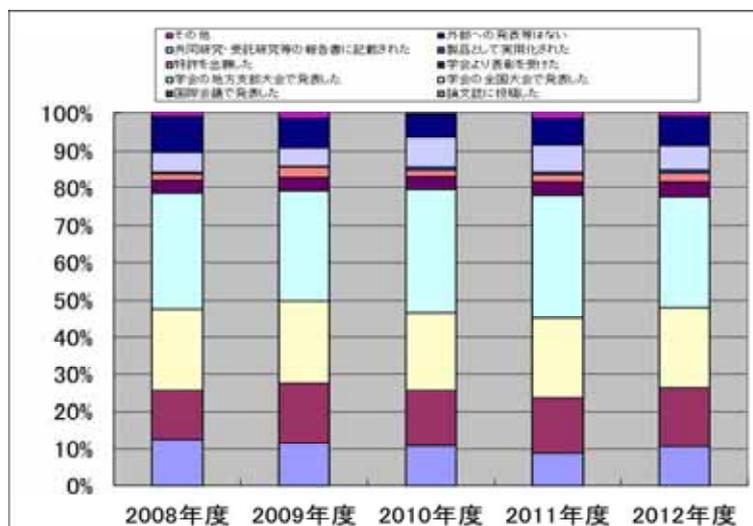


E（その他）[具体的に]

- ・ プロジェクトに関わりながら自然と決まっていた。
- ・ 複数のテーマから、研究室のメンバーと話し合っ決めた。
- ・ 指導教員ではない教員からアドバイスをもらった。
- ・ 最初は指導教員が決め、M2から好き勝手にやらせてもらった。
- ・ 学部時代の引継ぎ(複数のテーマから話し合い)。
- ・ 志望テーマに希望者が多かったため、友人と話し合った。

[10-8]あなたが在学中に研究したテーマの成果は下記のうちどれに該当しますか。(複数回答可)

論文誌への投稿、国際会議や学会の全国大会での発表も水準を維持している。まったく発表しないケースも見られるので、さらに改善が必要と思われる。

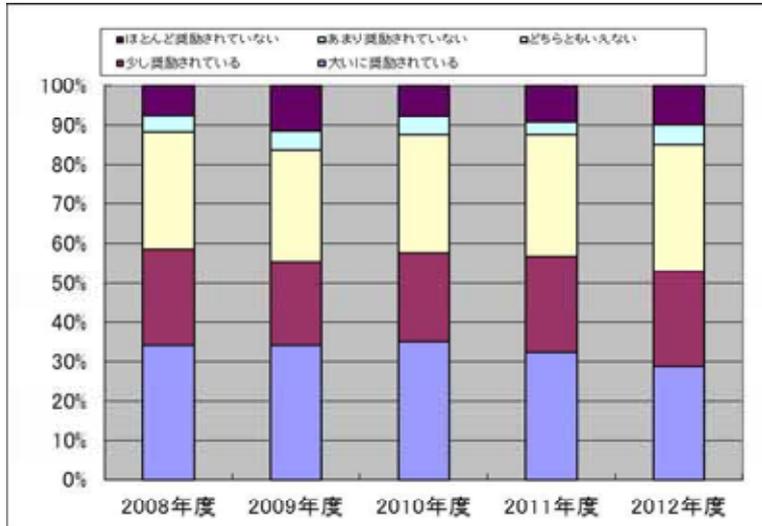


J (その他) [具体的に]

- ・ 地方支部大会で発表予定。
- ・ 高校等に出前講義を行った。
- ・ 日本で研究所で発表しました
- ・ 論文誌に投稿予定。

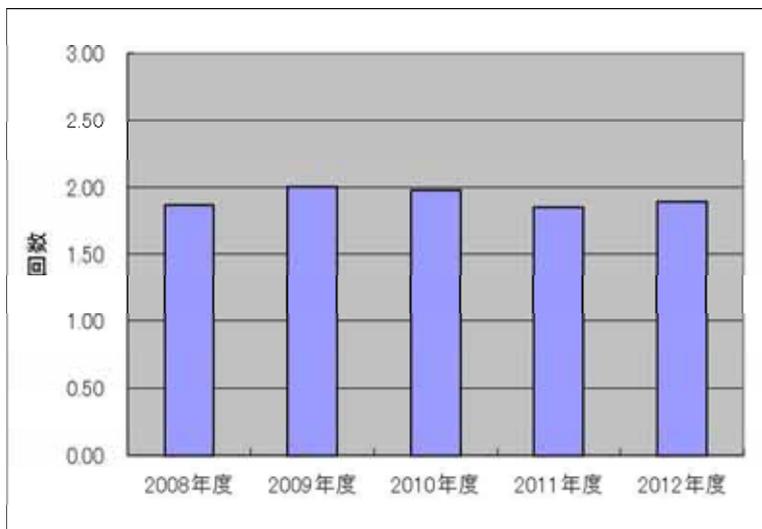
[10-9]学外での研究活動(学会発表や他機関での研究活動等)を奨励されていきましたか。

「おおいに推奨されている」あるいは「少し推奨されている」と感じている学生の割合が 50% 強ある。しかし、他の研究者と意見交換する能力を身につけ、新たな研究領域の見識を広めるためにも、学生を学会で研究活動をさせるのは至極当たり前のことであり、教員側の意識の改革が必要である。



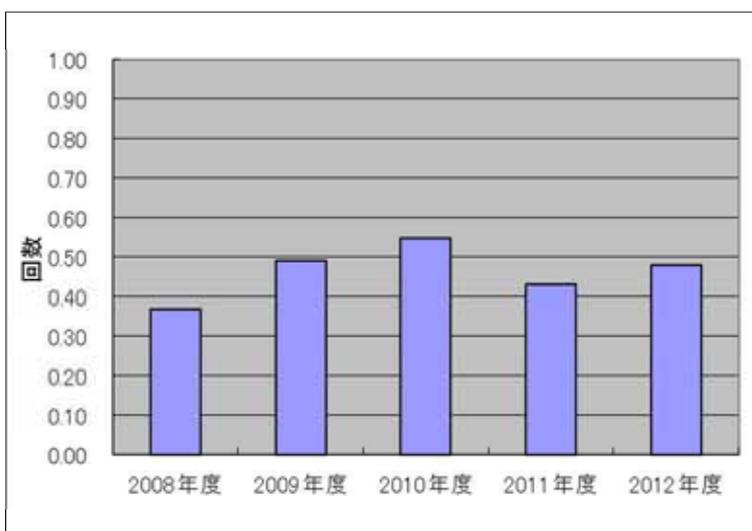
[10-10]あなたは在学中に国内学会(大会等)で何回発表しましたか。

院生の発表回数が 2008 年度以降ほぼ横ばいである。在学年数からみて、最低 2 回程度は妥当であろう。更なる、機会を与えるよう教員側の積極的な研究指導が重要と考えられる。



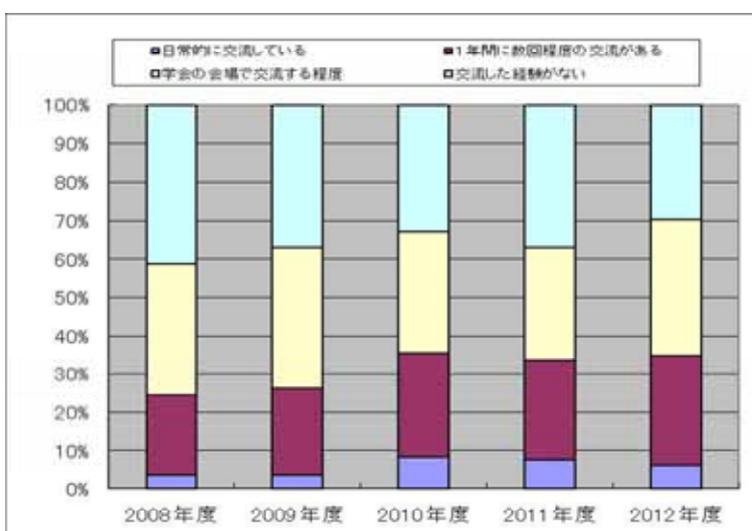
[10-11] あなたは在学中に国際会議で何回発表しましたか。

2012年度は増加に転じている。大学教育環境のグローバル化が叫ばれる中、国際会議での発表などの経験は極めて需要で有り、今後、さらに増加するよう努力が必要であると思われる。



[10-12] 学外の研究者(国内および国外)と研究交流した経験がありますか。

交流した経験のない学生の比率減少傾向に転じている。国際光量の経験が増加傾向になりつつあるが、グローバル化が積極的に推進される環境化では不十分と思われる。さらなる国際的な交流の活発化を図る必要がある。



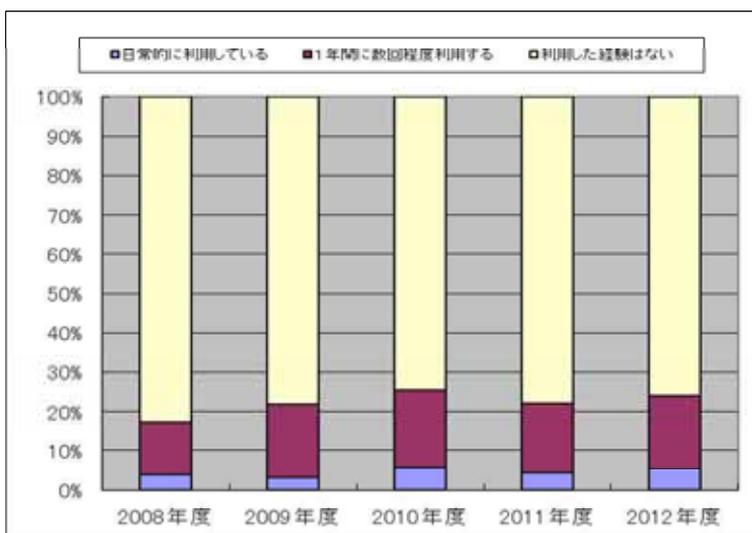
[10-13] 学内の共同利用施設(情報科学センター、機器分析センター等)を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、50%近くであり、日常的に利用している学生数は20%弱の傾向を示し、高度な研究推進のためには、この傾向の更なる向上が重要であると思われる。もちろん共同利用施設に、先端の測定機器等が潤沢に導入されていることが必須条件となる。



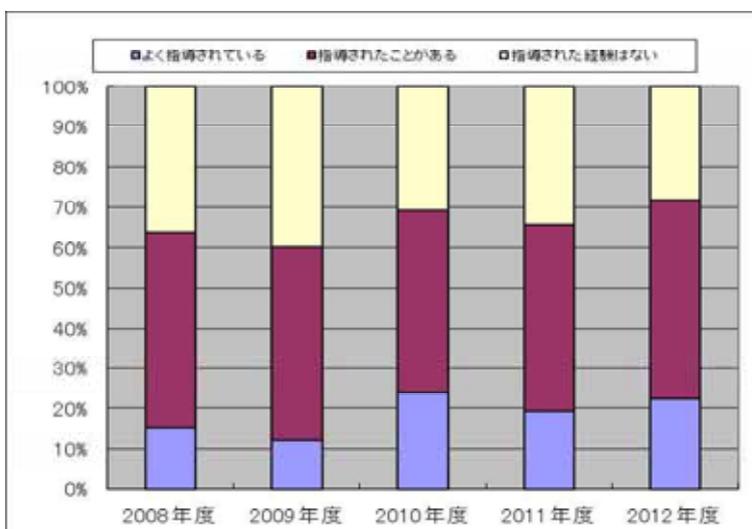
[10-14] 学外の共同利用施設等を研究のために利用した経験がありますか。

経験者の割合は、20%程度であり、学内にない測定機器に関しては、積極的な学外利用が必要と思われる。ただ、学内にない測定機器が学内に導入するような努力が望まれる。今後もこの水準と思われる。



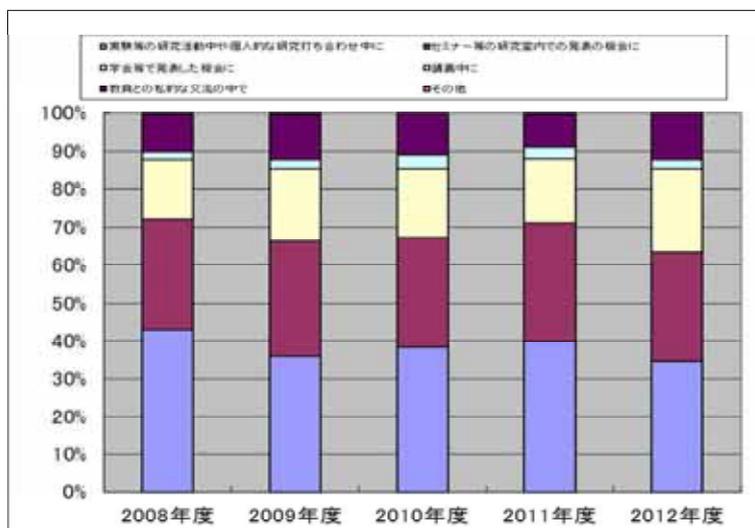
[10-15] 学位論文の研究を通して、研究遂行に対して競争意欲が向上するような指導を受けたことがありますか。

指導されている院生の割合は70%以上であり、継続的な指導改善の取り組みの効果が見られる。



[10-16] [10-15]でA（よく指導されている）またはB（指導されたことがある）と答えた方：それはどのような機会に指導されましたか。（複数回答可）

教員との個人的な研究打ち合わせやセミナー、学会発表等で指導を受けている学生の割合は90%に達し、この傾向が続いている。



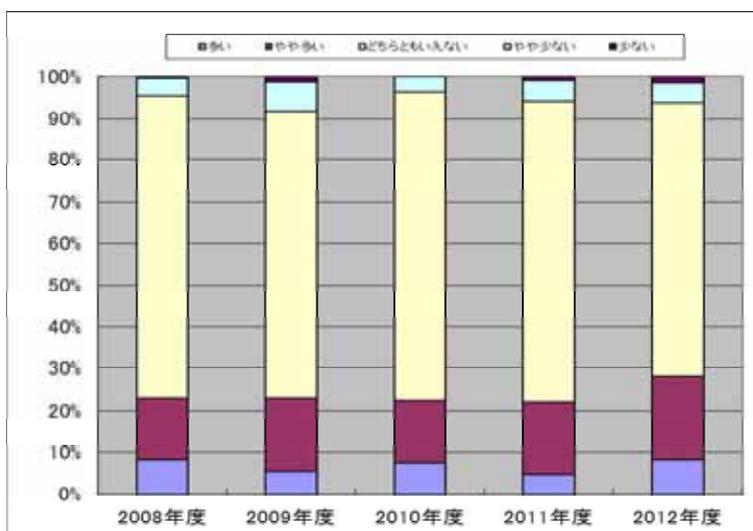
F(その他) [具体的に]

(回答者なし)

[11]工学府・工学研究科における講義・演習等についてお尋ねします。

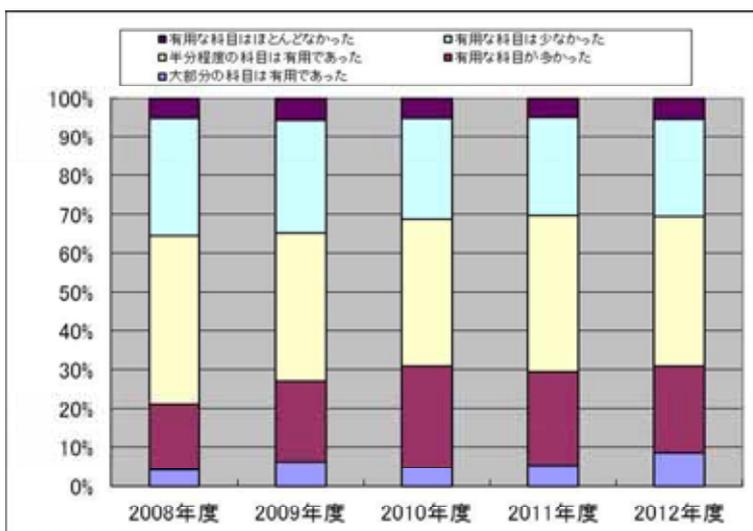
[11-1]工学府・工学研究科における講義・演習等の必要要件単位数は多いでしょうか、少ないでしょうか。

「やや多い」、「多い」と回答した院生は微増の傾向が見られる。「やや少ない」、「少ない」と回答した院生も5%程度存在する。現在の学生の能力からすると理解度を深めるためには、必要要件単位数は現状維持か微増される必要があると考えている。



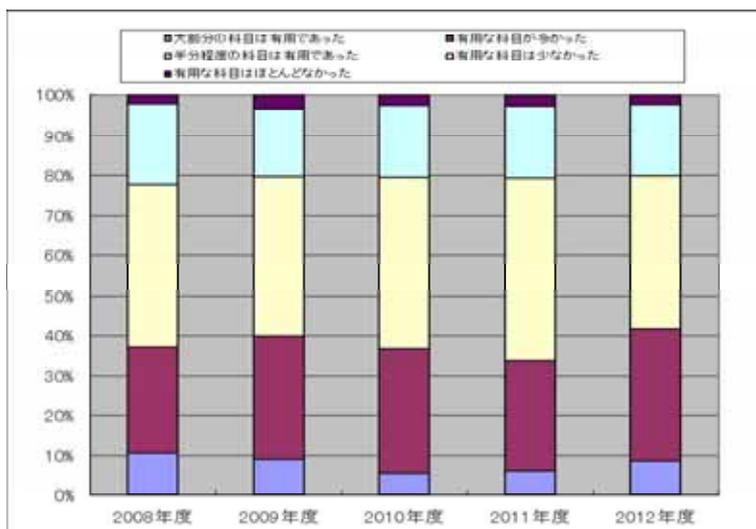
[11-2]工学府・工学研究科で受講した講義科目(演習科目を含む)の中で、自分自身の研究に役立った科目の割合はどの程度ですか。

70%の学生は「有用な科目」と回答しているが、「有用な科目が少ない」と回答した院生は微減している。有用な科目が増加するように、継続的な講義(演習)内容の改善が必要である。



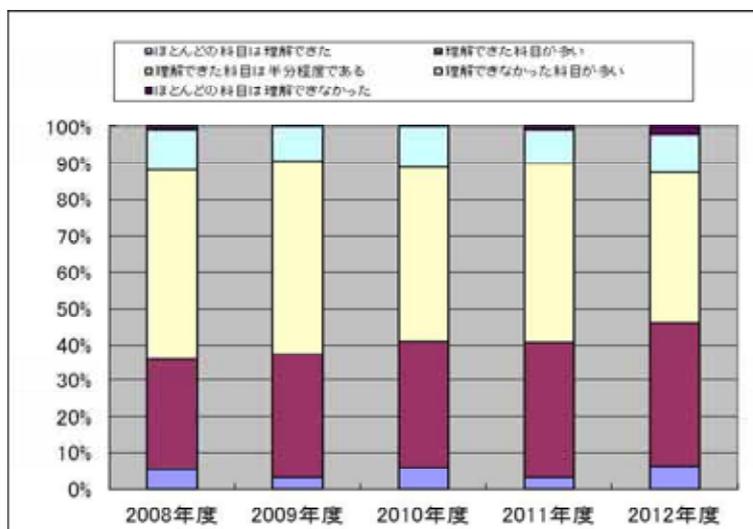
[11-3]工学府・工学研究科で受講した講義科目（演習科目を含む）の中で、自分自身の成長のために有用であり、履修価値があった科目の割合はどの程度ですか。

「半分程度の科目は有用であった」までを含めた修了生は、80%程度となっている。引き続き講義（演習）内容の継続と検討改革が必要と思われる。



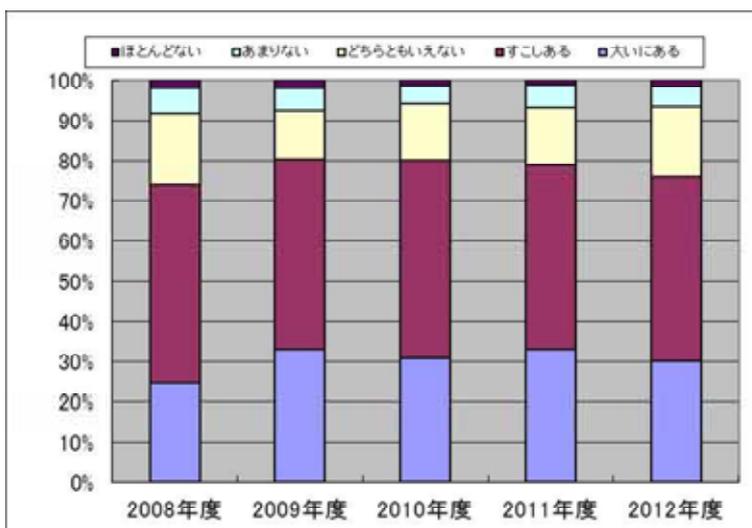
[11-4]工学府・工学研究科で受講した講義科目の理解度はどの程度ですか。

「ほとんどの科目が理解できた」「理解出来た科目が多い」以上の修了生の割合が50%近くになるほど増加してきている。一方、「理解できなかった科目が多い」「ほとんどの科目が理解出来なかった」の割合は13%程度へ微増傾向にあるため、引き続き講義内容や教授方法の検討・改善が必要と思われる。



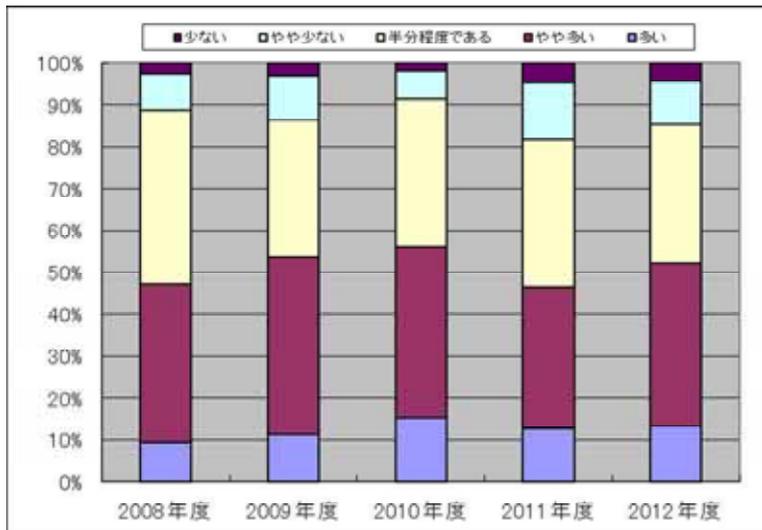
[11-5]学部で履修した科目と研究科で履修した科目の間に、つながりがあったと思いますか。

「学部で履修した科目との関連がある」と回答した修了生の割合が80%程度であり、学部で履修した科目との関連性は高いと判断できる。ただ、「あまりない」「ほとんどない」と回答した学生も20%程度いるため、科目の内容等について更に検討することが望まれる。



[11-6]工学府・工学研究科で履修した科目全般について、教育への熱意があった担当教員の割合はどの程度ですか。

「半分以上の教員に熱意があった」と回答した修了生の割合は、80%以上を過去5年に亘って維持しているものの、2011年度に10%近く下がっており、今後の結果を注視すべきである。



[11-7]工学府・工学研究科で履修した科目で、就職後、仕事をする上で役に立つと思う科目はどれくらいありましたか。

「半分以上の科目は仕事に役に立つ」と回答した修了生は、ここ数年 70%近くを維持しており、「実学」の観点からの教育効果は維持されていると思われる。



[12] T A、R A等の制度についてお尋ねします。

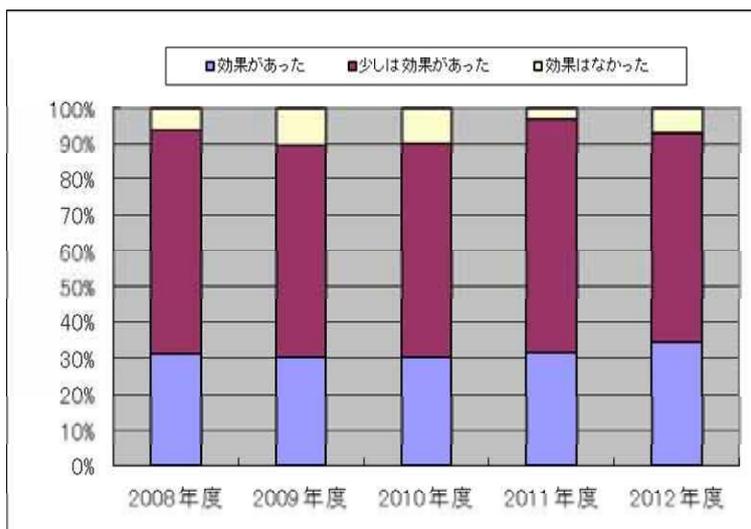
[12-1] T Aを担当したことがありますか。

T A経験者は 2008 年度以降 80%以上を維持している。



[12-2][12-1]でA（効果があった）と答えた方：T A活動を通して、学部学生に対して教育的効果があったと思いますか。

「効果があった」と「少しは効果があった」を合わせるとほぼ90%以上あり、TA が学部教育に貢献していると自己評価している。



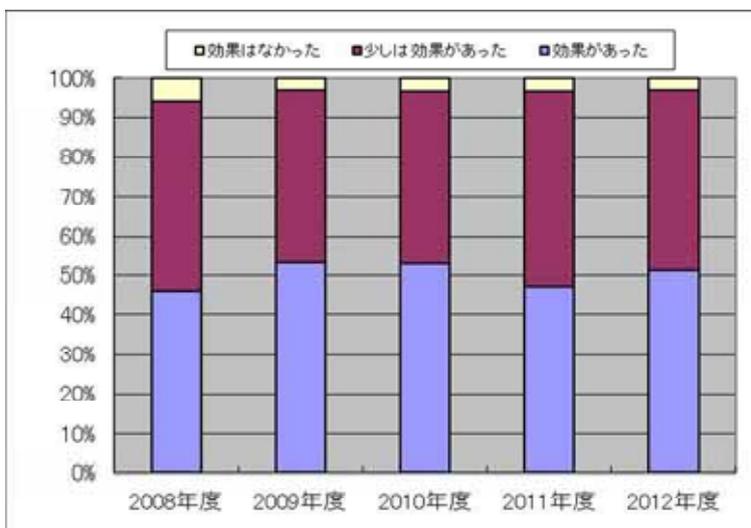
[12-3][12-2]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

学部学生側のモチベーションの足りなさについて不満があることが見てとれる。

- ・ 自分では分からない。
- ・ やる気の無い学生が多い。
- ・ 意味が無い。
- ・ 私自身は熱心だったが、効果の有無は教えられた側の問題であり、私の知るところではない。
- ・ 関わりがなかった。
- ・ 学部学生のやる気が無い。
- ・ そこまで関わられなかった。

[12-4][12-1]でA（ある）と答えた方：T A活動は、自分自身にとって教育的効果があったと思いますか。

2011 年度同様、95%以上が、教育効果があったと答えており、T A活動が充分機能していると思われる。



[12-5][12-4]でC（効果はなかった）と答えた方：その理由は何ですか。

TA活動は自分自身にとって教育的効果がなかったとする回答は2011年度には5%であり、この制度が十分教育的な効果を上げていると判断できる。具体的な回答は以下の通りであるが、少数意見である。

- ・ 基本的に雑用だから。
- ・ 学生がほとんどやり、自分は何もする事がなかったから。

[12-6] R Aを担当したことがありますか。(博士後期課程の修了生のみ)

回答者が5名しかおらず、意味のある分析を行なうのが難しい。



[12-7][12-6]でA(ある)と答えた方。R A活動は、自分自身にとって意義があったと思いますか。

回答者が5名しかおらず、意味のある分析を行なうのが難しい。

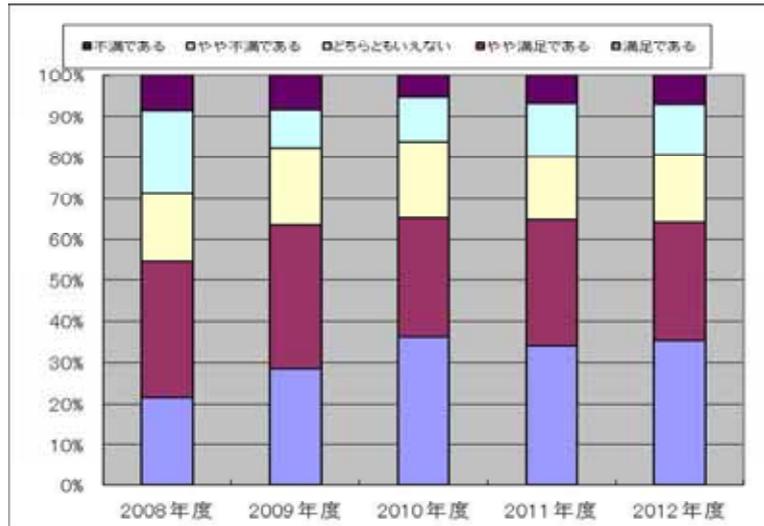


[12-8][12-7]でC(意義はなかった)と答えた方：その理由は何ですか。(博士後期課程の修了生)(回答者なし)

[13]施設・設備等についてお尋ねします。

[13-1]研究に使った実験室・実習室のスペースや環境等について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が 2009～2011 年度と同様に 3分の2 を占めている。改築等の効果が継続していると思われる。



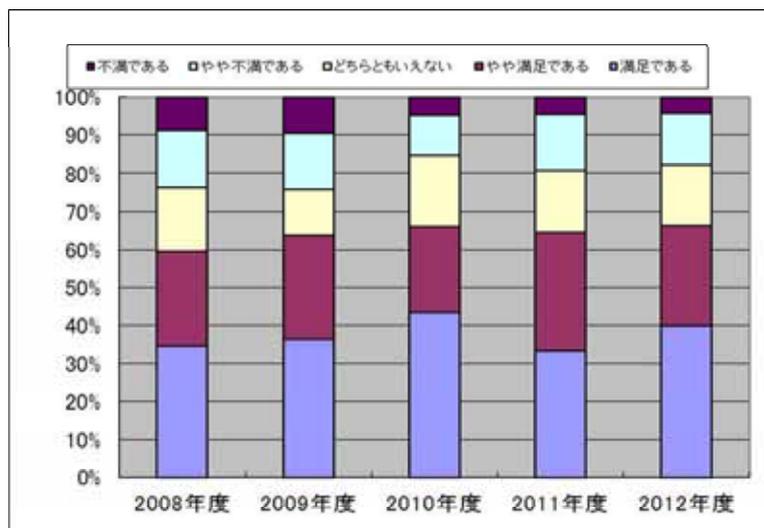
[13-2]研究に必要な設備・装置について満足していますか。

「満足、やや満足」と解答した学生が 2009 年度から徐々に上昇し、3分の2 程度を占めている。引き続き、効果的な研究環境の整備を進めていくべきである。



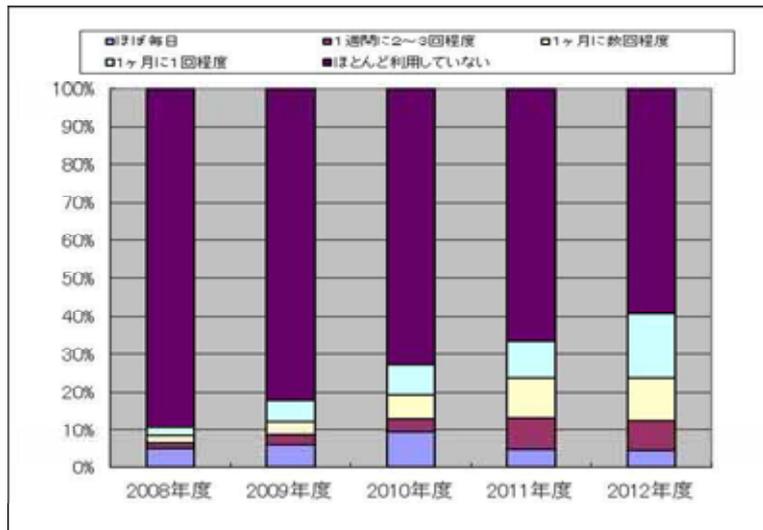
[13-3]研究に必要な情報機器（コンピュータ端末等を含む）の整備状況について満足していますか。

「満足、やや満足」と回答した学生の割合は 3分の2 程度で定着している。引き続き整備していく必要がある。



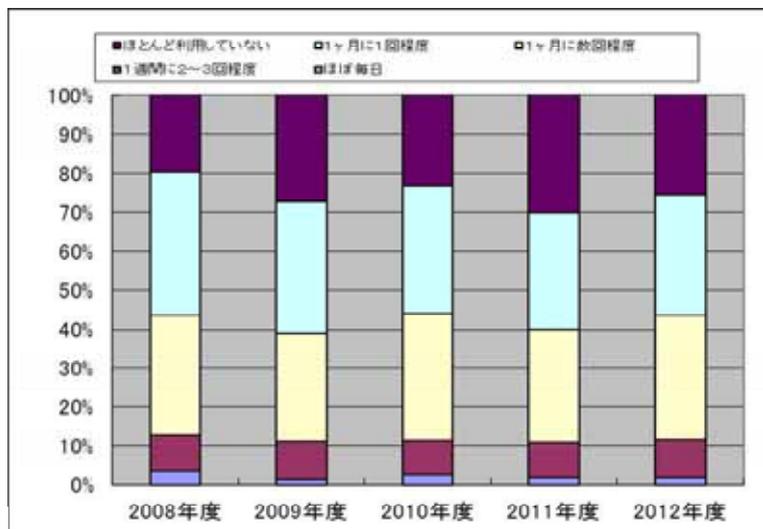
[13-4]情報科学センターが提供しているサービスをどの程度利用していますか。(インターネットや電子メールを除く。)

2012年度は、利用率が最も高い結果となっているものの、相変わらず約60%の学生が情報科学センターのサービスを利用していない。大学院生の場合、研究室の情報環境を利用していると思われるが、サービス利用の形態について検討をする必要がある。



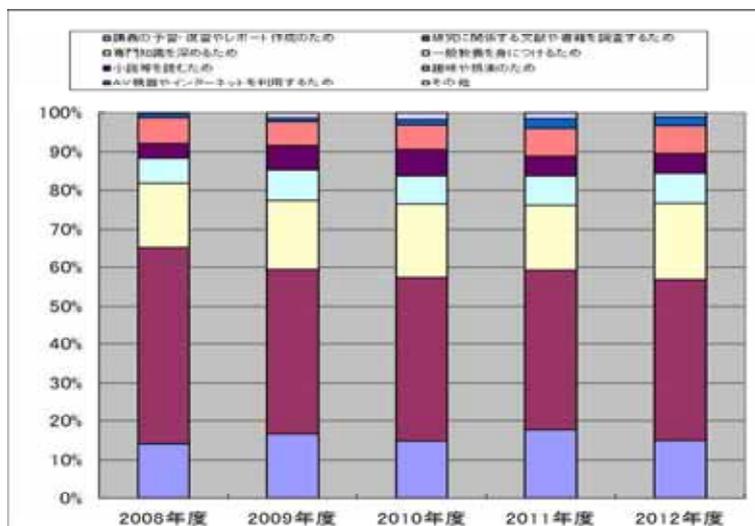
[13-5]図書館を利用している頻度はどの程度ですか。

例年と同様に図書館の利用頻度は低く、60%の学生が1ヶ月に1回か、殆ど利用なしである。大学院生の研究に役立つ図書館の役割について真剣に検討すべきである。



[13-6]図書館を利用する主な理由をお答えください。(複数回答可)

学生が講義、研究、専門知識および一般教養に関して図書館を利用している割合は、それぞれおよそ18%、42%、17%、7%程度で全体的な傾向は大きく変化していない。



H（その他）[具体的に]

- ・ DVD、新聞。
- ・ 新聞。
- ・ 新聞の閲覧。
- ・ 利用しない。

2.3 教育達成度評価アンケート：雇用主 (2010年3月以前卒業生)

本節(2.3)と次節(2.4)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、他大学と比較した教育レベルのアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。なお、この時、彼らが在職する各会社・各機関(彼らの雇用主)に対しては、本アンケート調査は他大学の卒業生及び修了生に対する本学学生が受けた教育レベルの評価を行うためのものであり、対象者本人の評価を行うものではないことを断わっています。

アンケート実施年月日 平成25年6月25日

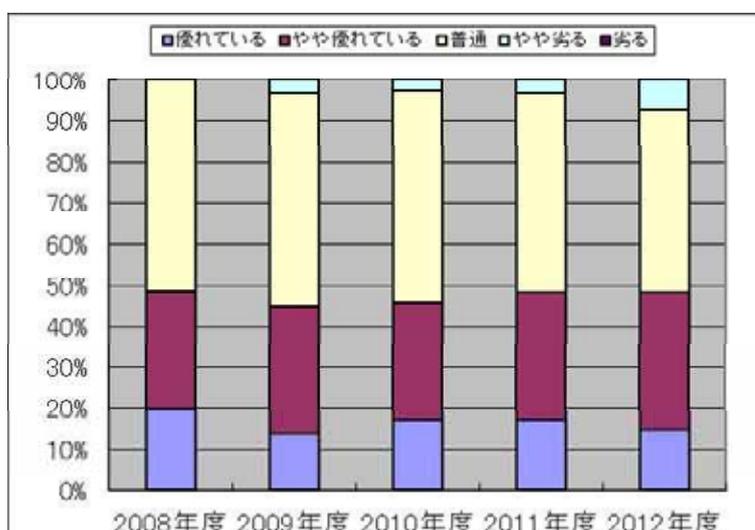
アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
84社	27名

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

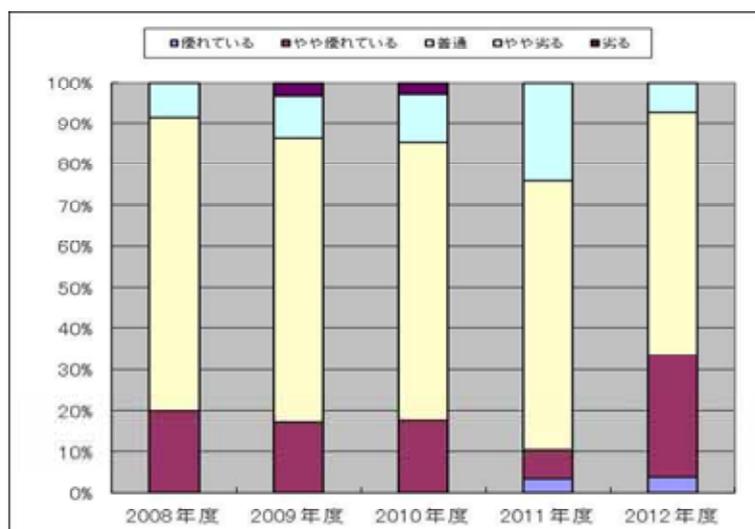
(1) 卒業生が受けた教養(人文・社会等の一般教養)教育のレベル

「優れている、やや優れている」がほぼ同じく50%程度になっている。「やや劣る」は昨年と徐々に増加しつつある。



(2) 卒業生が受けた語学(特に英語)教育のレベル

「優れている、やや優れている」が2012年度30%に増加し、「やや劣る」が8%に減少しているものの、卒業生の語学力に対してなお危機感をもつべきである。グローバル人材教育が求められる時代にあって、放置できない状況になりつつある。



(3) 卒業生が受けた理数系(数学・物理・化学)教育のレベル

「優れている、やや優れている」と回答した企業が2009年度から減少傾向にある。また、70%以上を維持している。「やや劣る」も4%と現れてきて、注意事項である。



(4) 卒業生が受けた専門教育のレベル

卒業生の専門教育レベルについては、「優れている、やや優れている」が年度ごとに一定しないが、60%は割らない。2012年度は78%になった。今後も引き続き注視する必要がある。



(5) 卒業生が受けた課題探求能力教育のレベル

「優れている、やや優れている」が2009年度から減少し続け、2011年度は59%と2008年度並みの低さであったが、2009年度なみに戻って来ている。が、注意事項である。



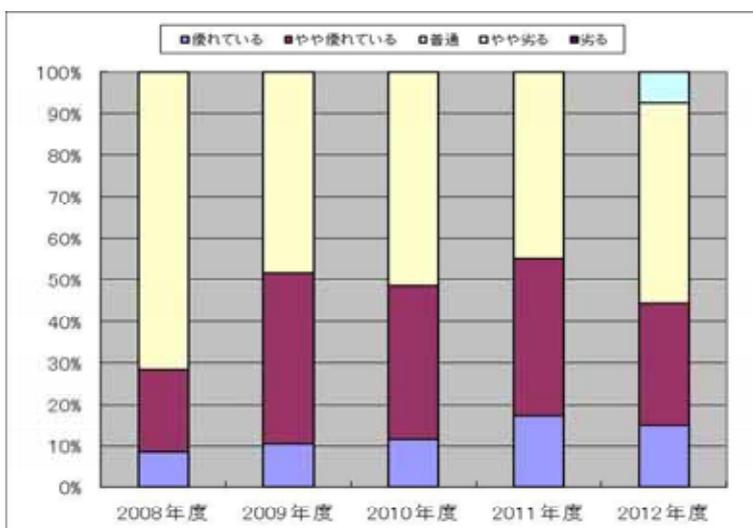
(6) 卒業生が受けた課題解決能力教育のレベル

「優れている、やや優れている」は2008年度を除き70%程度になっている。しかし年度ごとの変動もあり、引き続き注視しておく必要がある。



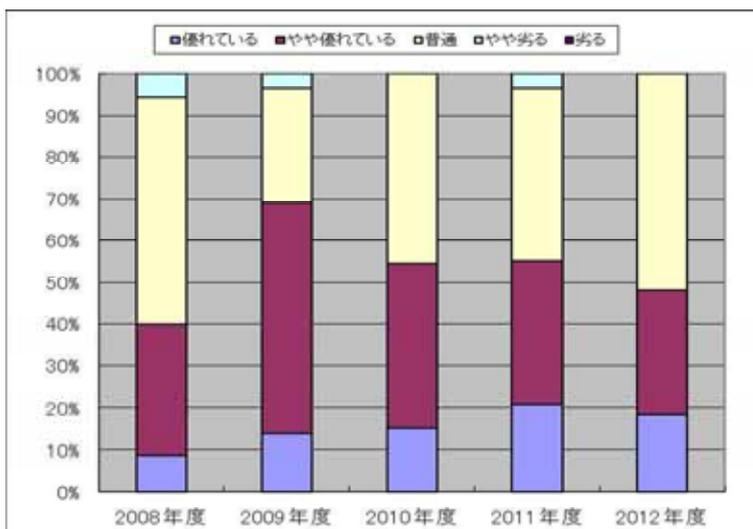
(7) 卒業生が受けた独創性教育のレベル

「優れている、やや優れている」は2008年度を除き約50%を推移している。しかし、2008年度は30%未満になったこと及び2012年度は減少していることから、引き続き注視しておく必要がある。



(8) 卒業生が受けた構想力教育のレベル

「優れている、やや優れている」は2006年度の44%と2008年度の40%を除き、50%程度を推移してきた。年度ごとの変化が大きいこと及び2009年度から減少傾向にあり、今後も推移を見守る必要がある。



(9) 卒業生が受けた表現力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は近年微増傾向にあり、2012年度は約60%までになった。少しずつ評価されてきているようであるが、注視していきたい。



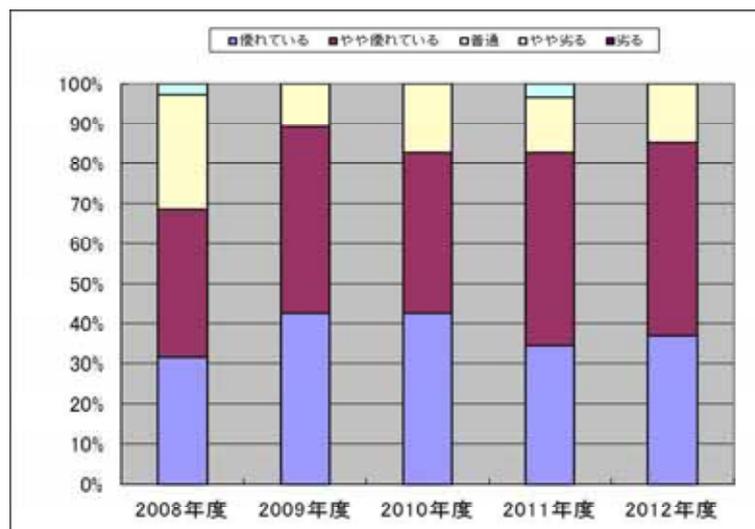
(10) 卒業生が受けたコミュニケーション能力教育のレベル

「普通」以上の評価は概ね90%以上を維持してきており、「やや優れている」以上の評価はほぼ50%代を推移している。企業からの評価はこのレベルに定着していると見られる。



(11) 卒業生が受けた仕事に取り組む熱意に対する教育のレベル

「普通」以上の評価は100%であり、「やや優れている」以上の評価も2008年度を除き80%代で推移している。全体として評価は高いと言える。



2. 貴社・貴機関が九州工業大学 工学部 卒業生に望む事項（卒業生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「コミュニケーション能力」と「語学力」を望まれているが目立つ。「積極性」、「課題解決能力」、「発信・伝達能力」、「一般教養・常識」等も望まれている。

- ・ 過去の卒業生に比べてみて、おとなしいイメージが強い。もっと積極的に行動して良いのでは？
- ・ 課題探究能力、課題解決能力、コミュニケーション能力
- ・ 活力ある人財を求めています。活力は創造力や構想力へと繋がると考えます。卒合後の継続的な教育で培うことも良いかと考えますが、その基礎的な部分を活力を生み出す教育に期待します。
- ・ 技術的な専門知識や、語学力(英語)をお持ちいただけましたら有難く存じます。
- ・ 技術に堪能なる土君子に相応しいように、まずは専門知識に先駆けて、一般教養や社会・経済の常識を身に付けてほしい。基礎学問を身に付けてほしい。数学的素養や物理概念など。自分の考え方を正しく伝える能力を持って欲しい。特に文章力
- ・ 業務(研究対象等)に対して、周囲とのコミュニケーションを取りながら、粘り強く取り組む姿勢
- ・ 語学力(英語)、主体性
- ・ 創造力やコミュニケーション能力
- ・ 統計学、品質管理、解析学、力学に関する素養を磨いていただきたい。
- ・ 能力は高く、まじめな方が多く活躍されています。欲を言えば、コミュニケーション力・発信力が上がるとなお良いと感じます
- ・ 弊社は電気・電子系専門商社です。理系(特に電気、電子、機械)の基礎知識は必要となりますが、商社の役割として、人との交渉・折衝等のコミュニケーション力も望む事項となります。
- ・ ポジティブ思考(何事も前向きに取り組む)。誠実(真心をもって人や物事に接する)
- ・ 問題解決能力を高めてほしい。計画実行力、周囲に働きかける能力、表現(発表)能力を高めてほしい
- ・ 理系でも今後はグローバル化が益々進んでまいりますので、語学(英語)力を少しでも身に付けてほしい。
- ・ 問題を解決するための手順を強力に教育すべきです。×教育でなく「考える」力をきょうかすべき、個人差が大きすぎる

3.九州工業大学 工学部の教育に対して、ご意見・ご要望(企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等)がございましたらご記入ください。

業務に応じた多岐に亘る専門知識についての教育の期待がある一方で、工学基礎知識の確実な習得やコミュニケーション能力、活力ある強い人材の育成等の期待がある。

- ・ 8人の和解卒業生に入社いただき、皆活躍しています。ありがとうございます。ソフト開発の現場では、コミュニケーションとメカを含めたシステム視点が求められます。また、海外での業務も増えていきますので、だれとでも協力して動くことのできる強い人材が必要です。
- ・ 維持・補修に関する知識についての教育をすることは可能でしょうか？基本があってのものなので難しいとは思いますが。
- ・ 構造解析に関する知識、土構造物や斜面安定等の解析知識に関する教育をさらに追及していただけると良いと思います。活力ある力強い人財教育を要望します
- ・ 専門用語を覚えて並べ立てるのではなく、その奥にある意思や考え方、メカニズムなどを理解して欲しい。そしてそれらを有機的に結び付ける力が欲しい。

- ・ その他に問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション、シミュレーション等の能力が必要と考えます。
- ・ 大学生卒だから自分は優秀であると覆いこんでいる卒業生も居る。まずは社会人になって実力をつける姿勢を学生の中から指導すべき。高卒にも優秀な人材は多い
- ・ 次の知識が身についているとありがたいです、統計、計算機科学。
- ・ 電気・電子に関する基礎知識の習得
- ・ 特にありません、専門分野につきましては、企業内での教育で補完いたしますので、基本的な技術・知識を確実に習得いただくことを希望します。

4. 全体としての傾向

2012年度においては、「やや優れている」以上の評価は、「仕事に取り組む熱意」が85%と高く、70%代に「理数系」、「専門」、「課題探求能力」、「課題解決能力」の4項目が続き、50%代に「表現力」、「コミュニケーション能力」が続いている。「教養」、「独創性」、「構想力」は40%代に低迷し、「語学」は33%となっている。また、「劣る」の評価は全項目からなくなり、「やや劣る」の評価もほとんどの項目であってもごく僅かである。

全般において卒業生は企業から概ね高い評価を得ていると判断できる。しかし、「教養」、「語学」、「独創性」、「構想力」の評価は相対的に低く、これらに関して今行われている、また行われようとしている教育を再点検して、必要なものには対応策を講じていかなくてはならない。

2.4 教育達成度評価アンケート：雇用主

(2010年3月以前修了生)

アンケート実施年月日 平成25年6月25日

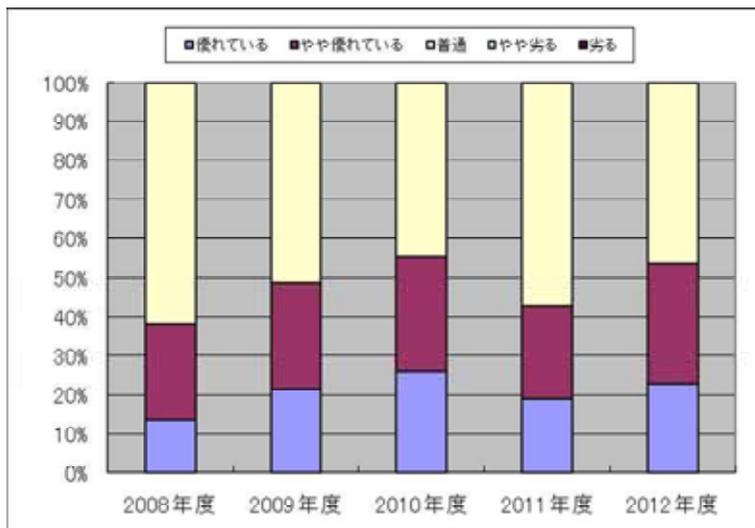
アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
120社	26

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

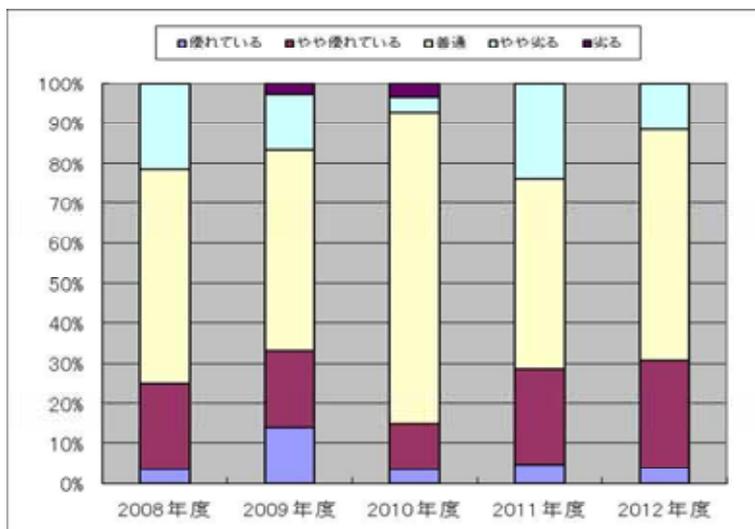
(1) 修了生が受けた教養(人文・社会等の一般教養)教育のレベル

「普通」以上の評価は100%であるが、「やや優れている」以上の評価は概ね40~55%で推移している。企業からの評価はこのレベルに定着しているようである。



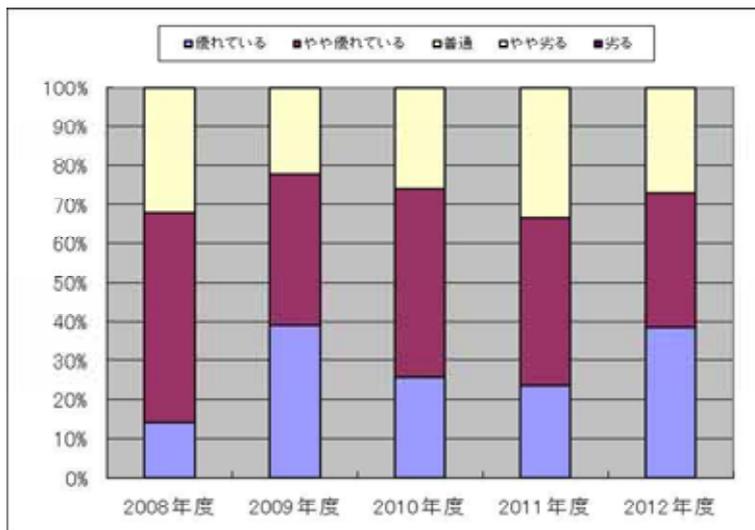
(2) 修了生が受けた語学(特に英語)教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が概ね15~30%と低迷を続けている。2011年度から「劣る」の評価はないものの、企業からの評価は低いと判断される。行われている教育を再点検し、効果的な改善策を考えなくてはならない。



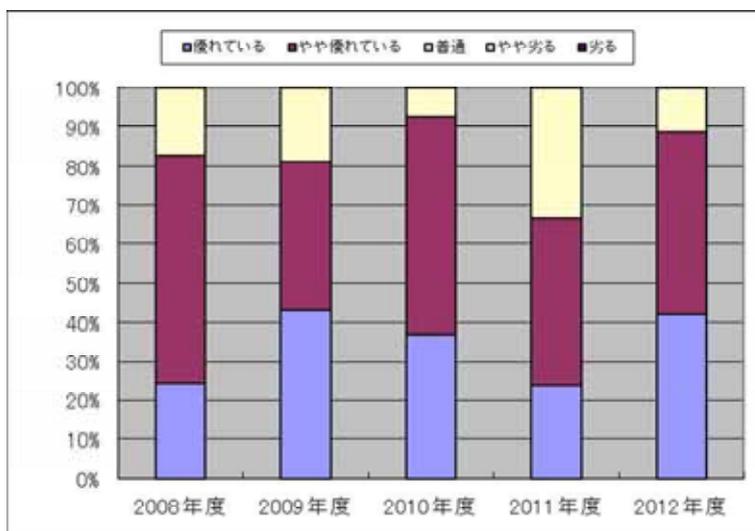
(3) 修了生が受けた理数系(数学・物理・化学)教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は、2012年度は73%で、毎年65~75%で推移している。全体的に企業から高い評価を受けていると判断できる。



(4) 修了生が受けた専門教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は、2011年度は70%を切ったが、2012年度は例年のように80%を超えて、88%になった。企業からの評価は高い。



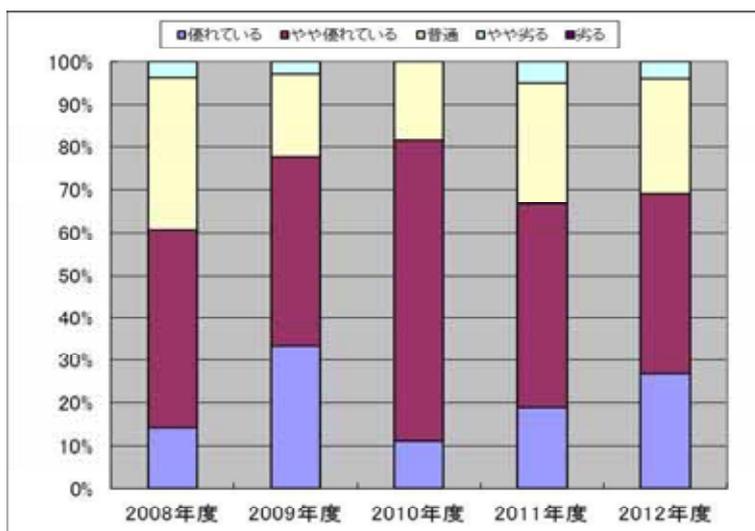
(5) 修了生が受けた課題探求能力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は、2011年度は60%近くまで減少したが、2012年度は76%まで戻した。企業からの評価は高めだが、注視が必要である。



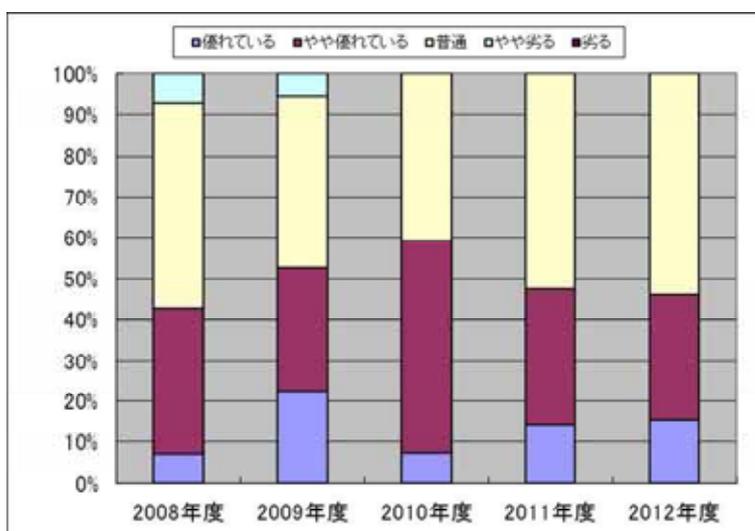
(6) 修了生が受けた課題解決能力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は概ね60～80%で推移しており、2012年度は69%であった。企業からまずまずの評価を受けていると判断できる。



(7) 修了生が受けた独創性教育のレベル

「やや劣る」以下の評価はなくなっているものの、「やや優れている」以上の評価は50%を2年続けて切ってきている。注視を要する教育項目である。



(8) 修了生が受けた構想力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が2011年度は50%を切ったが、2012年度は少し戻り60%近くまでになった。今後の推移を引き続き見守る必要がある。



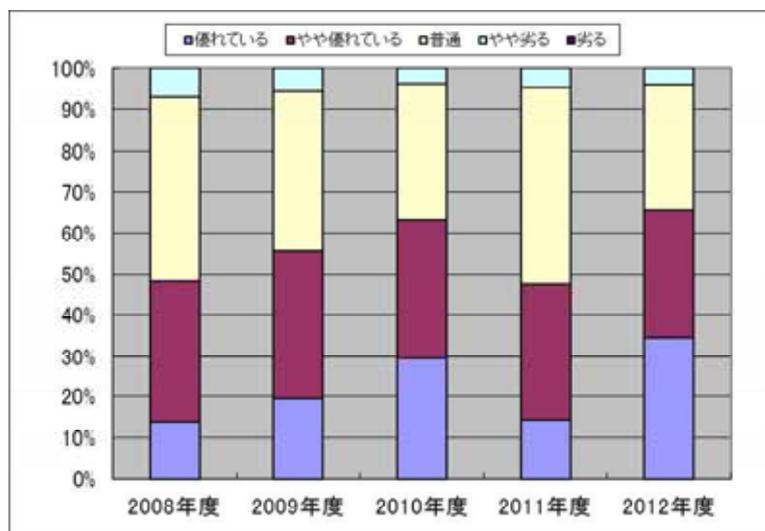
(9) 修了生が受けた表現力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は概ね35～55%の範囲で推移している。今の教育を点検しながら今後の推移を見守る必要がある。



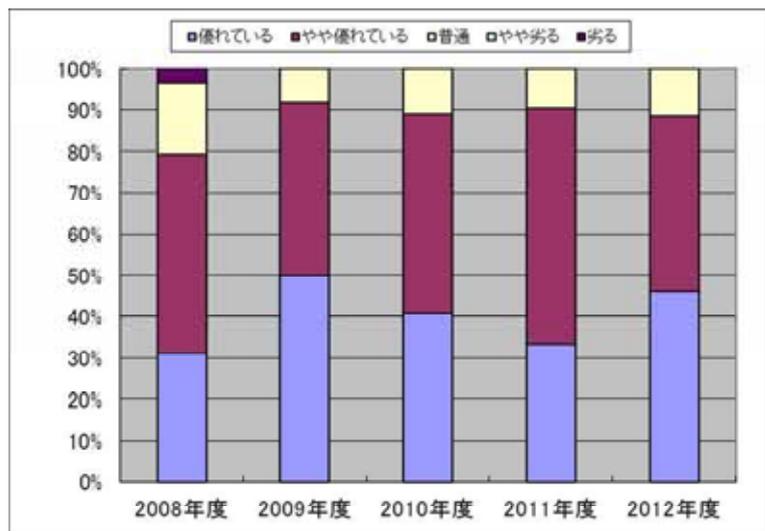
(10) 修了生が受けたコミュニケーション能力教育のレベル

「やや優れている」以上の評価が2011年度は50%を切ったが、2012年度は65%まで戻した。まずまずの評価を得てはいるが引き続き注視が必要である。



(11) 修了生が受けた仕事に取り組む熱意に対する教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は概ね90%の高い数値を維持している。2012年度は88%であった。修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。



2. 貴社・貴機関が、九州工業大学 大学院工学研究科 修了生に望む事項（修了生の資質等）がございましたらご記入ください。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「コミュニケーション能力」、「自発性」、「実行力」

「問題解決能力」、「基礎学力」等を期待されていることがわかる。

- ・ 課題に対しての問題解決能力
- ・ 健康であること、どんな仕事でも誠実にやり遂げることが出来ること、仕事を楽しめること。
- ・ 現在弊社では英語力をはかる指標として TOEIC スコアを重視しているため、まずは受験にたいする啓蒙をお願いしたい。
- ・ コミュニケーション能力、基礎学力
- ・ 最近の学生全般の傾向でもありますが、研究に対するアプローチがやや受身な印象が見られます。深い洞察力や自発的な行動がさらに養われることを望みます。
- ・ 指示待ちではなく、何ごとにも自発的に取り組む姿勢。深く考える力
- ・ 社会に出て貢献する際に求められる能力の醸成、コミュニケーション力、主体性、探究力。自ら動き行動することで物事を前へ進める力
- ・ 専門的基礎力、創造力、応用力(改善力)、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、マネジメント力
- ・ 他者を巻き込んで、仕事を推進していくための実行力。経済情勢、社会情勢に対する感受性。
- ・ 熱意のある優秀な学生さんが多いという印象ですので、このまま継続した活動をお願いします
- ・ 自らの課題を設定し、その解決に向けて取り組む姿勢・やり遂げる意思の強さ
- ・ レベル
- ・ 論理的思考、問題解決力、コミュニケーション力は問題ない。しかし、リーダーシップの資質については若干欠ける。

3.九州工業大学 大学院工学研究科の教育に対して、ご意見・ご要望(企業が必要とする人材の専門分野、専門知識等)がございましたらご記入下さい。

指摘されている事柄をキーワードで列挙すると、「専門分野の基礎力」、「関連分野を含む総合的技術と能力」、「課題探求能力」、「広い視野をもつ」、「語学の素養」等の育成を期待されていることがわかる。

- ・ 教区内容(レベル) = 本人の理解度ではありません。本アンケートの活用の仕方が難しいのでは？
課題探究、独創性、構想力のある人、また、個性的であることが望ましいです。
- ・ 英語教育をはじめとして、異文化に接する機会をできるだけ多く作っていただきたい。
- ・ 解答は他大学より入社した学卒社員と比較してお答えしています。学力、人間性、コミュニケーション、労働意欲など多くの面で優れていると感じます
- ・ 化学・物理等の基礎分野にとらわれず、より現実の事業に近い分野の技術を総合的に兼ね備えてほしい。事故の専門を狭い範囲とせず、どこに行ってもつぶしのきく人材の育成を希望します
- ・ 学生の視野を広げる指導を強化していただけるとなおります。例えば研究で難題に直面したとき、解決するための手段を現状すぐに対応できる方法だけに絞るのではなく、可能性を広く探索されると、より技術者としての幅が広がると思います。
- ・ 製品のエレクトロニクス化が進んでおり、機械分野と電気電子分野を併せて勉強できると、より入社後力を発揮していただけると思います。また、グローバル化が加速しており、「英語」は必ずついて回ってきます。自助努力によるところが大きいとは思いますが、語学の素養があると良いと思います。(実際、技術系社員で、英語が昇進・昇格を妨げているケースが散見されます…)
- ・ 専門分野のみではなく、関連分野も含めたマネジメント能力が必要

- ・ 存分に力を発揮していただき、追加の意見・要望はありません。
- ・ 当社の求める人物。基礎力(専門分野)、機械系:構造学、力学系分野の知識。電気・電子・情報系;ハードウェア(電子回路、アナログ、デジタル回路、制御工学系)、ソフトウェア(組み込みソフトウェア、C言語、データベース等)。人物像:コミュニケーション力、プレゼンテーション力
- ・ 土木分野

4. 全体としての傾向

2012年度においては、「やや優れている」以上の評価は、「専門」と「仕事に取り組む熱意」が88%と高く、70%代に「理数系」、「課題探求能力」の2項目が続く。60%代には「課題解決能力」、「コミュニケーション能力」の2項目、50%代には「教養」、「構想力」、「表現力」の3項目があり、50%を切るものは、「独創性」の46%、「語学」の31%である。全般的には前年度からはわずかに良くなっている。「劣る」の評価は全項目になく、「やや劣る」の評価も「語学」の12%を除いては他の項目での回答数は高々1社である。

全般において修了生は企業から高い評価を受けていると判断できる。しかし、「語学」と「独創性」の評価は相対的には低い。「語学」は以前から指摘されている緊急の課題であるが、「独創性」についても今の教育を再点検する必要である。

2.5 教育達成度評価アンケート：卒業生 (2010年3月以前卒業生)

本節(2.5)と次節(2.6)では、まだ、九州工業大学工学部及び大学院工学府(旧工学研究科)における教育効果が残っていると思われる入社後3年程度を経過した本学卒業生・修了生を対象に、彼らが大学時代に受けた教育レベルと満足度に対するアンケート調査を実施し、その結果をまとめています。

アンケート実施年月日 平成25年6月25日

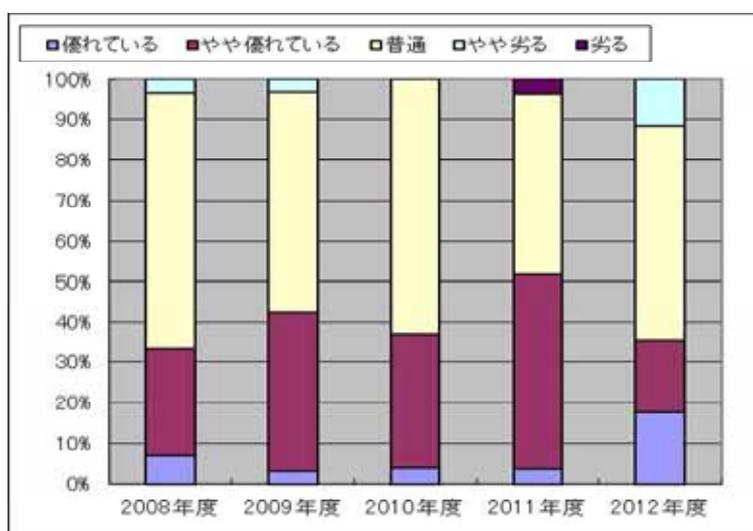
アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
145名	28名

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

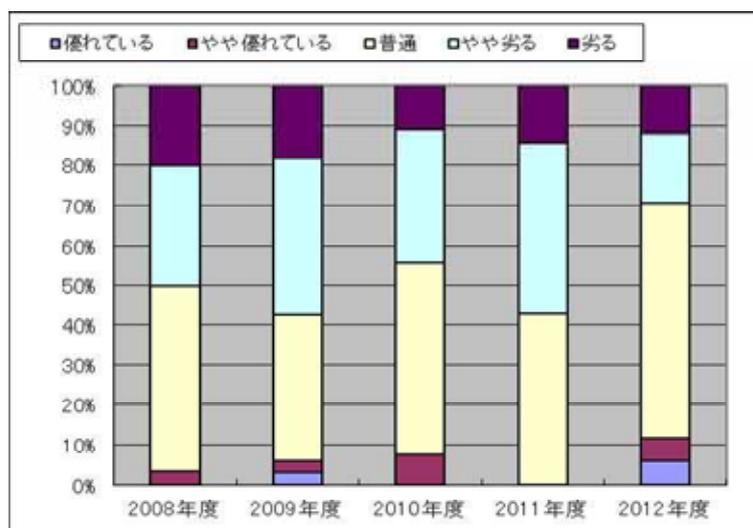
(1) あなたが受けた教養教育のレベル

「やや優れている」以上の評価は2011年度50%を超えていたが、2012年度は40%を切るところまで後退した。注視し続けることが必要な教育項目である。



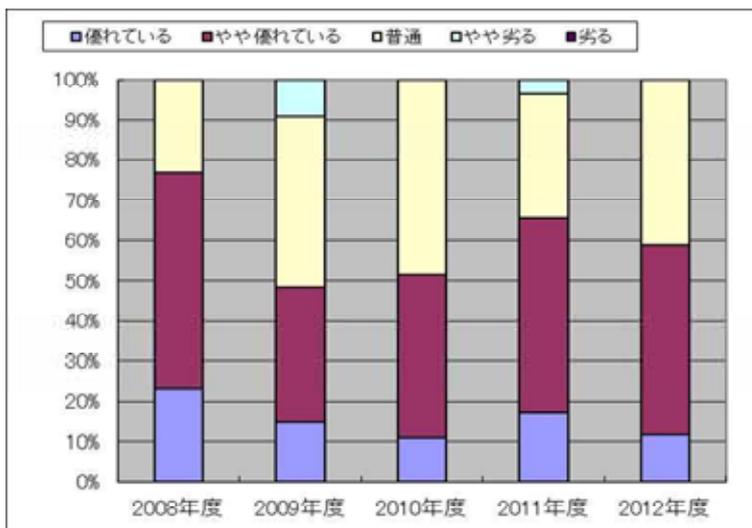
(2) あなたが受けた語学(とくに英語)教育のレベル

「普通」以下の評価が依然約90%を占めている。「やや劣る」以下の評価は約30%までに減少した。これから行われようとしている対応策を見ながら更なる改善策を引き続き考えていく必要がある。



(3) あなたが受けた理数系教育のレベル

2011年度と比べて2012年度においては「優れている」「やや優れている」肯定的評価の割合がやや減少しているものの、約60%が肯定的な評価となっている。



(4) あなたが受けた専門教育のレベル

2012年度においては「優れている」「やや優れている」の肯定的評価が昨年度と比べ15%減少した。否定的な意見はないものの今後注視していく必要がある。

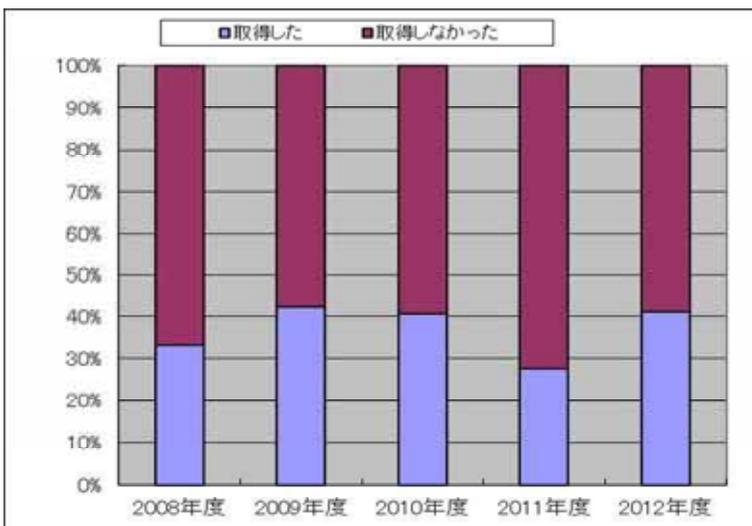


(5) あなたは入社後資格を取得しましたか？

入社後取得した資格（具体的に）

- ・ 技術士補（建設部門）
- ・ 衛生管理者
- ・ 日本機械設計工業会3級
- ・ 第2級開錠特殊無線技士
- ・ 有機溶剤作業主任者、酸素欠乏・硫化水素
- ・ 危険作業主任者等
- ・ 消防設備工甲種1類、学会設備工（衛生）

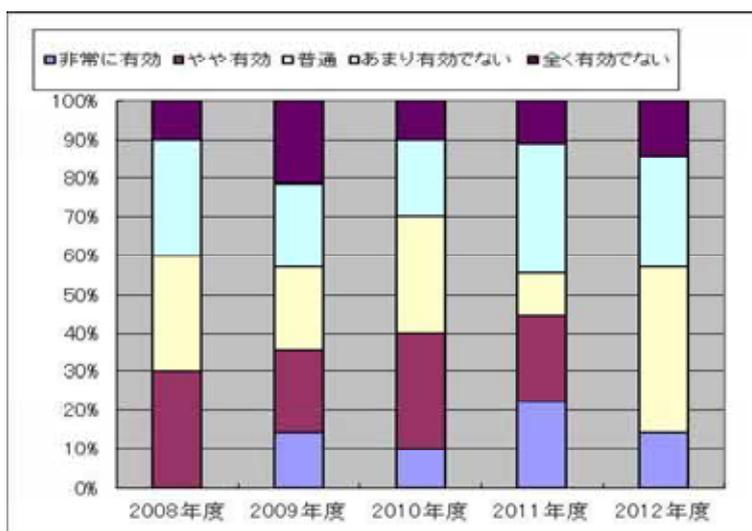
6件の資格取得は認められている。2012年度には2011年度より10%程度取得件数の割合が増加している。今後、資格取得に関する意識を高める教育も必要と考えられ



る。

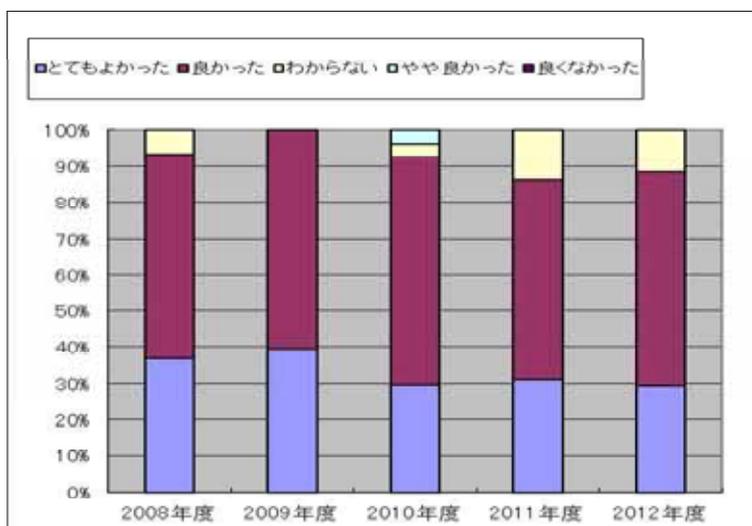
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。
本学の教育は資格取得に有効でしたか？

2012年度では2009年以降2011年まで、「全く効果がない」の強い否定的評価の比率が10%以上である。全般的には肯定的評価は40~50%に留まり、大差はない。否定的評価に関しては資格の種類と大学教育のマッチングの問題等も関連しているものと考えられる。



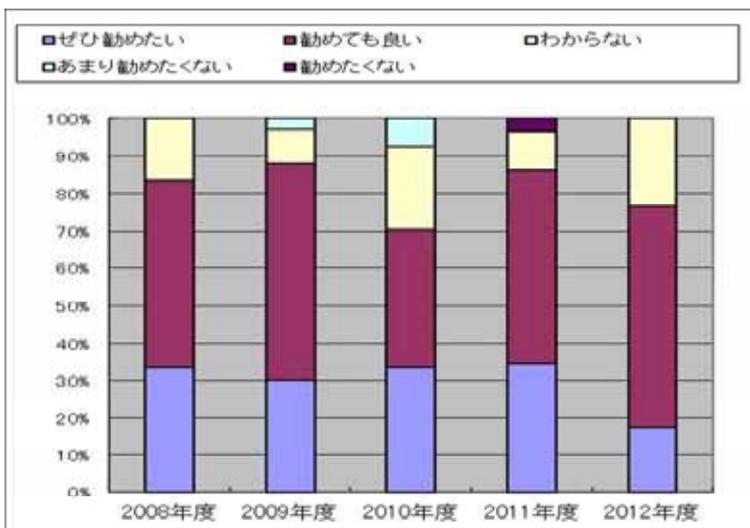
(7) あなたは、九州工業大学工学部を卒業してよかったと思いますか？

2012年度においては「とても良かった」「良かった」の肯定的評価が依然80%以上であるものの、「わからない」の中立的評価をする割合も10%程度みられる。全体的にはほとんどの卒業生が今の仕事を続けていく上で、本学で受けた教育の成果を肯定的に考えている。



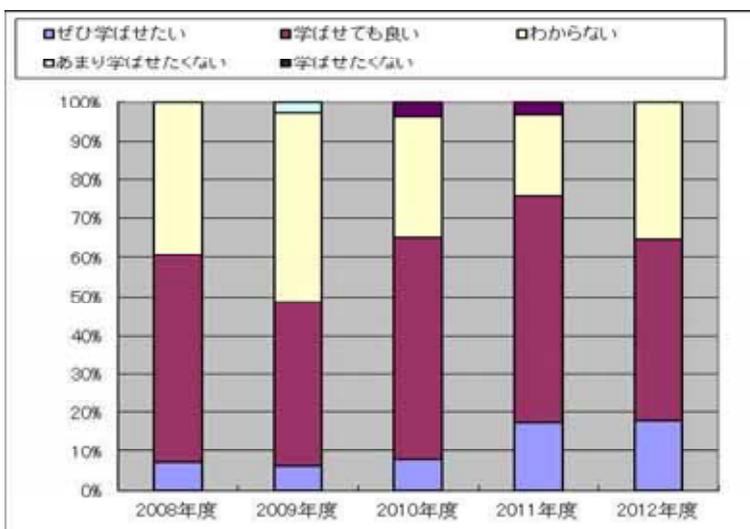
(8)あなたは、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩に勧めたいと思いますか？

2012年度においては、「ぜひ勧めたい」、「勧めても良い」の肯定的評価の割合が2011年度の約10%程度減少している。いずれにおいても、九州工業大学工学部を魅力ある学部として後輩に勧めたいと思うように更なる努力が必要であろう。



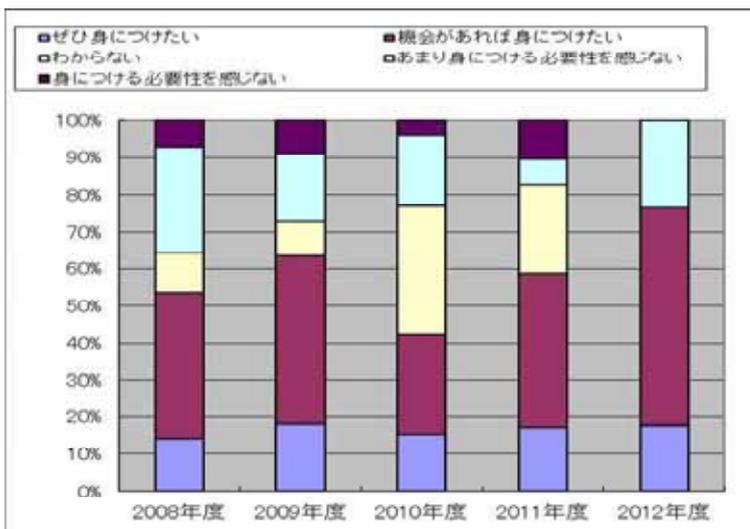
(9)あなたは、将来、子供ができたら、九州工業大学に学ばせたいと思いますか？

2012年においては、「ぜひ学ばせたい」、「学ばせても良い」の割合が60%に達している。今後も更なるこの流れを継承し、より魅力ある大学にする努力が必要である。



(10)あなたは、更に高度な学力(修士、博士)を身につけたいと思いますか？

2012年度は2011年と比較して、高度な専門性の学力習得に肯定的評価をするものが15%以上増加している。「わからない」と回答した割合は20%近く増加している。かなりの数の学生がその必要性に迷っていることは明らかである。



2. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して良かった点がありましたらご記入下さい。

九州工業大学で学んだことが十分に職域において貢献している。特に研究室に入ってから研究と全体的

教育によって習得したことが有効であったと考えられる。専門教育やその教育レベルの高さについての満足度は高く、研究指導では学術面の指導のみならずサークルや共同研究を通じての有意義な人的交流も特筆されている。

- ・ 専門知識が豊富な指導官のもと、研究・学習できた。
- ・ 自分が面白いと思うこと(画像処理)を見つけられ、さらにそれをやりたいこととして、希望した就職先に進められたこと
- ・ 入学の難易度はそれほど高くなかったが、レベルの高い講義や研究室での指導が受けられ、非常に良かった。そのため留年する人も多数いたようですが、講義のレベルは下げるべきではないと思う。OBが有名企業等にも沢山おり、就職が比較的容易にできた
- ・ 適度に授業もあり遊ぶ時間もあり楽しかった。努力次第で自分の身に付くなと思った(学業や研究等)
- ・ 研究室での日々の学習や、1回/月の発表会で、社会人になって研究発表をする際に役に立った。研究室で学習した有限要素法(FEM)のソフトは会社でも使う考え方で大いに役に立った。
- ・ 金属材料などの専門知識を修得でき、就職、会社業務に役立っている(予備知識程度であるが)
- ・ 卒業後入社してから、想像以上に他社を含め九工大 OB が多いことに驚いた。OB つながりで仕事ができる環境があることが良いと思う。
- ・ 会社においても活用できる材料分野の知識や、実験、解析手法が学べてよかった。
- ・ OB 会がしっかりしており、職場での交友関係がすぐに広がった点
- ・ 課題やレポートが大量に出題された為、難しい課題に対しても自発的に調べたりして取り組む姿勢が身に付いた。
- ・ 先輩方のフォローが厚いこと
- ・ 就職活動に推薦等あり、就職活動が楽に行えた
- ・ 十分な学習環境が整っていたこと
- ・ 学寮に在籍できたこと。

3. あなたが九州工業大学 工学部 に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた(例えばこういう技術(科目)を教えてほしかった)点がありましたらご記入ください。

学部の教育の目的や課程と日常の会社業務遂行に必要なとされる能力や資格の差異については本人の意識も截然としていないため、アンケートには「不満」として表れてしまったように見受けられる。特に卒業後の業務内容との関係で一般教育や専門科目に対する要望が示されている傾向にあり、そのため実践的教育を望む声が多い。大学教育における論理的思考能力の育成という基本的課題との調和を図りながら、英語教育、プログラミング言語、CAD等の科目のより一層の充実が求められている。

- ・ 現在はどうかは不明だが、学内の諸設備を充実していただきたかった。
- ・ 講義で習ったことが、具体的に何に役立つのかをもっと教えてほしかった
- ・ 英語の教育をもっとどうにかしてほし。高校時よりも英語力が押した気がする。低学年次にプレゼン系の科目を必修とすべき。
- ・ 建社に CAD の授業を取り入れてほしい。インターンシップを積極的に参加するよう指導したほうが良い。専門の理論を学ぶのも大事だが、将来就職の事も念頭に置いた実践的な内容も学びたい。経験程度でも構わないので
- ・ 研究室で教授と助教授の考え方が「推薦」での就職活動しかなく、会社説明会や合同説明会の参加が理由の研究室不在を許してくれなかった。研究室も忙しく、腰を据えて就職活動をできたと思えない。研究室、生協などで就職

活動の相談窓口や進路相談などに対応する仕組みづくりをしっかりとほしい(教授の認識も含めて)。英語教育が高校英語よりも簡単な授業だった。企業では TOEIC が求められるので、授業があったらよかったと思う。(私は大部、会社で TOEIC で点が伸びず出遅れました)

- ・ 必修科目にもっと議論や人前で意見を発言するスタイルを増やすと良いと思う(選択ではあったが)。工業系大学ならではのもっとディープな選択科目があれば良いと思う。
- ・ 九工大 = 理系単科なので、近隣の北九大など、文系学部の授業を履修できるようなシステムがあれば、学びの幅が広がり、九工大生としてのメリットが大きくなると思う
- ・ プラスチック等を専門にあつかう科目があればよかった。非鉄の鉱石や鋼鉄スラグに関する技術もあれば更に良いと思います。
- ・ 就職活動時の推薦しか認められなかった点。大学院に進まない(学部で卒業)のは意味がないと断言された点。
- ・ 企業へのインターンシップは1社、1週間程度経験したが、今思えばもっとガズ多くの企業を訪問できれば良かったと思う
- ・ ラダーシーケンスの読み方。産業制御機器 CDCS,PLC
- ・ ドイツ語も受講していたが、あまり役立つものでなかった。
- ・ JABEE の認定を受けて欲しかった。(技術士補資格取得のため)
- ・ 職業にもよるが統計学をもう少し学んだ方が良かったと思う。基本的にはどの学科でも教えて頂けるが、生産バラツキとかの概念は重要だと思う。

4 . 全体としての傾向

回答のあった卒業生は 28 名 (回答率 19.3%) であった。問 2 の「在学して良かった点」と問 3 の「不満を感じた点」で相反する形の回答が散見され、各人の在学中や就職後の充実感・手応えと言ったものが多様であること、また卒業生の向上心が高いことを反映している。

学部教育と大学院前期、そして大学院後期の教育の目的と実社会の業務遂行における能力・資格の差異が本人にも截然と意識されていないためアンケートには「不満」として表現されてしまったような部分が見受けられる。

大学教育における論理的思考能力の育成という基本的課題との調和を図りながら、英語教育、実験・実習、プログラミング、プレゼンテーションなど実践的科目のより一層の充実が求められている。

2.6 教育達成度評価アンケート：修了生 (2010年3月以前修了生)

アンケート実施年月日 平成25年6月25日

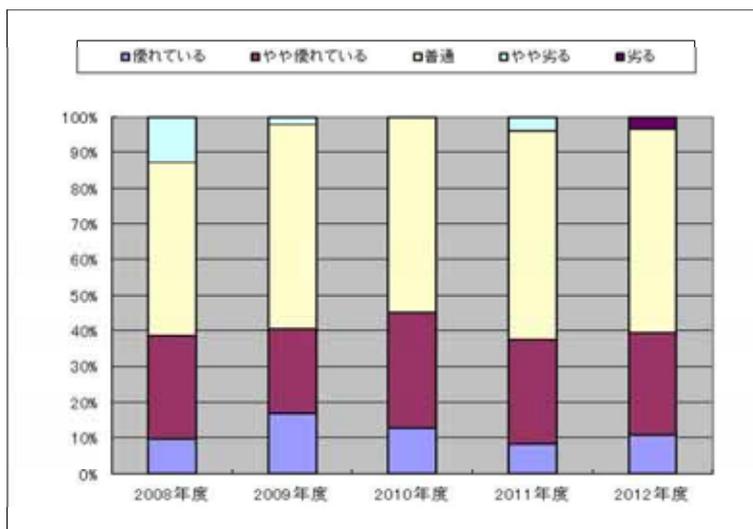
アンケート回収率

配付枚数	回収枚数
145名	24名

1. 教育の達成度について、該当項目に○をつけてください。

(1) あなたが受けた教養教育のレベル

2010年度は「優れている」と「やや優れている」の割合が2009年度より微増している。教養教育のレベルについては肯定的に評価されている。しかし、2011年度と2012年度は肯定的に評価している割合が40%に減少している。



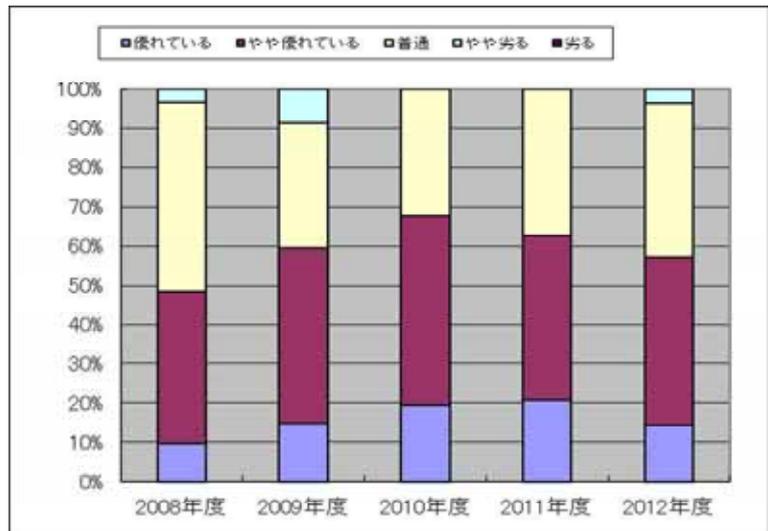
(2) あなたが受けた語学(特に英語)教育のレベル

英語等の語学教育については、現状の批判的評価が2008年度より見てみると次第に減少したが、2012年度は幾分増加した。しかし、中庸的評価が減少し、肯定的評価も増加している。今後も特に英語教育を改善する必要がある。



(3) あなたが受けた理数系教育のレベル

理数系の教育レベルについては、肯定的評価が6割程度であり、良い評価を得ている。2009年度に10%程度あった「やや劣る」は2010年度と2011年度においては消えており、改善が進んでいることがわかる。しかし、2012年度には否定的評価も5%ほどみられる。



(4) あなたが受けた専門教育のレベル

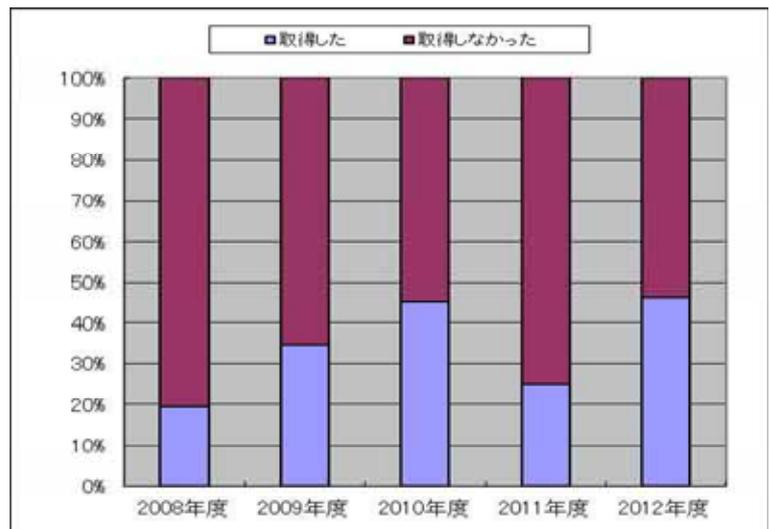
専門教育のレベルについては、肯定的評価が90%程度あり現在の教育内容が高く評価されていると判断できる。全体的にみても肯定的評価が80%を超えている。



(5) あなたは入社後資格を取得しましたか？

入社後取得した資格（具体的に）

- ・ 2級ピオトップ計画管理士、技術士補
- ・ エネルギー管理士、危険物取扱者乙4種、二級ボイラー技士
- ・ 危険物(乙4)、中小企業診断士
- ・ 危険物取扱者甲種
- ・ 技術士補
- ・ 技術士補(建設部門)
- ・ 技能検定:電子機器組立2級
- ・ 高圧ガス(甲)、危険物取扱者乙4、二級ボイラー技士
- ・ 高圧ガス製造保安責任者
- ・ 第二種電気主任技術者、危険物取扱者

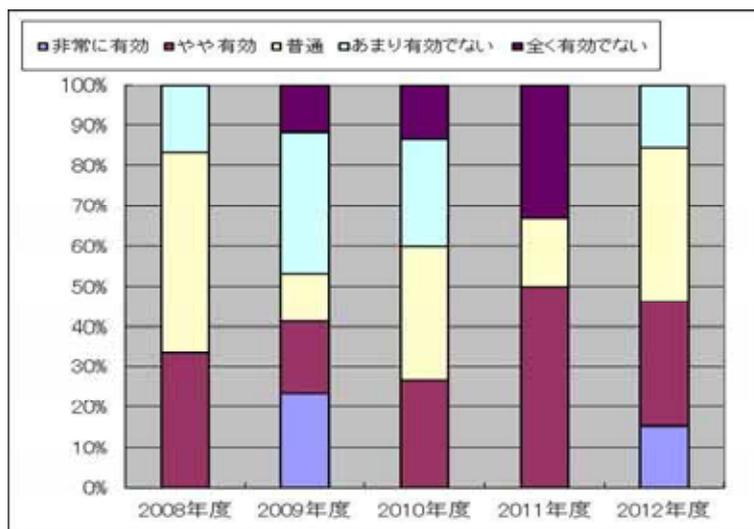


- ・ 特定化学物質作業主任,有機溶剤作業主任者,等
- ・ フォークリフト運転証、玉掛け技能修了証、
 鋳造技士
- ・ 第三種電気主任技術者

入社後に何らかの資格を取得した者の比率が 2011 年度より 20%増加している。

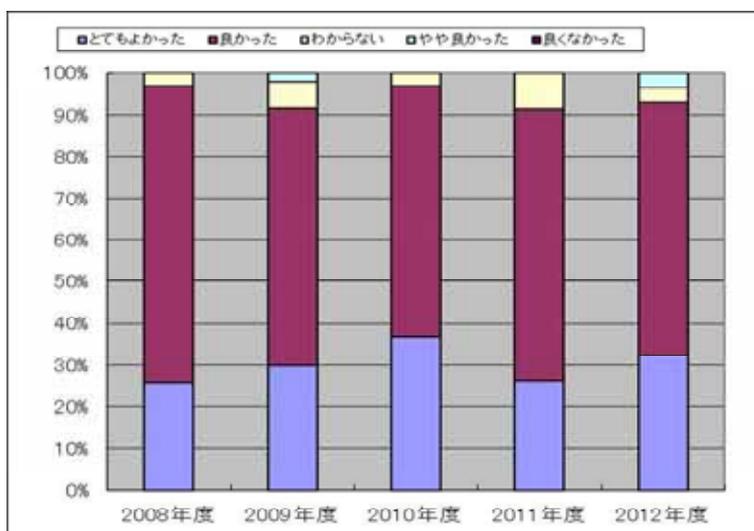
(6) 資格を取得した方にお尋ねします。
 本学の教育は資格取得に有効でしたか？

資格取得に対する本学の教育を肯定的に評価する者の数が減り、「普通」以下の評価をする者の数が増えた。2012 年度は2011年度と比較して強く肯定した者が 15%増加した。更なる今後の調査が必要である。



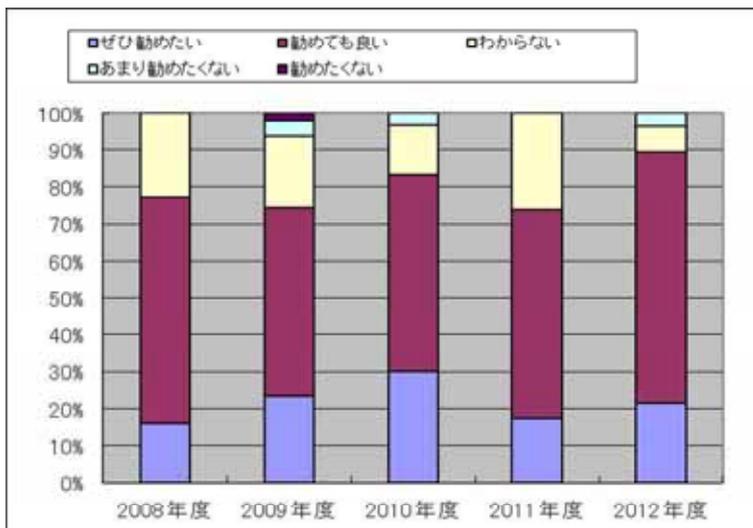
(7) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科（博士前期又は後期課程）を修了してよかったと思いますか？

工学研究科の教育のあり方としては、2012年度も、これまで同様、大多数から肯定的評価を受けていると判断できる。



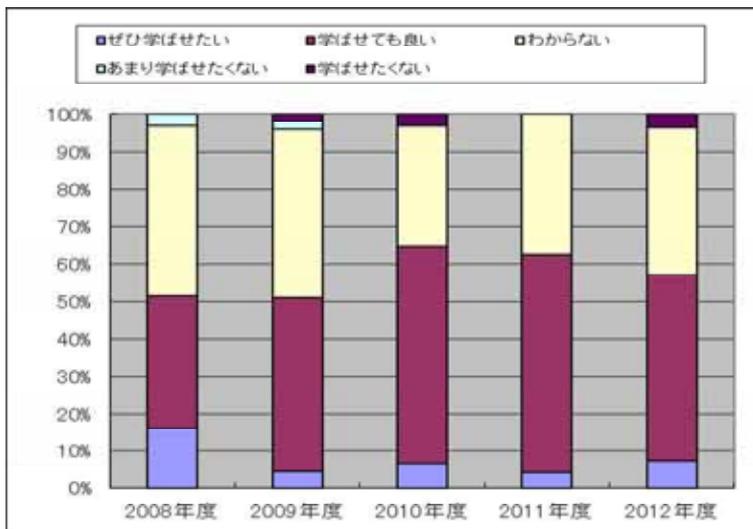
(8) あなたは、九州工業大学大学院工学研究科を魅力ある研究科として後輩に勧めたいと思いますか？

2011年度から2012年度にかけて「ぜひ勧めたい」が10%程度増加した。肯定的評価が90%を超えている。今後は「わからない」の中庸的評価の比率を下げていく必要がある。



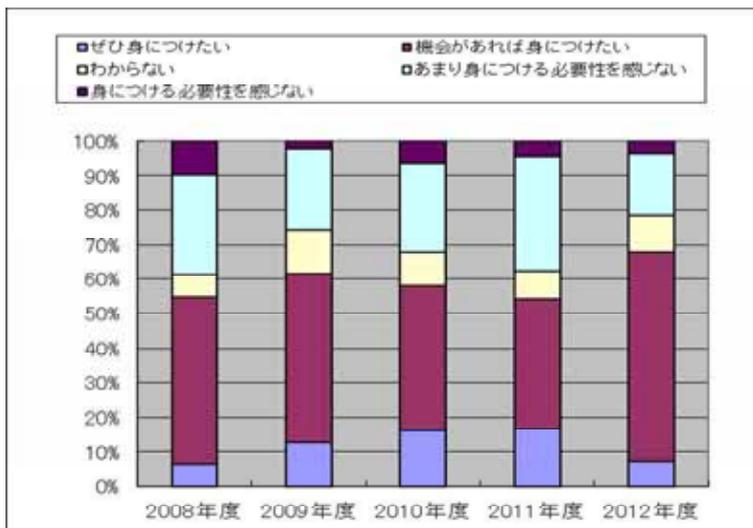
(9) あなたは将来、子供ができれば、九州工業大学に学ばせたいと思いますか？

2012年度の傾向を見ると、「ぜひ学ばせたい」と「学ばせても良い」が合計で60%程度であり、2011年と同様、高い評価を得ている。しかし依然「わからない」以下の回答も多い。より魅力ある大学にする努力が必要である。



(10) あなたは、更に高度な学力(博士)を身につけたいと思いますか？

「ぜひ身につけたい」と「機会があれば身につけたい」の肯定的評価は70%近傍であり、これまでで最も高い値を得た。一方、「あまり身につける必要性を感じない」と「身につける必要性を感じない」は2011年度と比較して、10%以上低下している。高度な学力を身につける意義を認識している傾向が有る。



2. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して良かった点がありましたらご記入ください。

大学院に在籍して良かった点として、研究指導を通しての教員とのコミュニケーション、在籍中に学んだ専門知識、研究室での先輩、同輩、後輩との交流や深いつながり、学会発表、産学連携などを挙げている。このような評価は昨年と同様であり、今後もその維持と一層の高度化を図りたい。

- ・ 1つの専門をずっと勉強することの楽しさを知った。良い先生の下で勉強できた。
- ・ 学部の頃に学んだ知識の全容を知ることができた。(学部時代は専門知識を一部身に付けて、すぐ卒業してしまい、その知識がシステム全体のどこで役に立つかはっきり把握できていなかったと思います。)
- ・ 学会への参加:他大学の方や、似た研究をされている方の考え方など、刺激の多い内容であった。
- ・ 金属に関する知識(状態図等)を専門的に学ぶことができた。
- ・ 研究室に配属されてから、より専門的なところまで学ぶことが出来た、担当教員から直接質の高い教育を受けることが出来た。
- ・ 研究室の指導がとても熱心だった。学会等に参加する機会が多く、良い経験となった。
- ・ 研究において、実験をする為の治具や装置を作ることを経験できたので考える物づくりを学べて良かったです。
- ・ 研究のための測定機器や設備が整っていて、様々な知識や技術を身に付けられたのでよかったと思う。
- ・ ご指導頂いた、石川教授、タン准教授に大変ありがたいご指導をいただいたことです。私は大学院編入ですが、部外者の私を心よく受け入れて下さった先生方に出会えたことがとても良かったです。研究においても必要な機材なども準備や活用も頂けて大変有意義な活動が出来ました。
- ・ 材力、熱力、水力、機力とすべての分野の知識を深めることが出来た
- ・ 自主的に研究・勉強する時間を与えられたこと。
- ・ 社内に九工大卒業生が多いこと
- ・ 就職活動で苦勞しなかった点(推薦等の就職のサポートがしっかりしていたため)
- ・ 就職に有利な点。国際学会等で発表の機会を得ることができた点。
- ・ 強い縦横とのつながり、頭だけでなく手を動かすことも知っているのも社会に順応しやすい、体育会系の風土による多様な人間関係への順応力の強化・変化を受け入れる人間形成に役立ちました。
- ・ 優秀な学生、先生と出会えたこと。集中して研究に取り組める環境が整っているところ。

3. あなたが、九州工業大学大学院工学研究科に在学して不満を感じた点、こう改善すべきだと感じた(例えばこういった技術(科目)を教えてほしかった)点がありましたらご記入ください。

英語教育の必要性を求める意見と、より実践的な専門科目や社会的に必要とされる教育やスキルを求める声が多い。今後は高度な専門教育と同時に企業等で求められるビジネスマインドを涵養するような教育への対応を考える必要がある。

- ・ 一度だけでなく、繰り返しの教育がして欲しい。
- ・ 英会話
- ・ 英語の科目を増やすべき
- ・ 応用研究よりも研究・工学的な基礎について、学ぶ機会を増やすべきだった。
- ・ 学部生の時、その授業でしか使わない高い教科書を買わされたことが何回かあった。学校で統一の教科書を使う。もしくはプリント形式の授業にした方が良いのでは？
- ・ 教師によって教育のレベルの差が大きかった。(わかりやすさや教育に対する情熱等)
- ・ 研究の内容、授業の内容も大事だが、研究の進め方や論文の書き方一般的な仕事の進め方を学びたかった。そして単位を取った科目は将来にどう活かせるのか？目的なども教えて頂けると、より積極的に受講できたと思います。
- ・ 工業英語への取り組み、教科書と実務を結び付けやすい指導方法

- ・ 語学の授業を受けさせる(必須科目)制度にしてもよかったと思う。
- ・ 大学院の教育は先生によってはマニアック過ぎて社会に出て、本当に役立つのかと思うことがあった。
- ・ 電気制御について詳しく学ひたかった。
- ・ プレゼンテーションに関する講義、または、発表を行う機会が多くあると良いと思う
- ・ 編入組なのですべてを知っていませんが、制御ロジックだけでなく、それをどうやって実践、実際のものにつくりあげるための知識、能力がほしいです(たとえば、マイコン等のハード設計等)
- ・ もう少し踏み込んだ講義を受講したかった。(基礎的な事を学ぶことができたが、応用については学ぶ事ができなかつたと実感しています)
- ・ もっと学外に出ていくような機会を増やすべきだと思う(半強制的にも)。Ex)インターンシップに必ず行かせるなど。
- ・ 予算(研究室)がなく、解析が思うように進まなかった。安い消耗品ぐらいは自由に使わせてほしかった。マテリアル工学科は JABEE に認定されたのでしょうか？私の代は認定対応のために、科目や制度がかわって大変だったので是非認定されていて欲しい。

4. 全体としての傾向

回答者 24 名、回答率 12.7%で昨年度より回答率が半減しているものの、昨年と同様に修了生の工学研究科に対する評価はかなり高く、研究室での生活が充実したものであったことがわかる。また、専門性、プレゼンテーション能力、問題解決能力の向上にも十分な満足度が得られているものと判断される。しかし、英語教育については 1.の(2)にあるように、依然修了生は不足感を感じており、大学院の英語教育のあり方を議論し、対策を施す必要がある。

3.2.1 大学院工学研究院部局評価委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 平成23年度卒業生、修了生アンケートの解析・まとめ
- (2) 平成23年度企業アンケートの実施と解析・まとめ
- (4) 「現状と課題」平成23年度版の発行

2. 今年度採択した事項

- (1) 各種アンケートの結果をまとめ、「現状と課題(平成23年度版)」に掲載した。
- (2) 平成24年度卒業生・修了生アンケート内容を検討した。
- (3) 平成24年度企業アンケート内容および実施方法を検討した。

3. 残された課題または将来解決すべき事項

- (1) 各種アンケート結果の効果的な活用

卒業生、雇用主等への各種アンケートは教育システムの評価に不可欠のものであり、今後も継続して実施すべきである。しかし、この結果を評価だけではなく、教育システムの改善にさらに効果的に反映させる方法を考える必要がある。

4. 委員会の議論に使用された主な資料

- ・工学研究院部局評価委員会内規
- ・教育達成度評価アンケート実施のための情報提供依頼文書(案)
- ・雇用主アンケート(案)
- ・修了・卒業後3年が経過した修了生・卒業生に対するアンケート(案)
- ・平成24年度に実施する教育職員評価の方針に対する意見について
- ・企業アンケート分析結果について
- ・卒業生・修了生アンケートについて
- ・「現状と課題」23年度版について

5. 工学部の現状に関する意見または改善に関する提言

上記3.(1)(2)と同様。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 各種アンケート結果の効果的な活用

卒業生、修了生、企業を対象とした3種類のアンケートを応用化学科で行っているJ A B E E プログラムに必要なアンケートと兼ねるため、本アンケートの目的を修正した。ただ、その他の教育システムへの反映については十分とは言えず、何か方策を考える必要がある。

- (2) 教育と研究の活性化システム

各種アンケート結果を教育と研究の活性化に使用するためには、この結果をフィードバックするループが必要である。これは、以前からの課題であり、今年度も議論はしたが良い考えは得られなかった。今後も引き続き検討する必要がある。

- (3) 教育職員の評価

大学評価委員会において、平成21年度実施の教育職員評価をふまえて、勘案すべき評価項目について検討を行った。部局評価委員会においても、大学評価委員会の議論を随時フィードバックし、意見の反映に努めた。ただ、まだ十分とはいえず、24年度の実施結果に基づいてさらに改善する必要がある。

3.2.2 工学部教務委員会

1. 今年度取り組んだ課題

(1) 教育関係

中期計画・中期目標

平成24年度中期目標・中期計画について

平成25年度年度計画について

部局間相互評価について

学部教育改革

学部教育WGの検討状況について

学生の成績評価と適用基準の公開について

2、3年次向けオリエンテーション実施について

成績

卒業査定について

進級査定について

規則等

学年暦の変更に伴う学則の変更について

工学部学修細則の一部改正(案)について

平成25年度工学部研究生等事務手続き要領について

受験料補助運用要項の実施について

単位認定

編入生の単位認定について

オールドドミニオン大学派遣学生の単位認定について

eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位認定について

外国語能力試験の成績に基づく単位認定について

国際交流協定校

平成24年度オールド・ドミニオン大学語学研修派遣学生について

昌原大学校との短期プログラム実施について

九州工業大学と昌原大学校との短期プログラムに関する要項の改正について

JABEE

JABEE受審に向けての対応について

JABEE講習会の参加について

「エンジニアリング・デザイン能力育成科目設置準備検討ミーティング」の設置について

学年暦

入学試験の実施に伴う臨時休講措置について

新入生研修に伴う休講措置について

授業調整期間・再授業再試期間について

学期末試験に係る授業日数について

コース分け

平成24年度コース分けスケジュール(案)について

コース志望状況について

振り分け結果

入学前教育

推薦入試 合格者の入学前教育について

推薦入試 I 合格者ガイダンスの実施について

学修自己評価システム（前年度検討からの検討課題）

学修ポートフォリオシステム専門部会構成員について

学修成果自己評価システムおよび学習成果自己評価シートについて

期末試験

期末試験・再試験の実施について

成績評価の異議申し立てについて

平成25年度

平成25年度時間割の作成について

平成25年度非常勤講師任用予定時間数について

平成25年度入学生の指導教員の割り振りについて

平成25年度オリエンテーションスケジュールについて

平成25年度学年暦について

平成25年度学生便覧等作成スケジュールについて

平成25年1月以降主要行事予定表（案）について

平成25年4月以降の行事予定について

その他

学術講演会開催への協力願について

早期開講科目が「査定外」と表示されることについて

第1回教育運営改善会議の報告について

「秋入学に関するアンケート」について

工学系数学統一試験(EMaT)の開催について

学生生活実態調査の「大学への要望等」について

(2) 授業関係

「工学と環境」、「工学倫理・安全工学」の開講について

工学部基礎共通実験実習経費について

大学院入門科目の受講申請状況について

工学系総合科目「インターンシップ実習」について

「図書館情報リテラシー」の実施報告について

平成24年度特別講義について

読替科目一覧表について

(3) 修学指導

学籍

工学部学修細則第15条の取扱いについて

韓国人留学生の兵役に伴う休学の取扱いについて

平成24年9月30日に休学期間満了となる学生について

平成25年3月31日に休学期間満了となる学生について

連続する2年間で30単位を修得できない学生について

平成25年度末で除籍になるおそれのある学生について

除籍対象学生への通知等について

授業料未納による除籍の取扱いについて

通知

全学生の保証人への成績郵送について

1年次保証人への単位修得状況の通知について

卒業・進級査定に関する学生通知について

履修登録をしていない学生について

(4) その他

福岡県立ひびき高校との高大連携に係る公開授業について

電気空調講義室使用の講義のガス空調講義室への移動について

2. 今年度採択した事項

(1) 教育関係

中期計画・中期目標

平成24年度中期目標・中期計画について

平成24年度計画を実施し、暫定評価および最終評価を行った。

平成25年度年度計画について

平成25年度年度計画を策定した。

学部教育改革

学部教育改革答申について

学部教育改革答申に基づき、教務委員会担当事項を確認し、次年度以降検討することとした。

・入門科目の全学科導入

・他分野科目の卒業要件化

・3年次(4年次)PBL科目の設置

・1年次TOEFL、3年次TOEFL(TOEIC)の一斉実施

・3年次(4年次)専門英語の設置

「グローバルエンジニア養成教育」に基づき、「グローバル教育実践実習」の新規科目を設置した。

2、3年生向けのオリエンテーションを実施することを決定した。

学生の成績評価と適用基準の公開について

工学部長からの学生の成績評価と適用基準の公開について検討依頼を受けて、ワーキンググループを立ち上げ、検討の結果、学修細則の開催を行った。

成績

卒業査定について

卒業査定を実施した。

進級査定について

進級査定を実施した。

規則等

工学部学修細則の一部改正（案）について

学修細則および「履修コースの専攻の決定に関する要項」を改正した。

平成25年度工学部研究生等事務手続き要領について

平成25年度工学部研究生等事務手続き要項を決定した。

単位認定

以下の単位について認定した

編入生の単位認定

オールドドミニオン大学派遣学生の単位認定

eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位認定

外国語能力試験の成績に基づく単位認定

国際交流協定校

九州工業大学と昌原大学校との短期プログラムに関する要項の改正を決定した。

JABEE

JABEE受審に向けて、必要な事項を検討し、「エンジニアリング・デザイン能力育成科目設置準備検討ミーティング」を立ち上げ、「エンジニアリング・デザイン教育ワークショップ」を開催した。

学年暦

以下の臨時休講措置、授業調整期間等を決定した。

入学試験の実施に伴う臨時休講措置について

新入生研修に伴う休講措置について

授業調整期間・再授業再試期間について

学期末試験に係る授業日数について

コース分け

機械知能工学科2年次、建設社会工学科2年次および3年次、電気電子工学科2年次のコース分けを実施・決定した。

入学前教育

推薦入試 合格者の入学前教育として、合格者ガイダンスおよび通信教材による教育プログラムを決定・実施した。

学修自己評価システム（前年度検討からの検討課題）

前年度からの検討課題であった学修自己評価システムについて、学修ポートフォリオシステム 専門部会構成員を決定し、課題点および問題点について検討するためのワーキングを立ち上げた。

学修成果自己評価システムの操作ガイドを作成し、各学科にて、入力率向上の取り組みを実施した。

期末試験

期末試験・再試験の実施および成績評価の異議申立について、審議し、承認した。

平成25年度

平成25年度時間割の作成について

平成25年度時間割を作成した。

平成25年度非常勤講師任用予定時間数について

平成25年度非常勤講師任用予定時間数を審議、決定した。

平成25年度入学生の指導教員の割り振りについて

平成25年度入学生の指導教員の割り振り方法を審議、決定した。

平成25年度オリエンテーションスケジュールについて

平成25年度オリエンテーションスケジュールを決定した。

平成25年度学年暦について

平成25年度学年暦を決定した。

平成25年度学生便覧等作成スケジュールについて

平成25年度学生便覧等作成スケジュールを決定した。

その他

第1回教育運営改善会議の報告について

教育運営改善会議の報告内容について、確認した。

「秋入学に関するアンケート」について

「秋入学に関するアンケート」を実施した。

学生生活実態調査の「大学への要望等」について

学生生活実態調査の「大学への要望等」の回答案について審議し、決定した。

(2) 授業関係

「工学と環境」、「工学倫理・安全工学」の開講について

2011年度入学生から、工学総合科目「工学と環境」「工学倫理・安全工学」が選択必修となっている旨、確認し、次年度から履修状況に留意する旨、確認した。

工学部基礎共通実験実習経費について

工学部基礎共通実験実習経費について、平成24年度案を作成し、承認した。

大学院入門科目の受講申請状況について

大学院入門科目受講の申請を審議し、承認した。

工学系総合科目「インターンシップ実習」について

「インターンシップ実習」について、学修細則第7条第3項に定める科目として、46単位の上限設定（キャップ制）の対象としない科目とすることについて、審議の結果、承認した。

読替科目一覧表について

読替科目の確認を行った。

(3) 修学指導

学籍

工学部学修細則第15条の取扱いについて

平成23年度入学生のうち、今年度末で学業成績不振による除籍に該当する学生についての取扱い・対応スケジュールを決定した。

韓国人留学生の兵役に伴う休学の取扱いについて

韓国人留学生が兵役に伴い2年間休学することについて、審議の結果、除籍に該当しない旨、決定した。

以下について、保証人宛に通知文書を郵送した

- ・平成24年9月30日に休学期間満了となる学生について
- ・平成25年3月31日に休学期間満了となる学生について
- ・連続する2年間で30単位を修得できない学生について
- ・平成25年度末で除籍になるおそれのある学生について
- ・除籍対象学生への該当通知
- ・全学生の保証人への成績郵送について
- ・1年次保証人への単位修得状況の通知について
- ・履修登録をしていない学生について

(4) その他

福岡県立ひびき高校との高大連携に係る公開授業について

昨年に引き続き、公開授業を実施することとした。

電気空調講義室使用の講義のガス空調講義室への移動について

節電の取り組みとして、電気空調講義室からガス空調講義室へ移動することについて、時間割の変更を決定した。

3. 残された課題または将来解決すべき事項

(1) 学部教育改革について

学部教育改革答申により、教務委員会所掌事項となった項目についての、具体的な実施方策の検討

- ・入門科目の全学科導入
- ・他分野科目の卒業要件化
- ・3年次(4年次)PBL科目の設置
- ・1年次TOEFL、3年次TOEFL(TOEIC)の一斉実施
- ・3年次(4年次)専門英語の設置

4. 委員会の議論に使用された資料

(1) 九州工業大学中期計画・中期目標

- (2) 教育委員会資料
- (3) 教務委員会資料等

5 . 工学部の現状に関する意見または改善に関する提言

ミッション再定義等により、学部教育改革推進の必要性が増している。

「 3 . 残された課題または将来解決すべき事項」に挙げた事項に加え、以下の項目についても、取り組みの推進が必要である。

- ・ グローバルエンジニア教育
- ・ JABEE 対応
- ・ エンジニアリング・デザイン教育
- ・ アクティブラーニング
- ・ 教育の質保証

6 . 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善及び新たな問題点

昨年度、「 1 5 回の授業並びに十分な授業調整期間・試験期間等を確保するための方策を検討する必要がある」旨の提言があった。

今年度は、学年暦を工夫し、 1 5 回の授業および調整期間・試験期間を確保することができた。

しかしながら、授業調整日による曜日の変更を設定する等、根本的に全てが改善されたわけではない。

授業回数確保は、学年暦と関係しており、工学部の一部局だけで解決できる問題ではないため、全学の教育委員会へ、問題提起し、議論していく必要がある。

新たな提言として、今年度は「ミッション再定義」が実施され、教育改革が必要とされたことに伴い、キーワードである「教育の質保証」、「教育ポリシー（DP、CP）」、「PDCA サイクル」、「エンジニアリング・デザイン」等、教務委員会としても検討を行うことが必要である。

3.2.3 工学部学生委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 中期目標・中期計画の立案と実行
- (2) 全国学生相談会にて情報収集
- (3) 保健センターとの定期的意見交換
- (4) キャリアセンターとの意見交換(次年度以降のオブザーバ参加)
- (5) 学生危機管理に関わる工学部の連携状況の整理と改善策について
- (6) 鳳龍奨学賞を補完するインセンティブ効果のある学生支援について
- (7) 工学部全体で教育に関わる会議にて学生委員会関連事項についての連携の必要性
- (8) 不正行為防止について
- (9) 工大祭への対応(企画段階でのアドバイスと実施時の巡回)
- (10) 新入生研修の実施日程及び研修資料策定に係る部局意見の検討
- (11) 学期初回授業における学生への注意喚起と資料の改変
- (12) 学生生活実態調査の「大学への要望等」に関する回答
- (13) 自転車の迷惑駐輪の防止策の検討
- (14) 日本学生支援機構奨学生の選考
- (15) 意見箱へ寄せられた学生からの意見への対応(武道場トレーニング室の設備充実に関する要望)
- (16) 課外活動団体への物品援助に係る団体選定の確認
- (17) 鳳龍奨学賞の GPA に代わる選考基準の見直し

2. 今年度採択した事項

- (1) 鳳龍奨学賞の定員見直しについて(増員)
- (2) 昨年度の引き継ぎ事項であった授業料特別免除に代わるインセンティブ効果のある学生支援策(工学部奨学賞)を成案化し、学部長へ実施要望書として提出した。
- (3) 校内で自転車の迷惑駐輪が多いことから、その対応策について事務局(総務課)に提出した。
- (4) 中期目標・中期計画に関わる学生生活支援の観点から、キャリアセンターの委員会へのオブザーバ出席を決めた。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 学生のマナーアップに対する具体的な取り組みと駐輪場の整備要望の継続
- (2) 工学部奨学賞の実施・運営と必要に応じて改変
- (3) 発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺など学生を取り巻く今日的課題に、各部署が連携し、情報を共有する仕組みづくりについて継続して取り組む。

4. 委員会の議論に使われた資料

- ・九州工業大学中期目標・中期計画
- ・全国学生相談会報告書

5. 工学部・工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

不断の注意喚起と教職員の協力によって、試験における不正行為が、今年度は発生しなかった。昨年度の後期から不正行為が発生しておらず、今後とも、注意喚起を継続して行い、学生に不正行為をさせないような環境作りも必要だと思われる。現在は学生が多いときのみ試験監督の補助があるが、不正行為を抑止するため学生の人数が少ない場合でも最低2名以上は必要である。予算的な問題もあると思うが議論が必要である。

また自転車の迷惑駐輪も問題である。学生への注意喚起をしながら、駐輪場の確保(屋根付き、固定機付きなど)と学生に知らせる表示方法等についても議論し、業務分掌の明確化と実施の迅速化を図る必要がある。

さらに今日的な課題である学生の発達障害、メンタル不調、引きこもり、自殺などに、各部署が連携し情報を共有するための組織化と対応策について協議をすすめる必要である。人の命を大事にすることが人間教育の根源と思われる。これには矢面に立つ教職員のメンタルケアとして、相談などを容易に行える相談体制の構築も重要である。

加えて、就職支援体制の明確化、特に各学科等における就職担当教員や部局に配置されたキャリアセンター及び「キャリア教育・就職連絡会議」の役割が分かりづらい点について年度当初に工学部長及び学生担当副学長へ具申した。本件については、その後、種々の改善に対する取り組みが行なわれつつあり、今後も継続しての取り組みが必要と考える。

最後に、鳳龍奨学賞の GPA に代わる新選考基準が、学部長裁定として学科長会で承認(H25.3.13)された。このため、数年間、2つの選考基準が存在することとなり、運用に間違いが発生せぬよう十分な注意が必要である。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- ・不正行為が今年度は発生しなかった。
- ・鳳龍奨学賞を補完するインセンティブ効果のある学生支援策(工学部奨学賞)を成案化し、学部長に実施要望を行った。次年度からの具体的な運用で課題も出てくると思われるが、前向きな議論を期待する。
- ・自転車の迷惑駐輪に対する学内の業務分掌の確認を学部長に行った。また総務課宛に駐輪場整備等に関わる要望書を提出した。

3.2.4 工学部入学試験委員会

1. 今年度、本委員会が取り組んだ課題

- (1) 平成25年度入学試験日程について
- (2) 平成25年度中期目標・中期計画
- (3) 平成25年度工学部編入学試験実施について
- (4) 平成25年度推薦入試 実施について
- (5) 平成25年度推薦入試 の合格判定基準について
- (6) 平成25年度工学部推薦入試 について
- (7) 平成25年度私費外国人留学生入試実施について
- (8) 平成25年度個別学力検査実施について
- (9) 個別学力検査への英語導入について
- (10) 平成27年度推薦入試 における数学・理科の利用教科・科目について

2. 今年度、本委員会が採択し、実施した事項

通常の選考・審査、募集要項の作成については例年どおり実施した。ここでは、新たに実施した事項についてのみ記す。

- (1) 中期目標・中期計画について
評価項目 -1-07 とI-3-02は、それぞれ広報と大学施設の公開に関する内容であり、入試委員会の審議事項と整合するとは考え難いと、委員長として判断した。
そこで、委員長が全学入試委員長および工学部長と議論を行い、その結果工学部入試委員会の審議事項から除いて頂けることになった。
- (2) 編入学の入学定員について
平成25年度編入学者は定員に対して180%であり、合理的でない合格者数であると全学入試委員会の委員長から指摘された。そこで、今後は150%、130%、110%と段階的に合格者を減らしていくという提案を工学部入試委員長が行った。委員会で審議の結果、その方針について承認された。
- (3) 編入学試験をこれまで木曜日に行っていたが、特定の科目に負荷がかかることを考慮し、今年度は金曜日に実施することが承認された。
- (4) 私費外国人留学生入試の出願に関し、第1志望学科のみとして願書の第2志望記入欄を削除することについて検討が行われた。委員会の各委員から学科の検討結果の報告があり、全学科反対の意見がなかったことを確認し、第1志望のみによる出願書式が了承された。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 個別学力試験における英語の導入について
グローバルな人材の育成を謳う本学の方針に従えば、英語の試験が行われないことに整合性の問題があり、また学生の入学時における英語力は卒業時まで大きな変化はないという問題も指摘された。その結果として英語導入の議論が行われたが、合意には達せず、未解決のまま残されることとなった。なお、以下の意見が寄せられた。
 - ・倍率がどう変化するかなど、シミュレーションなどにより十分な検討が必要。
 - ・試験実施には準備期間とスタッフ数の増員の検討が必要。
 - ・実施は工学部単独では行わず、大学全体として取り組むべき。

(2) 推薦入試 について

センター試験による点数を主な評価に用いて合否を決定する試験が導入され実施されることとなったが、学科によってはアドミッションポリシーにしたがって理数系科目の点数が低いことによる不合格の判定が出された。全体的にほとんどの受験生のセンター試験の点数が高くもなく、本学の通常の入試受験者の平均的な点数となっていた。通常の入試では個別学力がさらに加味されて合否が決定されることを考えると、センター試験の総合点だけによる合否判定には改善の余地があり、特定の科目が重視されるような評価も必要であるかもしれない。しかし、これをより正当なものにするためには、学生の追跡調査も必要であると考えられ、また十分な受験倍率となるような方策の検討も要求される可能性があると考えられる。

(3) 入試としては、推薦入試・前期日程、後期日程などが行われているが、大学としては卒業時の成績が最も高くなるような入試の合否判定法の検討が必要である。もし、そのような最適な入試があるとするれば、入試科目ごとの点数と卒業時の成績との相関を検討することにより、新たな実施方法の可能性も存在することになる。今後は、学生の追跡調査を進め、果たしてそのような入試方法が存在するかどうかの検討が必要であるとも考えられる。

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 平成25年度推薦入試学生募集要項
- (2) 平成25年度帰国子女入試学生募集要項
- (3) 平成25年度一般入試合格者選考方法等
- (4) 推薦入試の合格判定基準(特定科目の順)変更案
- (5) 高校理数科の教科について
- (6) 平成26年度入試日程(案)
- (7) 平成25年度私費外国人留学生募集要項
- (8) 編入学試験合格者数適正化に伴う定員配分の検討(委員長作成)
- (10) 平成24年度・25年度の一般入試(前期日程)工学部成績資料(委員長作成)

5. 工学部の現状に関する意見、又は改善に関する提言

- (1) 編入学試験の応募者については、極めて受験者数が不安定であり、年度による変動が大きい。高専の教員との間に強い関係がある場合や、特に目を引く研究室がある場合には受験者が増えることになるという、通常の大学受験にない不安定な要因に頼らざるを得ない部分がある。したがって、この入試制度をそのままの形で存続させる必要性は強くないと考えられる。今年度の合格者は定員の180%となったとは言え、果たして通常の入試合格者で行われる選抜の厳しさがあるかどうかは疑問である。今後段階的に合格者を減らしていくことが了解されたが、最終的には若干名の合格者に向かう必要性の検討も必要である。
- (2) たとえば、前期日程と後期日程の入試を考えた場合に、比較的に高い志願率を本学は保っている。一方では、卒業時における成績の格差が大きいという現状がある。志願率が高いにもかかわらず、成績の落ち込みの激しい学生が現れている現状は、選抜方法の継続的な検討の必要性を余儀なくされる。
- (4) 推薦入試が今年度はじめて実施されたが、推薦入試と並行して存続させるべきかどうかの検討が継続的に行われる必要があると考えられる。推薦入試は学力を客観的に評価できる利点があるが、推薦入試ではそれが弱いという欠点がある。ただ、受験生は多分にそれを考慮して志望する結果、高い志願率となっている現状がある。推薦入試で

適切な志願率の確保ができれば、推薦入試 の再検討が可能となると考える。

- (5) 私費外国人留学生試験における日本留学試験と英語能力検定試験の総合点にしめる比率が高く、本学での 2 次試験の結果で順位の逆転をおこなうことが難しいという問題点がある。次年度以降にはこの検討を行って、2 次試験の比率を高めるように改善を行うべきである。

6．昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 推薦入試 における口頭試問が客観性に欠ける点があり、筆記試験の導入の検討が必要であると指摘されたが、推薦入試 が導入されることになり、客観性の向上の確保の点での救済策となったと考える。これについては、継続的に審議が必要である。
- (2) 私費外国人留学生の合計点にしめる、本学で行わない試験の比率が高いことに関する問題点が指摘された。これについては、改めて委員会ではその問題点を喚起し、次年度において配点の修正についての検討を申し送り事項とした。

3.2.5 大学院工学府・工学部安全環境委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 研究室単位の「安全衛生教育」、「安全衛生ミーティング」の実施および実施結果の評価
- (2) 「学部2と3学年安全衛生教育」の実施および実施結果の確認
- (3) 「講義室安全環境チェック」の実施および必要箇所の改善
- (4) 「実験・実習における安全の手引き」の改訂
- (5) 会計課の作成した建物内の避難経路図の確認

2. 今年度採択した事項

- (1) 「講義室安全環境チェック」において問題となった研究教育1号棟のハトの糞害について、業者に当該箇所の清掃を依頼し、ハトが侵入できないようネットを設置した。
- (2) 「実験・実習における安全の手引」を各担当者に依頼して改訂した。
- (3) 実験室での事故について、「危機事象発生報告書」の様式を整備し、報告系統について整理した。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 安全衛生委員会との連携について、現状は安全環境委員長がオブザーバーとして参加しているだけであり、今後も本委員会のあり方について議論すべきである。

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 安全教育等実施要項
- (2) 平成24年度講義室安全環境チェック 指摘事項・対応一覧
- (3) 工学部平成24年度版「実験・実習における安全の手引」
- (4) 危機事象発生報告書 様式

5. 工学部・工学研究府の現状に関する意見、又は改善に関する提言

本委員会の委員長は毎月開催される戸畑地区安全衛生委員会にオブザーバーとして安全衛生委員会に出席し、重要課題は本委員会に報告することになっているが、情報の共有や活動の充実度などを考慮し、安全衛生委員会のあり方について見直すべき時期に至っていると考えます。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

昨年度、提言された戸畑キャンパスの安全衛生委員会における情報は、学内専用 Web ページから議事録を閲覧できるため、その情報を委員に周知した。今後は、安全衛生委員会と安全環境委員会の平行する2つの委員会についてそれぞれの必要性や役割を考える時期にあると考えている。

3.2.6 大学院工学研究院学術情報委員会

1. 今年度、委員会が取り組んだ課題

- (1) 本委員会組織に関わる検討
 - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認
 - B. 情報ネットワーク・セキュリティ専門部会への委員の参加
 - C. 情報セキュリティポリシー実施 WG への委員の参加
 - D. 情報基盤整備計画策定 WG への委員の参加
 - E. 情報工学教育研究用コンピュータシステム(情報科学センター)仕様策定委員会への参加
 - F. マイクロソフト教育機関向け総合契約の「ソフトウェア使用許諾権の更新」一式の賃貸借に係る仕様策定委員会への委員の参加
 - G. 学内戦略経費獲得 WG への参加
- (2) 違法行為防止, 及びセキュリティ向上についての検討と対処
 - A. 平成 24 年度後学期情報モラル向上週間の企画と実施
 - B. 外部公開サーバのセキュリティ強化
 - C. 情報基盤室の改組について
 - D. 平成 25 年度前学期情報モラル向上週間の企画と実施
- (3) 全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
 - A. MSCA の運用に関する工学研究院の基本方針
 - B. ウィルスバスターの運用に関する工学研究院の基本方針
 - C. 生協販売 PC の C A システムへの登録について
 - D. ウィルスバスターコーポレートエディションサーバの移行について
 - E. 学生の MSCA ライセンス使用状況の確認について
 - F. M S C A の工学研究院における運用
- (4) 工学研究院の情報化に係る施設設備に関する検討
 - A. 情報科学センターの無線 LAN 整備事業への協力
 - B. SciFinder の導入に関する検討
 - C. 生涯メールサービスの導入について
- (5) 附属図書館に関する検討
 - A. 工学部学生用図書購入予算額配分
 - B. 図書館情報リテラシー(中級)の授業への参画

2. 今年度、委員会が採択した事項

- (1) 本委員会組織に関わる検討
 - A. 正副委員長の選出と本委員会の業務等確認(第 1 回)
正副委員長を選出し, 副委員長が全学委員会へオブザーバー参加することを確認した。
また本委員会における業務等をまとめ確認した。
 - B. 情報ネットワーク・セキュリティ専門部会への委員の参加
標記部会へ本委員会から委員を推薦した。
 - C. 情報セキュリティポリシー実施 WG への委員の参加
標記WG へ本委員会から委員を推薦した。
 - D. 情報基盤整備計画策定 WG への委員の参加
標記WG へ本委員会から委員を推薦した。
 - E. 情報工学教育研究用コンピュータシステム(情報科学センター)仕様策定委員会への参加
標記委員会へ, 工学研究院から委員長の竹澤が参加することになった。
 - F. マイクロソフト教育機関向け総合契約の「ソフトウェア使用許諾権の更新」一式の賃貸借に係る仕様策定委員会への委員の参加
標記委員会へ, 工学研究院から委員長の竹澤が参加することになった。
 - G. 学内戦略経費獲得 WG への参加
標記 WG へ, 工学研究院から委員長の竹澤が参加することになった。
- (2) 違法行為防止, 及びセキュリティ向上についての検討と対処
 - A. 平成 24 年度後学期情報モラル向上週間の企画と実施(第 2・3・4 回)
平成 24 年後学期の情報モラル向上週間は, 前年度後学期と同様の内容を企画・実施した。ま

た、全学学術情報委員会に以下の意見を提案した。

- ・ 全学的に行うことなので、学部・学科で実施する内容が異なることはよろしくないのでは。
- ・ 学部2、3年生などの対応が、学科の必修科目で行われており、今後JABEE対応があるため、空き時間等に実施しないとよろしくないのでは。
- ・ 情報倫理ビデオやmoodleでの小テストの閲覧方法が、全学情報基盤室のポスターでは分かりにくいことや、ネットワークのポート制限があることなど、情報が不足していること。

さらに、工学部で今後実施する際に、次の様に実施していくことが確認された。

ア．閲覧するビデオ映像について、各学年・学期で次の章を閲覧する。

1年生	前期：「2.IDの管理」	後期：「3.情報の管理」
2年生	前期：「4.便利と信頼性」	後期：「5.参加」
3年生	前期：「6.取引」	後期：「7.メールの使い方」
4年生及び院生	前期：「8.情報発信」	後期：「9.知的財産」

イ．教育の実施科目について

1年生	前期：「情報リテラシー」	後期「情報PBL」
2年生	前期：「情報処理基礎」	後期「情報処理応用」
3年生	各学科の必須科目	
4年生及び院生	各研究室で対応	

B．外部公開サーバのセキュリティ強化（第2・3・4回）

全学の情報基盤室が実施した、外部公開サーバのセキュリティ強化のためのサーバ登録制度について各学科に周知した。工学部の情報システムセキュリティ管理者は、「各サブネットの運用を行うもの者」及び「サーバの運用を行う者」を挙げることにした。また、学外公開IPアドレス登録パネルについて、セキュリティ責任者の職員番号を入力する項目があることについて、運用上問題があるとの意見があり全学の情報基盤室に連絡した。

C．情報基盤室の改組について（第5回）

情報基盤室が情報基盤機構へ改組されることについて、全学の委員会へ以下の意見を提案した。

- ・ 部局でシステムを構築してきた経緯はあるが、情報に関しては、カバナンズ的にも技術的にも全学で統括したほうがよい。
- ・ 実際に末端でシステムに携わる、情報システムセキュリティ管理者等と直接係わりを持つ組織を構築すべき。
- ・ 部局のシステムなどを全学で統一する方向に向かっていく場合に、それに対応できる組織を視野に入れ構築して欲しい。

D．平成25年度前学期情報モラル向上週間の企画と実施（第6回）

企画内容を、24年度後学期の方針どおりとするが、情報倫理デジタルビデオ小品集4の内容を次年度の早い時期に検討することとした。

(3) 全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施

A．MSCAの運用に関する工学研究院の基本方針（第1回）

MSCAの運用に関する基本方針が文章化され承認された。委員から次の意見があり、今後継続して審議することとなった。

- ・ 運用ルール等をHPに掲載してはどうか。
- ・ 卒業・修了時の継続使用申請について、申請しない卒業生・修了生がいた場合の対応についてはどうするのか。
- ・ 複数台を申請している場合の対応はどのように行うのか。
- ・ ライセンス認証方式についてMAKとKMS双方あるが、工学部ではMAKを利用することを明示したほうがよいのでは。

B．ウィルスバスターの運用に関する工学研究院の基本方針（第1回）

運用に関する基本方針が文章化され承認された。基本方針は修正の後、各委員にメールで送付し、各教室にて周知することとした。

C．生協販売PCのCAシステムへの登録について(第2・4・6回)

生協販売PCのCAシステムへの登録について、未登録者への周知方法を検討した。未登録者については、学生氏名等を掲示板に掲載し登録を促した。また、25年度販売分について、CAシステ

ム登録を促すよう購入者へ通知文を配布することを決めた。

- D. ウィルスバスターコーポレートエディションサーバの移行について(第2・4・6回)
ウィルスバスターコーポレートエディションサーバが新サーバへ移行された。各学科等に通知文を配布した。これに伴い旧サーバは停止することにした。また、サーバ接続状況確認について各教職員へ通知した。
- E. 学生のMSCAライセンス使用状況の確認について(第4回)
学生個人端末で、MSCAライセンスを複数使用している可能性があることについて、各指導教官から再度確認することが承認された。
- F. MSCAの工学研究院における運用(第6回)
指導教員が生命体工学研究科の教員の場合、学生が本システムで指導教員を選択できないケースについては、各学科長を指導教員とすることとした。また、本システムについては、次の事柄について、今後検討していくこととした。
 - ・ 指導教員が生命体工学研究科の場合も含め、全学システムで運用できないか。
 - ・ 生協販売PCの引き渡し時期が、学生番号、情報科学センター配布のメールアドレスなどの配布より早いことなどの対応。

(4) 工学研究院の情報化に係る施設設備に関する検討

- A. 情報科学センターの無線LAN整備事業への協力(第1・4・6回)
情報科学センターが戦略経費を用いて戸畑地区の無線LAN環境を整備する事業へ協力した。増設箇所の要望を各学科から挙げ、工事日程の調整までを行った。
- B. SciFinderの導入に関する検討(第4回)
科学関連情報のオンライン検索サービスであるSciFinderの導入の是非について説明があり、全学委員会への導入検討依頼を念頭に置き関係部署との調整を行った。
- C. 生涯メールサービスの導入について(第5回)
卒業・修了生に「生涯メールアドレス」を付与することを各学科に周知することにした。なお、次の意見を全学の学術情報委員会に報告した。
 - ・ 入学時から利用したほうが定着するのでは。
 - ・ 同窓会のようなメーリングリスト機能を加えること。

(5) 附属図書館に関する検討

- A. 工学部学生用図書購入予算額配分(第1回)
従来通り各系に予算を按分することを了承し、選書を実施した。なお、予算配分案を満たさない場合等は、附属図書館情報サービス係に連絡し調整することとした。
- B. 図書館情報リテラシー(中級)の授業への参画(第1回)
「図書館情報リテラシー(中級)」を、学部4年生以上の講義にて実施可能か確認することとした。また、すでに実施している、学部1年生向けの図書館情報リテラシー(初級)を実施する際には、4月初旬に基礎科学系長宛てに、正式な依頼を出して欲しいとの依頼があった。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

以下の事項について、引続き主体的に取り組んでいく必要がある。

- (1) 情報セキュリティポリシーの不断の周知徹底
- (2) ファイル共有ソフトをはじめとした情報モラル向上のための啓蒙活動
- (3) ソフトウェアライセンス管理の徹底とCA申請システムの改善
- (4) 戸畑キャンパスネットワークの安定的な運用管理体制の整備と維持
- (5) 情報基盤室の改組に伴う部局システムの全学統一など構築すべき組織の検討

4. 委員会の議論に使われた資料

- (1) 本委員会組織に関わる検討
 - ・ 平成24年度大学院工学研究院学術情報委員会委員名簿
 - ・ 大学院工学研究院学術情報委員会内規
 - ・ 大学院工学研究院学術情報委員会委員長ローテーション表
- (2) 違法行為防止、及びセキュリティ向上についての検討と対処
 - ・ 平成24年度前期情報モラル向上週間における講習会実施状況一覧
 - ・ 平成23年度後期情報モラル向上週間における講習会実施状況一覧
 - ・ 学外公開IPアドレスの登録制による運用について(通知)

- ・ 情報基盤室の改組について
- (3) 全学運用情報化関連ソフトウェアの工学部での運用方法の検討と実施
 - ・ マイクロソフトライセンスプログラムキャンパスアグリーメント(MSCA)の運用に関する工学研究院の基本方針(2012年度版)
 - ・ ウィルスバスターの運用に関する工学研究院の基本方針(2012年度版)
 - ・ 生協販売PCのCA申請システム登録について
 - ・ ウィルスバスターコーポレートエディションクライアントのサーバ接続状況確認について
- (4) 工学研究院の情報化に係る施設設備に関する検討
 - ・ 平成24年度戦略的経費所用額調(情報科学センター)
 - ・ SciFinderの概要
 - ・ 生涯メールサービスの導入について
 - ・ 工学研究院に設置する無線LANのネットワーク接続設定について
- (5) 附属図書館に関する検討
 - ・ 平成24年度工学部学生用図書購入予算額配分(案)
 - ・ 図書館情報リテラシー(中級)の授業への参画について(依頼)

5. 工学研究院の現状に関する意見, 又は改善に関する提言

情報セキュリティの向上については, 中期目標・中期計画にも記載されており, 重要な課題である。情報基盤室の情報基盤機構への改組に伴い, 今後のネットワーク関連の企画および実施が各学科持ち回りの委員ではなく機構のもとで専門知識を有する職員によって行われることは効果的な運用に繋がるものと考えられる。情報モラル週間を例にとれば, 基本的な実施内容に関しては全学で統一した指針を機構がトップダウンで決定し, 部局の委員会はそれをどのように運用するか(できるか)を検討する形が望ましい。また, マイクロソフトソフトウェアライセンスの管理運用について, 学生の複数PCへのインストールチェックや生協販売PCを購入した学生の登録周知, 卒業生への周知など, 現場の職員の負担がまだまだ大きい。今後, この負担を軽減するよう全学統一のシステム作りが望まれる。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 情報セキュリティポリシーの不断の周知徹底

公開IPアドレスの登録制への移行に伴い, サーバ管理者の「情報システムセキュリティ管理者」としての登録が徹底され, メーリングリスト等を通じたネットワークに関する情報共有が進んだ。引き続きネットワークの安全性に関する講習会を開催するなど, 安全性を維持・向上していくことが期待される。
- (2) ファイル共有ソフトをはじめとした情報モラル向上のための啓蒙活動

情報の向上については, 新入生のオリエンテーションおよび情報モラル向上週間の取り組みで学生に周知を行っている。特に今年度は, 情報倫理デジタルビデオ小品集3の閲覧する箇所を各学年で割り振ることにした。これにより, 卒業するまでに全てのビデオ作品を閲覧できるようになり, 効果的な情報モラル教育を可能とした。来年度から新たな小品集4が閲覧可能になることから, 各学年による小品集4の閲覧箇所の割り振りを決定する必要がある。
- (3) ソフトウェアライセンス管理の徹底とCA申請システムの改善

CA申請システムの運用が確立され, 紙ベースの登録は無くなった。しかし, 学生の複数PCへのインストールチェックや生協販売PCを購入した学生の登録周知, 卒業生への周知など, 現場の職員の負担がまだまだ大きい。今後, この負担を軽減するよう全学統一のシステム作りが望まれる。
- (4) 戸畑キャンパスネットワークの安定的な運用管理体制の整備と維持

戸畑キャンパスにおける無線LANの整備が飛躍的に進展した。公開IPアドレスの登録制の開始も, ネットワークの安定的運用に寄与するものである。今後とも, 情報基盤機構や情報科学センターと連携しつつ, 戸畑キャンパスのネットワークの改善・維持をすすめることを期待したい。
- (5) 情報基盤室の改組に伴う部局システムの全学統一など構築すべき組織の検討

情報基盤室の情報基盤機構への改組に伴い, 今後のネットワーク関連の企画および実施が各学科持ち回りの委員ではなく機構のもとで専門知識を有する職員によって行われることは効果的な運用に繋がるものと考えられる。部局のシステムなどを全学で統一する方向に向けて, それに対応することを視野に入れた機構の組織構築が期待される。

3.2.7 工学部広報委員会

1. 今年度、貴委員会が取り組んだ課題

工学部広報委員会は学部学生募集活動の実施母体である。全学の学部学生募集専門部会（以下「募集部会」という。）を通して情報工学部と連携を取りながら、全学的に統一性のある学生募集活動の充実に努めた。また、工学研究院広報室（以下「広報室」という。）と密接に連携して、質の高い学生募集活動の充実に努めた。これらの活動のために、本委員会は、各学科及び人間科学系から各1名、工学研究院広報室長から構成されており、本委員会の委員長、副委員長及び広報室長は募集部会の構成員となっている。また、本委員会の委員は広報室の構成員でもある。このような組織の下、主に以下の定例的な課題について検討を行い実施した。

- (a) オープンキャンパス
- (b) 高校訪問（大学説明会）
- (c) 進学説明会
- (d) 本学主催入試説明会
- (e) 高校からの工学部訪問への対処
- (f) 大学案内の編集補助
- (g) 進学情報誌等の掲載原稿の校正
- (h) オープンキャンパスの実施方法改善の検討

2. 今年度、貴委員会が採択した事項

前項目の各課題に対応するため下記事項を採択し実施した。

- (a) オープンキャンパス
 - (1) 今年度のオープンキャンパスは8月3日(金)と4日(土)に開催した。参加人数は1989人で、過去最高の来場者数であった。
 - (2) 内容は昨年度と同様とし次の通り実施した。午前の部では、学科・コースの説明を記念講堂にて行った後に、本学が用意した見学コースに沿って各学科の施設見学を行った。見学コースは、機械知能・建設社会・総合システムと電気電子・応用化学・マテリアルの2コースとし、移動距離が短く、極力日陰を歩くことができるように見学順路を設定した。この見学時間の間に保護者・引率者向けの大学紹介を記念講堂で行った。午後の部では、テーマ別見学会場の自由見学を実施した。自由見学では、午前の部で見学できなかった学科への見学を促すために、スタンプラリーを実施した。アンケートの回収は、スタンプラリーの景品交換場所をメインとし、各学科に回収箱を設置するとともに、正門の特設テントに職員を配置し回収に努めた。回収率は48.1%であった。また、鳳龍会館において教員による「学科相談コーナー」、事務による「総合相談コーナー・入試相談コーナー」にて参加者からの相談に対応した。また、今年度は新たに「女子学生相談コーナー」を設け、本学の女子学生が女子高校生からの質問や相談に対応した。女子高校生及び保護者計104名の参加があり、好評を得た。
 - (3) 各学科の説明においては、昨年度と同様に説明者の服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、平易な説明を心がけていただけよう依頼した。
 - (4) 期間中にボランティアで誘導に協力していただく生協学生委員に対して、昨年同様、服装、態度に関して配慮をお願いすると共に、説明内容をキャンパス生活などに限定するように依頼するとともに、チラシの作成を認め内容を確認した。
 - (5) 昨年度と同様に生命体工学研究科の参加を認め、新たにPBL教育推進室の参加もあった。
 - (6) 平成25年度オープンキャンパスの開催日程について検討し、学年歴に入れていただくように教務委員会に依頼した。
 - (7) 2010年撮影のWEBオープンキャンパスの更新、内容変更、追加を希望するテーマ別見学会場について、学習教育センターICT支援部門による撮影があり、内容確認のうえWEBオープンキャンパスで公開した。
- (b) 高校訪問（大学説明会）

募集部会にて「高校訪問（大学説明会）実施に関する事務処理申し合わせ」に基づき決定された高校及び予備校を広報委員等が分担して訪問し、生徒向けの説明会を実施した。

説明には全学共通のスライドを用い、事前にその内容を検討した。また、昨年度の高校訪問報告書のまとめを参照し質問への対応に活用した。

(c) 進学説明会

募集部会にて「企業主催による進学説明会への参加の基本方針」に基づき決定された進学説明会に広報委員等が分担して参加し、「平成24年度進学説明会ブースでの説明手順」を基にブース訪問者へ説明、対応を行った。

(d) 本学主催入試説明会

本学主催の入試説明会に出席し、スライドを用いて工学部に関する説明を行い質問へ対応した。

(e) 高校からの工学部訪問

理数教育支援センターで受付けている大学訪問に対して大学説明を実施した。

(f) 大学案内の編集補助

今年度は、昨年度に大幅改定された大学案内をもとに改訂を実施した。本委員会では、工学部に関して、研究紹介をするページの追加を行った。昨年度作成した大学案内では、教育やカリキュラムについて全学的に統一して紹介することを大きな狙いとし、この方針に沿って各学科の説明を行う内容であったが、今年度の改訂では研究に関するページの追加を行うことになった。昨年度作成した大学案内の構成を活かすよう、工学部と情報工学部が構成となるように連携しながら検討した。工学部として追加した内容は、大学の戦略経費で推進されている研究プロジェクト2件及び自動車を製作するために工学部各学科の研究が関連する必要な技術要素の紹介である。

(g) 進学情報誌等の掲載原稿の校正

進学情報誌等に掲載される原稿について工学部の観点からの校正を行った。

(h) オープンキャンパスの実施方法改善の検討

オープンキャンパスの参加人数が年々増大し、記念講堂の収容能力を上回り始めた。また、参加者に対して行ったアンケートの情報から、見学コース等に関して現状からの変更を要望する意見もあったので、オープンキャンパスの実施方法の改善を検討することとなった。情報工学部で実施されているオープンキャンパスを参考に、参加者が分散をするようなスケジュールを検討し詳細について議論し、改善案を作成した。

(i) その他

全学広報戦略会議からの依頼で「夢ナビ」及び「夢ナビライブ」に対応する教員の追加、ベネッセのマナビジョンへの掲載原稿の対応等を行った。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

充実したオープンキャンパス、高校訪問等を目標に活動を行ってきた。これからも、同内容の活動を着実に遂行していくことが重要であると思われる。来年度のオープンキャンパスについては、本年度検討した改善案をもとに、本年度までとは異なる実施方法になることと思われる。議論を重ねて不具合が生じないように検討したつもりであるが、想定外の不具合が発生するかもしれない。その場合には改善して再来年度以降の実施に反映させていただきたい。

4. 委員会の議論に使われた資料

募集部会資料、大学案内、オープンキャンパスアンケートおよび調査結果。

5. 工学部・工学研究科の現状に関する意見、又は改善に関する提言

特になし

6. 昨年度の改善に関する提言に対する改善状況と未改善及び新たな問題点

特になし

3.2.8 大学院工学府学務委員会

1. 今年度取り組んだ課題

(1) 授業関係・教育関係

- 学年暦の変更に伴う学則の変更
- 工学府学修細則の一部改定
- 平成25年度工学府学生便覧等の原稿作成
- 平成25年度工学府時間割表
- 教育・学習系統図
- 工学府社会人修学支援講座実施要項の改正
- 工学府社会人修学支援講座平成25年度募集要項
- 実践科目の単位数見直し
- 3キャンパス連携大学院講義の単位化
- 総合科目の導入
- 大学院工学府における「工学総合科目」の取扱いに関する申合せ
- 課程B学生の修了プロジェクト・最終試験審査
- 工学府授業科目の特例履修に関する単位の認定
- ダブルディグリー学生の単位認定
- 他研究科授業科目の履修
- 平成25年度大学院工学府研究生・科目等履修生・聴講生の募集要項

(2) 学生関係

- 学生異動・除籍・懲戒・派遣
- SUPMECA との部局間ダブルディグリー協定
- 外国人研究生・特別研究学生の受入
- 国費外国人留学生（研究留学生）受入
- 社会人修学支援講座（技術者大学院講座）の科目等履修生・聴講生の受入
- 平成24年度博士後期課程指導教員グループの決定
- 日本学生支援機構大学院予約奨学生の選考
- 日本学生支援機構大学院第一種奨学金の返還免除候補者推薦枠の配分
- 日本学術振興会 育志賞受賞候補者の推薦
- 長期履修期間変更申請
- 学生生活実態調査の「大学への要望等」

(3) 中期目標・中期計画

- 中期目標・中期計画

(4) 宇宙工学国際コース

- 宇宙工学国際コースのWG設置
- 大学院講義科目の新設

(5) 工学府改組

- 工学府改組の概要
- 大学院改組に伴うカリキュラム検討WGの設置

(6) ダブルディグリー

- ダブルディグリーWGの設置

2. 今年度採択した事項

(1) 授業関係・教育関係

イ. 学年暦の変更に伴う学則の変更

学年暦の変更に伴う学則の一部改正に関する問題点について取りまとめ教育委員会へ提出した。

ロ. 工学府学修細則の一部改定

平成25年度の工学府学修細則について、先端機能システムの博士後期課程の履修要件の一部変更、宇宙工学国際コース開設に伴う科目の新設、工学総合科目の新設について審議し承認した。

ハ. 平成25年度工学府社会人修学支援講座

平成25年度の工学府社会人修学支援講座開講科目について検討を行い、「実用金型新加工法特論」「現代物理学基礎特論」の廃止、「生産加工学特論」の新設について審議し承認した。

二．実践科目の単位数の見直し

開発プロジェクト担当教員から、実践的システム工学科目の単位数見直しについて提案があり、実践的システム工学（設計）（製作）（運用）の3科目について、平成25年度から4単位とすることについて審議し承認した。

ホ．3キャンパス連携大学院講義の単位化

学務課から3キャンパス連携大学院講義「半導体トピックセミナー」の単位化について検討依頼があり、平成24年度の工学府履修者については、生命体工学研究科の科目で読み替えることで審議し承認した。

ヘ．総合科目の導入

工学府において全専攻共通に、通常科目以外に臨機応変に開講できる科目を導入することについて検討を行い、各専攻の専門科目と実践科目のそれぞれに1単位を2科目、2単位を1科目の合計3科目の「工学総合科目」を新設すること、運用については申合せを作成し、審議の結果承認した。

ト．課程B学生の修了プロジェクト・最終試験審査

課程B学生の修了プロジェクトの成績報告の方法について見直し、課程Bの修了審査については、学生が「修了プロジェクト審査願」を提出すること、「修了プロジェクト・最終試験審査結果報告書」については、「修了プロジェクトの評価根拠 意見・特記事項等」欄の記載を簡略化することとし、審議の結果承認した。

(2) 学生関係

イ．SUPMECA との部局間ダブルディグリー協定

部局間初のダブルディグリー協定として、フランスのパリ高等機械工学院と協定を締結した。

ロ．学生生活実態調査の「大学への要望等」

工学府長から学務委員会での対応を検討するよう依頼があり、項目毎に担当委員を決め、対応案を作成した。

ハ．教務情報システムでの学籍確認

委員長から、学務委員及び各系長が当該専攻の大学院生の学籍を確認できるようにしたいとの提案があり、平成25年4月から実施することとした。

(3) 中期目標・中期計画

イ．部局間相互評価

昨年度同様、平成23年度の年度計画の部局間相互評価を行うこととなり、特色ある事項についての調査書の作成とエビデンスの収集を行った。

ロ．平成24年度中期計画・中期目標の調査の進め方

委員の交代による担当者の変更、前年度の進捗状況及び年度計画の検討事項について確認を行った。

(4) 宇宙工学国際コース

イ．宇宙工学国際コースについて

宇宙工学分野でのグローバル人材育成を推進するため、英語で講義等行う宇宙工学国際科目を中心に履修するコースを平成25年度から開講することとし、審議の結果、承認された。

ロ．宇宙工学国際コースのWG設置について

学務委員会の下に設置し、宇宙工学国際コースのカリキュラム案の作成を行い承認された。

ハ．大学院講義科目の新設について

宇宙工学国際コースの開講科目のうち『Space Systems Engineering（宇宙システム工学）』については、学修細則（教育課程表）の一部改正を行い、平成24年10月より開講した。

3．残された課題、又は将来解決すべき事項

(1) 工学府改組

大学院博士後期課程の1専攻化に伴い、平成26年度の大学院工学府のカリキュラムの検討を行う。

(2) ダブルディグリー

イ．学務委員会の下にWGを設置し、ダブルディグリーの一般的な制度設計を検討する。

ロ．昌原大学校との協定締結については平成25年5月末を目途に審議を進めることとする。

4．委員会の議論に使われた資料

(1) 教育委員会「中期計画・中期目標」資料

(2) 日本学生支援機構奨学金返還免除選考資料

(3) 学務委員会資料等

5 . 工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

特になし

6 . 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善および新たな問題点

特になし

3.2.9 大学院工学府入学試験委員会

1. 今年度取り組んだ課題

- (1) 大学院入学試験専門部会委員を選出した。
- (2) 出願資格認定委員会委員5名を選出した。
- (3) 平成25年度工学府博士前期課程入学試験(推薦選抜)実施日程を決定した。
- (3) 平成25年度工学府博士課程入学試験(第1回外国人選抜、第1回一般・社会人選抜)実施日程を決定した。
- (4) 平成25年度工学府博士前期課程入学試験(第1回)の出願資格認定を行った。
- (5) 平成25年度(平成24年10月入学)大学院工学府博士後期課程入学試験(第1回外国人選抜)面接免除候補者を選考した。
- (6) 平成25年度(平成24年10月入学)大学院工学府博士課程入学試験(第1回外国人選抜)合格候補者を選考した。
- (7) 平成25年度博士前期課程入学試験(推薦選抜)合格候補者を選考した。
- (8) 平成25年度工学府博士前期課程入学試験(一般選抜)募集人員の変更を行った。
- (9) 平成25年度工学府博士課程入学試験(第1回一般・社会人選抜)合格候補者を選考した。
- (10) 平成25年度(平成24年10月入学)第1回国際共同教育学生選抜実施要項に基づく大学院工学府博士前期課程入学試験合格者候補者を選考した。
- (11) 平成25年度博士前期課程一般選抜試験(第2回)募集実施の有無について審議し、実施を決定した。
- (12) 平成25年度工学府博士課程入学試験(第2回外国人選抜、一般・社会人選抜)実施日程を決定した。
- (13) 平成25年度大学院工学府博士後期課程入学試験(第2回外国人選抜)面接免除候補者を選考した。
- (14) 平成25年度工学府博士前期課程入学試験(第2回)の出願資格認定を行った。
- (15) 平成25年度大学院工学府博士課程入学試験(第2回外国人選抜)合格候補者を選考した。
- (16) 平成25年度第2回国際共同教育学生選抜実施要項に基づく大学院工学府博士課程入学試験合格者候補者を選考した。
- (17) 平成25年度工学府博士課程入学試験(第2回外国人選抜、第2回一般・社会人選抜)実施日程を決定した。
- (18) 外国人留学生特別選抜実施時期の見直しについて審議した。
- (19) 平成26年度工学府博士課程一般選抜試験(第1回)の実施日程について審議し、決定した。
- (20) 平成26年度大学院入学試験日程(H25年度実施日程)について審議し、決定した。
- (21) 計画停電に伴う対応策や志願者への周知方法について審議した。
- (22) 大学院工学府博士課程入学試験の充足状況及び辞退者について確認した。
- (23) 大学院入試WGの設置について審議し、決定した。
- (24) 大学院入学定員の適正管理について審議し、定員管理に係る制度設計について決定した。
- (25) 大学院における定員管理上の外国人留学生等の取扱いについて確認した。
- (26) 中期目標・中期計画について審議し、決定した
- (27) 平成26年度募集要項について以下の事項について審議し決定した。
 - ・博士前期課程の募集要項を1冊化
 - ・外国人留学生特別選抜の要項を和文・英文の併記化
 - ・工学府の概要の英訳化
 - ・外国人留学生出願前の事前連絡の必要性
 - ・TOEIC公開テストを必須とする予告
 - ・博士後期課程改組予告
 - ・検定料代行収納の確認
- (28) 「入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」及び「大学院工学府の概要」の英文化について審議した。
- (29) ダブルディグリー取得学生の博士後期課程進学時の面接について審議した
- (30) 推薦選抜の願書にGPA欄を設けることについて審議したが、本年度の実施状況を見ながら検討することとした。
- (31) 大学院工学府社会人プログラムリーフレットについて審議し、決定した。
- (32) TOEICのスコアシートを公開テストのみ有効とすることについて審議し決定した。
- (33) TOEIC公開テスト実施会場を本学にて行なうことに対して審議し、工学研究院長に提案することとした。
- (34) 大学院入試におけるTOFEL導入について審議した。

2. 今年度採択した事項

- (1) 平成26年度実施の平成27年度入学者選抜試験から、試験の厳正化のためにTOEIC公開テストのスコア証明書(2年以内のもの)のみを有効とすることとした。
- (2) 平成26年度募集要項において以下の事柄を採択実施した。
 - ・重複したところを見直し、博士前期、後期課程ごとに募集要項を1冊化した
 - ・外国人留学生に理解しやすくするために、外国人留学生特別選抜の要項を和文・英文の併記を行なった。
 - ・外国人留学生対応の一環として、募集要項に掲載する「工学府の概要」の英文化に着手し、来年度掲載分から専攻・試験分野名、キーワード及び担当授業科目を英文併記した。
 - ・TOEIC公開テストを必須とする予告を行った。
- (3) 大学院入学定員の適正管理のために、各種外部評価の指標を受け実態調査を実施し、成績報告時に「選考結果連絡表」を提出こととし、適正化に向けて努力を行った。
- (4) 入学定員管理にかかる制度設計及び大学院入学試験の実施体制の検討を目的とする大学院入試検討WGを設置し、WGから提案された「工学府入学定員管理会議に関する申し合わせ(案)」を採択した。
- (5) 入試当日に九州電力の計画停電が実施された場合の対応策や志願者への周知方法等について検討し、各試験分野で対応策を決定し、受験案内に注意文を追加し志願者への周知を図った。

3. 残された課題、又は将来解決すべき事項

- (1) 大学院入学定員の適正管理のために、研究生を含む進学予定者の把握や各種協定による留学生の専攻・分野・入学時期の調整等により、出願予定者状況調査票等を用いた適正管理の実施と検証が必要である。
- (2) 大学院入学定員の適正管理のためにも、外国人留学生特別選抜試験の選抜方法および第2回募集についての見直しが必要である。
- (3) 外国人留学生対応のために、工学府アドミッションポリシーの英訳化の検討が必要である。そのためには、全学版、学部版、情工、生命体が統一された英語訳になるよう、全学入試委員会に取りまとめを引き続き提案する必要がある。
- (4) 外国人留学生特別選抜の募集要項から予定教員の事前連絡を削除したが、不都合がなかったか、次年度以降検証が必要である。
- (5) 大学院入試におけるTOEFLの導入は、現状では日本企業の不採用および受験場所や受験料の観点から導入に消極的ではあるが、引き続き、留学生対応や社会情勢を考慮しながらの検討が必要である。
- (6) 博士後期課程一専攻化に伴い、受験生の周知と選考方法の再検討が必要であろう。

4. 委員会の議論に使用された資料

- (1) 「中期目標・中期計画」
- (2) 平成26年度九州工業大学大学院工学府入学者選抜要項(案)
- (3) 平成26年度九州工業大学大学院工学府博士前期課程学生募集要項(案)
- (4) 平成26年度九州工業大学大学院工学府博士後期課程学生募集要項(案)
- (5) 大学院工学府入学定員管理会議(仮称)に関する申し合わせ(案)
- (6) 大学院における定員管理上の外国人留学生等の取扱いについて(通知)
- (7) 収容定員の充足と定員超過の指標について(2012/07/17 大学評価室)
- (8) 平成25年度大学院工学府博士前期課程・後期課程定員充足予測表

5. 工学府の現状に関する意見または改善に関する提言

- (1) 工学府博士前期課程の入学定員数の適正管理に向けて、工学府入学定員管理会議が設置され、周知徹底が図られることにより、平成26年度から厳守されると推測している。
- (2) TOEIC公開テストの本学実施会場の可能性について、工学研究院長に提案し学務課を通じてTOEIC事務局に実施会場の申込みを行ったところ、現時点では当面本学を会場にすることは無いとの回答があった旨報告があった。TOEIC側は、現在九州国際大学で事足りていること北九州会場を2ヶ所設けると二重の借用料のほか、運営面で負担がかかることを理由として挙げて

- いる。本学実施会場に向けて、今後も機会があるごとに申し出を続けていく努力が必要である。
- (3) 入学定員管理厳守に伴い、外国人研究生の受入れや第2回募集および外国人留学生に面接試験だけでなく筆記試験も課すなど、今後、全体的な入学試験制度の見直しが迫られるであろう。また、博士後期課程の入学定員管理についても検討が必要になってくるであろう。

6. 昨年度の改善に関する提言に対する、改善状況と未改善及び新たな問題点

- (1) 博士前期課程の入学定員数の厳守に関して、周知徹底が図られ、選考結果連絡表を作成し適正化に向けて努力を行なった。来年度は、工学府入学定員管理会議が設置され、第1回入試から管理是正されることから、さらに厳守されると推測している。
- (2) 博士前期課程の課程Bの対象者は、殆ど皆無であり特に審議しなかった。今後定員管理の上から飛び入学制度で博士前期課程入学試験を受ける学生に対する検討が必要になってくるであろう。

3.3 教員組織

3.3.1 教員の配置

大学院工学研究院

表3.3.1 大学院工学研究院教員現員一覧

(平成24年4月1日現在)

系	講座名	教授		准教授		講師		助教		合計	技術職員等
		現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	現員
機械知能工学研究系	機械工学部門	6	梅景 俊彦 金元 敏明 鶴田 隆治 野田 尚昭 水垣 善夫 宮崎 康次	6	河部 徹 吉川 浩一 黒島 義人 清水 浩貴 坪井 伸幸 長山 暁子	1	高藤 和樹	2	谷川 洋文 田丸 雄摩	15	13
	宇宙工学部門	4	赤星 保浩 橋 武史 松田 健次 米本 浩一	1	平木 講儒	0		2	西川 宏志 松本 剛明	7	
	知能制御工学部門	6	石川 聖二 大屋 勝敬 金 亨燮 黒木 秀一 坂本 哲三 田川 善彦	2	相良 慎一 ク・ジユクイ	0		2	西田 健 新田 益大	10	5
	小計	16		9		1		6		32	50
建設社会工学研究系		7	秋山 壽一郎 毛井 崇博 幸左 賢二 佐久間 治 永瀬 英生 松田 一俊 山口 栄輝	8	穴井 謙 伊東 啓太郎 鬼束 幸樹 重枝 未玲 寺町 賢一 徳田 光弘 日比野 誠 廣岡 明彦	0		1	合田 寛基	16	3
	小計	7		8		0		1		16	19
電気電子工学研究系	電気エネルギー部門	3	白土 竜一 匹田 政幸 三谷 康範	3	大塚 信也 豊田 和弘 渡邊 政幸	0		1	小迫 雅裕	7	9
	電子デバイス部門	3	和泉 亮 大村 一郎 松本 聡	2	川島 健児 内藤 正路	0		5	佐竹 昭泰 鶴巻 浩 羽野 一則 松平 和之 渡邊 晃彦	10	
	システムエレクトロニクス部門	6	池永 全志 桑原 伸夫 芹川 聖一 中藤 良久 前田 博 水波 徹	4	生駒 哲一 市坪 信一 中司 賢一 水町 光徳	0		5	河野 英昭 張 力峰 山脇 彰 楊 世淵 野林 大起	15	
	小計	12		9		0		11		32	41

物質工学研究系	応用化学部門	6	横野 照尚 古曳 重美 清水 陽一 竹中 繁織 柘植 顕彦 中戸 晃之	7	新井 徹 荒木 孝司 植田 和茂 岡内 辰夫 北村 充 坪田 敏樹 山村 方人	0		7	佐藤 しのぶ 下岡 弘和 馬渡 佳秀 高瀬 聡子 村上 直也 毛利 恵美子 森口 哲次	20	5
	材料開発部門	3	恵良 秀則 大谷 博司 松本 要	5	秋山 哲也 高須 登実男 廣田 健治 山口 富子 横山 賢一	0		4	伊藤 秀行 大坪 文隆 北村 貴典 山根 政博	12	4
	小計	9		12		0		11		32	41
基礎科学研究系	数理科学部門	3	池田 敏春 酒井 浩隆 仙葉 隆	8	浅海 賢一 井上 創造 木村 広 鈴木 智成 平山 至大 藤田 敏治 三浦 元喜 若狭 徹	0		0		11	0
	量子物理学部門	5	鎌田 裕之 出口 博之 西谷 龍介 中尾 基 美藤 正樹	1	渡辺 真仁	0		0		6	
	小計	8		9		0		0		17	17
先端機能システム工学研究系		5	奥山 圭一 小森 望充 鈴木 芳文 趙 孟佑 本田 崇	6	大門 秀朗 坂井 伸朗 孫 勇 高原 良博 竹澤 昌晃 脇迫 仁	0		1	岩田 稔	12	0
	小計	5		6		0		1		12	12
人間科学系		5	アプト・ハル恭子 田吹 昌俊 鳥井 正史 本田 逸夫 ラックストン・イブ・c	9	大野 瀬津子 反町 裕司 辻 隆司 中村 雅之 虹林 慶 八丁 由比 東野 充成 水井 万里子 クワ・ハート	0		0		14	0
	小計	5		9		0		0		14	14
合計		62		62		1		30		155	194

大学院工学府

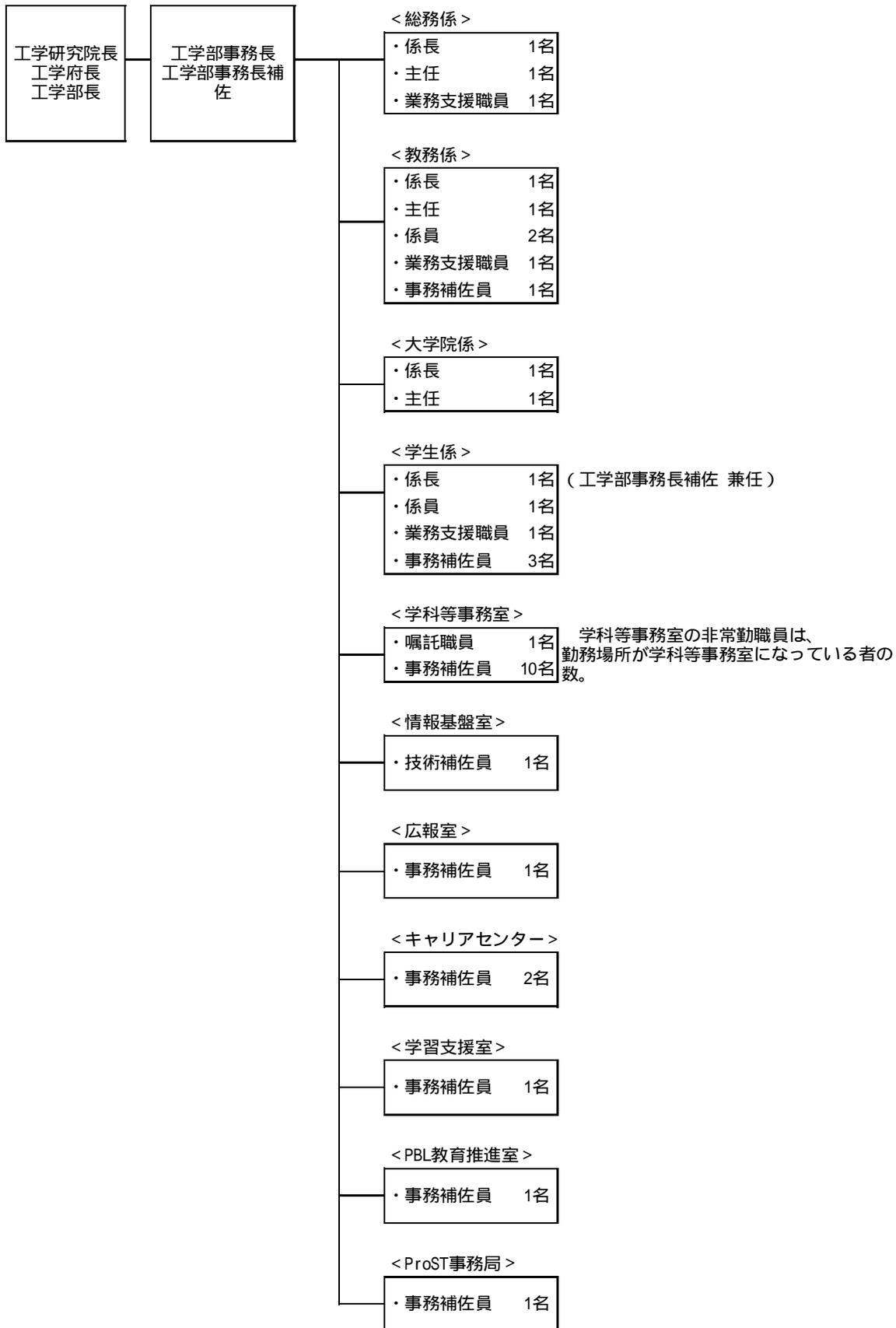
表3.3.2 大学院工学府連携講座(定員外)

(平成24年4月1日現在)

専攻名	教授		准教授		講師		助教		合計	
	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	氏名	現員	現員
先端機能システム工学専攻	0		1	西 敏郎	0		0		1	0
合計	0		1		0		0		1	0

3.4 事務組織

図3.4.1 事務組織図（平成24年4月1日現在）



4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

4.1 運営費交付金配分状況

表4.1.1 運営費交付金配分額、学部運営費、教室配分額年次変化（単位：千円）

区分・年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
運営費交付金配分額	381,132	480,984	488,920	478,118	510,350
学部運営費	100,975	194,407	198,584	211,206	226,491
(うち光熱水費保留分)	(11,313)	(116,320)	(116,773)	(124,136)	(119,483)
各学科等配分額	280,157	286,577	290,336	266,912	283,859

(*) 平成21年度より光熱水費の全額を部局で管理することとなったため、額が例年よりも大きくなっている。

表4.1.2 平成24年度費目別配分額（単位：千円）

費目	配分額	比率(%)
研究経費	64,360	12.61%
教育経費	154,881	30.35%
業績等配分経費	33,557	6.57%
事項指定経費	31,061	6.09%
学部運営費	107,008	20.97%
光熱水費	119,483	23.41%
その他	0	0.00%
合計	510,350	100%

表4.1.3 過去5年間の学科等別積算校費配分額の推移（単位：千円）

年度・科目/系		機械知能工学研究系	建設社会工学研究系	電気電子工学研究系	物質工学研究系	基礎科学系	人間科学系	先端機能工学研究系	その他
平成20年度	研究経費	13,282	7,533	16,232	14,836	7,527	7,418	5,516	0
	教育経費	33,475	15,284	37,650	34,375	0	2,257	18,378	0
	業績等配分経費	3,629	1,646	5,667	5,423	1,476	1,177	1,419	0
	その他	1,564	0	32,443	1,526	0	0	3,072	108,307
平成21年度	研究経費	13,984	7,600	15,200	15,592	7,192	7,600	4,400	0
	教育経費	35,464	17,051	38,413	35,279	0	2,929	17,384	0
	業績等配分経費	4,325	1,827	5,338	5,432	549	1,282	1,629	0
	その他	753	0	32,439	1,502	0	0	3,023	204,797
平成22年度	研究経費	16,500	8,500	17,988	17,400	9,000	8,500	6,688	0
	教育経費	36,305	16,421	38,276	34,348	0	2,218	18,971	0
	業績等配分経費	3,646	1,752	5,921	5,126	1,653	1,126	1,115	7,511
	その他	981	0	257	1,267	0	0	3,963	223,487
平成23年度	研究経費	13,600	6,800	13,200	13,968	7,168	5,584	5,200	0
	教育経費	40,469	17,985	33,744	32,308	970	2,287	21,888	10
	業績等配分経費	3,766	1,604	5,374	5,144	1,545	917	2,449	0
	その他	1,072	0	281	346	0	0	4,330	236,109
平成24年度	研究経費	12,800	6,400	13,200	13,580	7,180	5,600	5,600	0
	教育経費	43,961	17,909	33,315	31,589	480	2,370	25,232	25
	業績等配分経費	6,930	3,258	8,013	8,814	2,456	1,627	2,459	0
	その他	1,368	0	0	355	0	0	4,435	251,394

4 大学院工学研究院・工学府・工学部の財政

4.2 科学研究費助成事業の採択状況

表4.2.1 科学研究費助成事業採択状況（単位：千円）

種目/年度	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額								
特別推進研究	1	11,700	1	11,700						
特定領域研究	1	2,600			1	4,900				
特別研究促進費	1	8,000								
新学術領域研究			1	3,300	1	3,300			2	3,200
基盤研究（S）							1	40,500	1	39,500
基盤研究（A）（海外）	1	11,600	1	10,600	1	5,000	1	4,600	0	0
基盤研究（A）（一般）	3	28,200	3	20,000	1	15,200	1	13,100	2	20,900
基盤研究（B）（一般）	7	42,800	10	43,200	10	32,100	8	29,000	9	35,100
基盤研究（C）（一般）	26	28,300	22	26,000	30	30,900	34	43,000	40	48,700
挑戦的萌芽研究	4	4,900	3	3,200	5	5,800	9	12,650	12	12,950
研究活動スタート支援							2	2,000	3	4,800
奨励研究	1	580			1	570	1	600	1	600
若手研究（A）	2	4,000			2	8,400	2	14,500	2	8,200
若手研究（B）	16	17,600	13	17,600	11	13,700	8	6,600	9	12,700
特別研究員奨励費			4	2,500	5	3,700	3	1,900	1	900
計	63	160,280	58	138,100	68	123,570	70	168,450	82	187,550

金額は、直接経費のみ。（転出を含み、転入を除く）

表4.2.2 平成24年度科学研究費助成事業学科等別申請、採択状況（採択件数の上段は継続課題で内数）

事項/系	機械知能 工学研究 系	建設社会 工学研究 系	電気電子 工学研究 系	物質工学 研究系	基礎科学 研究系	先端機能 システム 工学研究 系	人間科学 研究系	合計
申請件数	24	10	23	27	9	7	7	107
採択件数	14	4	8	7	10	6	2	51
	18	7	14	16	12	7	5	79

申請件数・採択件数ともに、非常勤研究員を含む。
また、申請・採択件数には、奨励研究費及び特別研究員奨励費を含まない。

4.3 外部資金導入状況

表4.3.1 寄附金受け入れ状況（奨学寄附金）（単位：千円）

学科等/年度	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
機械知能工学研究系	14	13,902	17	12,800	19	12,767	17	13,007	17	13,328
建設社会工学研究系	20	57,130	13	15,390	12	19,936	17	10,673	14	7,325
電気電子工学研究系	22	12,670	18	18,987	23	32,440	16	15,923	17	8,210
物質工学研究系	36	28,170	26	19,240	32	28,425	27	23,021	20	14,880
基礎科学研究系	3	954	2	1,950	2	310	2	280	2	1,500
先端機能システム工学研究系	5	49,723	8	5,010	4	2,000	4	1,600	4	2,100
人間科学系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	100	162,549	84	73,377	92	95,878	83	64,504	74	47,343

表4.3.2 民間等との共同研究受け入れ状況（単位：千円）

学科等/年度	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額								
機械知能工学研究系	19	19,260 (19,260)	13	11,650 (11,650)	19	24,848 (24,848)	23	33,691 (33,691)	21	22,002 (19,002)
建設社会工学研究系	4	3,000 (3,000)	4	13,986 (13,986)	4	9,540 (9,540)	8	11,418 (11,418)	9	8,395 (7,400)
電気電子工学研究系	34	49,657 (49,657)	31	74,909 (74,909)	37	66,063 (66,063)	36	61,958 (61,958)	37	42,446 (41,351)
物質工学研究系	34	43,154 (43,154)	38	41,120 (31,555)	33	36,492 (36,492)	36	35,268 (35,268)	34	41,290 (41,290)
基礎科学研究系	3	2,400 (2,400)	6	5,119 (5,119)	4	2,000 (2,000)	4	4,500 (4,500)	3	2,200 (2,200)
先端機能システム工学研究系	2	12,598 (12,598)	4	12,970 (12,970)	8	120,428 (120,428)	5	34,468 (34,468)	11	47,013 (46,017)
人間科学系	0		0		0		0		0	
合計	96	130,069 (130,069)	96	159,754 (150,189)	105	259,371 (259,371)	112	181,303 (181,303)	115	163,346 (157,260)

下段の（ ）数字は民間負担分の歳入金額で内数。
複数年契約を含む。

表4.3.3 受託研究受け入れ状況（単位：千円）

学科等/年度	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額								
機械知能工学研究系	13	30,148	13	25,448	9	10,862	7	14,370	9	12,961
建設社会工学研究系	5	18,483	2	12,000	3	1,180	7	10,956	6	19,888
電気電子工学研究系	21	58,781	23	68,501	18	62,414	20	31,547	21	33,727
物質工学研究系	18	109,638	19	97,956	18	134,331	24	192,184	22	130,101
基礎科学研究系	1	2,000	2	4,860	2	3,600	1	1,800	1	1,150
先端機能システム工学研究系	3	21,072	4	18,092	12	87,282	9	56,982	6	5,361
人間科学系	0		0		0		0		1	0
合計	61	240,122	63	226,857	62	299,669	68	307,839	66	203,188

複数年契約を含む。

注意事項

- ・ 束ね契約もありますが、申請を1件としています。
- ・ 知的クラスターは1テーマを1件とし、代表者の所属で分けています。
- ・ 受託事業は含まれていません。

表4.3.4 寄附講座受け入れ状況（単位：千円）

名称	所属学科	寄附者	年度別受け入れ金額					教員組織
			平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
電力系統制御工学	電気電子工学科	九州電力(株)	30,000	30,000	30,000	30,000	25,000	平成24年度 寄附講座教員 1名

4.3.5 寄附金の利息

大学院工学研究院・工学府・工学部では、寄附金の利息を共通経費として運用している。
表4.3.5に平成24年度の使用内訳を示す。

表4.3.5 平成24年度寄附金共通経費使用報告

(単位:円)

受入額		使用額	
事項	金額	事項	金額
前年度繰越	6,751,657	サンテティエンヌ大学との国際交流会議費	8,250
寄附金オーバーヘッド分	55,000	記念品購入	172,200
		秋の会(飯塚～若松～戸畑)小型バス代	49,000
		サリー大学との国際交流会議費	15,700
		「学生と教員との懇談会」会議費	5,600
		次年度繰越	6,555,907
計	6,806,657	計	6,806,657

5 大学院工学研究院・工学府・工学部と社会のつながり

5.1 地域貢献活動

5.1.1 大学公開

大学公開事業の一環として実施している高校生のためのオープンキャンパス（学内見学会）の実施状況を表5.1.1に示す。

年度	参加者数（名）	
	大学全体	学部別
平成20年度	2,198	（工） 1,285
		（情） 913
平成21年度	2,427	（工） 1,502
		（情） 925
平成22年度	2,767	（工） 1,594
		（情） 1,173
平成23年度	3,012	（工） 1,807
		（情） 1,205
平成24年度	3,005	（工） 1,989
		（情） 1,016

5.1.2 公開講座等

表5.1.2 公開講座等実施状況

(単位：名)

年度	講座名	対象	参加者数
平成20年度	第23回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」	小学生以上	ブース出展
	第24回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体」	小学生以上	105
	第25回ジュニア・サイエンス・スクール「天体観望会：大型望遠鏡で月や惑星をみよう」	中学生	228
	第26回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学4年生～中学生	29
	第27回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 水環境館」	小学生以上	ブース出展
	第28回ジュニア・サイエンス・スクール「正6 画形で作るふしぎな立体」	小学生以上	78
	第29回ジュニア・サイエンス・スクール「人力飛行機の最新技術」	小学4年生以上	30
	第30回ジュニア・サイエンス・スクール「音と楽器の科学」「ミニチュア電子ピアノの作製」	小・中学生	44
	第31回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(初級)」「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(中級)」	小学生以上	80
	第32回ジュニア・サイエンス・スクール「磁石を使って魚ロボットを動かしてみよう」	小学生以上	28
	もりつね祭ブース出展	一般	
	青少年の為の科学の祭典 実験ブース出展	一般	ブース出展
	北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力	一般	ブース出展
	福岡市少年科学文化会館「音と楽器の科学」への協力	一般	ブース出展
	福岡市少年科学文化会館「わくわく科学カーニバル」への協力	一般	ブース出展
	北九州市立中原市民センター	小学1～6年生	約30
	北九州市立三六市民センター	小学生(主に1～3年生)	約40
	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	20
	天文講演会「生命の歩み-君はどこからきたのか-」	小学校高学年以上一般まで	162
	中学理科教員サークル研修「天気のおぞに挑戦しよう!」「光の不思議を体験しよう」	中学教員	約20
飛幡中学校「燃える不思議-花火のひみつ-」	中学1・2年	14	
インターンシップ福岡県立八幡工業高等学校	高校生	2	
平成21年度	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	20
	第33回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」	小学生以上	ブース出展
	第34回ジュニア・サイエンス・スクール「多角形をたたんで作るふしぎな模様」	小学生以上	59
	北九州市立永犬丸市民センター	小学1～6年生	約50

	北九州市立前田市民センター	小学1～6年生	25
	第35回ジュニア・サイエンス・スクール「皆既日食観察会」	小学生以上	420
	第36回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	中学生	42
	日本化学会九州支部「化学への招待」への協力	小学生以上	63
	北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力	一般	ブース出展
	戸畑区「いいっちゃ戸畑」への協力	一般	ブース出展
	戸畑区まちづくり推進課推進課「安川・松本家と戸畑の百年」記念事業への協力	一般	33
	天文講演会「宇宙を身近に～宇宙開発者たちに聞いてみよう～」	小学校高学年以上一般まで	103
	第37回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(初級)」「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(中級)」	小学生以上	72
	北九州市立三六市民センター	小学1～6年生	約40
	第38回ジュニア・サイエンス・スクール「ソルバトクロミズム：周りの環境で色が変わるカメレオン分子を作ってみよう」	小学生以上	45
	第39回ジュニア・サイエンス・スクール「家庭の科学 電気製品の仕組みと安全な使用法」	小学生以上	30
平成22年度	第40回ジュニア・サイエンス・スクール「ドライアイスで遊ぼう！」	小学生以上	41
	福岡県立戸畑高等学校文化祭に参加「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」「超高速カメラでおもしろ実験」	小学生以上	ブース出展
	第41回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」	小学生以上	ブース出展
	第42回ジュニア・サイエンス・スクール「多角形を切って作るふしぎな模様」	小学生以上	100
	天文講演会「星をながめて」	小学校高学年以上一般まで	82
	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	19
	読売新聞企画 社会見学受入れ「液体窒素の実験」	小学生	30
	第43回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	中学生	33
	第44回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう」	小学生以上	58
	出張！オープンキャンパス in イムズ「折り紙ユニットで立体をつくってみよう」「宇宙空間ってどんなところ？」	一般	ブース出展
	北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力	一般	ブース出展
	フクオカサイエンスマンス「光と電気のふしぎ体験」	小学生以上	ブース出展
	科学で遊ぼう！夢テクノロジー2010 in 中津	小学生以上	ブース出展
	理数教育研究セミナー2010	一般	28
	第45回ジュニア・サイエンス・スクール「手作り望遠鏡教室」	小学生以上	29

平成23年度	第46回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(中級)」	小学生以上	52
	第47回ジュニア・サイエンス・スクール「JSS in 環境ミュージアム」	小学生～一般の方	ブース出展
	缶サット甲子園2012 九州大会	高校生	
	福岡県高校化学部会研修会	高校教員	
	平成23年度「先端科学技術体験合宿」「超伝導体の電気磁気特性～電気抵抗ゼロの世界～」 「ものづくりの道具 金型の構造と作り方を学ぶ」「多面体と折り紙と数学と」「マイコンでオリジナルプログラムを組んでみよう！」		
	第48回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学生(5年生以上),中学生(保護者は、見学のみ)	32
	読売新聞企画 社会見学受入れ「液体窒素の実験」	小学生	30
	第49回ジュニア・サイエンス・スクール「天体観測」	一般(中学生以下は保護者同伴)	71
	SAFnet世界一行きたい科学広場IN北九州2011「冷却バックを作ろう」		
	戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう」	小学生	60
	第50回ジュニア・サイエンス・スクール「科学実験と楽しい工作」	小学生	49
	アインシュタイン展LOVE特別展 科学実験教室「ドップラー効果から宇宙を知る」「アインシュタインのノーベル賞理論を体験しよう～光電効果の実験～」	小学4年生以上	
	北九州市児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」への協力「『えきじょうか』ってな～に」	一般	ブース出展
	第51回ジュニア・サイエンス・スクール「正六角形で作るふしぎな立体」	小学生以上(一般の方の参加も歓迎します)	75
	フクオカサイエンスマンス2011「折り紙ユニットで立体を作ってみよう」		ブース出展
	第52回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置作りに挑戦！」	小学校 4 年生以上	30
	JICA青年研修受入れ	大洋州8ヶ国研修生	21
	第53回ジュニア・サイエンス・スクール「簡単な電子工作～オルゴールを作ろう～」	小学校 5 年生以上	20
	ユニセックワークショップ		
第54回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAをつくろう」	小学校 4 年生以上	40	
第55回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作るふしぎな立体(初級)」	小学生以上(一般の方の参加も歓迎します)	63	
理数教育研究セミナー2012「竜巻ってなあに？」	一般	28	
平成24年度	「日食・金星太陽面通過 観察説明会」	指導者(小中高等学校の先生、市民福祉センター、公共施設の担当者)	30
	第56回ジュニア・サイエンス・スクール「正多角形をたんで作る不思議な模様」	小学生～一般の方	72
	缶サット甲子園2012九州大会	高校生	

サイエンスフェア&サイエンスコンテストfor 高校生	高校生	
第57回ジュニア・サイエンス・スクール「見て、触れて楽しもう！北九州工学体験工房」	小学生（5年生以上），中学生	32
サマーサイエンスフェスタin北九州2012	一般とSSH指定校の高校生	2000
福岡県教育委員会主催先端科学技術体験合宿	中学生	44
福岡県教育センター主催キャリアアップ講座	高校教員	15
読売新聞企画 社会見学受入れ	小学生	30
SAFnet世界一行きたい科学広場IN北九州2012	一般	ブース出展
北九州市立戸畑図書館 夏休み特別企画「科学であそぼう」	小学生	
第58回ジュニア・サイエンス・スクール「ロボット学習と顕微鏡作り」	小学4～6年生	16
北九州市立児童文化科学館「わくわくサイエンスキッズ」	一般	ブース出展
第59回ジュニア・サイエンス・スクール「電子回路ものづくり体験」	小学5年生～中学生	19
第60回ジュニア・サイエンス・スクール「DNAを調べよう」	小学生4年生～中学生	23
第61回ジュニア・サイエンス・スクール「宇宙ってどんなところ？」	小学校4年生以上～中学生まで	28
福岡県高等学校北九州筑豊地区化学部会研修会	高校教員	10
第62回ジュニア・サイエンス・スクール「コロコロ装置を作ろう」	小学校4年生以上～高校生まで	40
第63回ジュニア・サイエンス・スクール「折り紙ユニットで作る不思議な立体（中級）」	小学校4年生以上～一般の方	62

5.1.3 北九州市民カレッジへの協力

本学は、福岡・北九州地域リカレント教育推進協議会主催のリカレント教育の実施大学の一つになっていたが、その後継事業として、平成17年度から北九州市民カレッジが始まった。これらの事業にこの5年間に協力したセミナーの実施状況を表5.1.3に示す。

表5.1.3 北九州市民カレッジ（リカレント教育）協力セミナー実施状況（単位：名）

年 度	セミナー名	参加者数	備 考
平成20年度	現代社会を支える化学 - 最先端機能物質から環境・リサイクルまで	18	市民カレッジ
平成21年度	原語で読む現代ドイツ文学 ダニエル・ケールマン『陽の下で』	27	市民カレッジ
平成22年度	前期 原語で読む現代ドイツ文学（2） ダニエル・ケールマン『陽の下で』	21	市民カレッジ
	後期 講師の都合により中止		
平成23年度	学校ではぜったい教わらない北九州のマチモノガタリ	21	市民カレッジ
平成24年度	人類文明を切り拓く材料開発の過去・現在・未来	10	市民カレッジ

5.1.4 出前講義

表5.1.4 出前講義

近年、社会的問題となっている、いわゆる青少年の「科学離れ」「理工系離れ」対策の一環として、小・中・高等学校の生徒を対象に本学の教官が小・中・高等学校に出向き、理工系分野の学問の最前線の話題や魅力等について分かり易く講義をする。

年度	講義名	実施件数	対象者	
平成20年度	もてる男の顔・対称性とその顔認証への応用 - パイセキュリティの世界 -	4	小・高校生	
	やさしい情報通信の世界 - インターネットの基礎と応用 -	3	高校生	
	テレビはなぜ見える！ - テレビ・ラジオの原理と電波のふしぎ -	3	小・高校生	
	音声のブライント信号分離 - 聖徳太子プロジェクト -	2	高校生	
	世界最速のデジタルオーディオIC	1	高校生	
	脳と機械の「見る」 - 人間の視覚のしくみとロボットへの応用 -	3	小・高校生	
	ニューラルネットのロボットへの応用 - 脳をまねてロボットを動かすはなし -	2	高校生	
	環境にやさしいプラスチックで作る自在に曲がる電子デバイス - ポリマーで拓く未来の情報機器とロボット -	1	高校生	
	携帯電話もパソコンもテレビも車も集積回路(LSI)がぎっしり - LSIってなに？半導体ってなに？ -	4	高校生	
	超伝導体による浮上実験 - 超伝導体と磁石はどう違うか？ -	10	小・中・高校生	
	生物の生み出すナノ工作の世界 - 生物の働きを生み出すタンパク質達を眺めてみよう -	1	高校生	
	DNAと遺伝子 - やさしい遺伝子のはなし -	5	高校生	
	医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術 - 生物に学ぶドラッグデリバリーシステム -	3	高校生	
	エコポ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 - 自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう -	3	小学生	
	魚のすみやすい川づくり	1	高校生	
	風を生活に役立てる最先端研究 - 何がわかってて、何がわかってない？ -	2	高校生	
	地球温暖化問題と自然エネルギー - 風力発電を含めて -	2	小・高校生	
	エネルギーと環境 - 新聞から学ぶ 原発と温暖化対策 -	1	高校生	
	お日様パワーは地球を救う - 太陽電池のはなし -	2	高校生	
	光触媒を使った環境浄化について	1	高校生	
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - リサイクルを考えよう -	3	小・中学生	
	あっ、プラスチックが水に溶ける！ - プラスチックのリサイクルを考える -	1	高校生	
	ためになるけど、ホントはコワイ確率の話。 - 確率にだまされるな。確率は人の生命も左右する鋭い牙にもなる。確率は科学の大事な根っこ。正多面体のはなし - 折り紙でいろいろな立体をつくろう -	1	小学生	
	宇宙とは何か？時間とは何か？人間とは何か？	1	高校生	
	天気予報のしくみと地球の気候変動 - 気象現象の物理と数学 -	2	高校生	
	「アポロ13」はただの冒険映画じゃない - 技術者ってカッコいい！	2	高校生	
	「紅の豚」はただのアニメじゃない - 技術者っていいもんだ！ -	4	高校生	
	自動車の出来るまで - ものづくりの現場を見てみよう -	5	高校生	
	工学部ってどんなところ？	5	高校生	
	僕や私の生きる道(工学編) - 人生なんとかなるもんだ -	2	高校生	
	平成21年度	もてる男の顔・対称性とその顔認証への応用 - パイセキュリティの世界	9	高校生
		情報工学のもたらす新世界探訪 - 情報工学の可能性は -	3	高校生
		やさしい情報通信の世界 - インターネットの基礎と応用 -	1	高校生
テレビはなぜ見える！ - テレビ・デジタルテレビの原理と電波のふしぎ -		4	高校生	
音声のブライント信号分離 - 聖徳太子プロジェクト -		1	高校生	
世界最速のデジタルオーディオIC - 20年目の夢 -		3	高校生	
見えないことと、その支援方法		1	高校生	
聞こえないことと、その支援方法		1	高校生	
いつも働いている脳 - 早寝、早起き、脳にご飯を -		2	高校生	
人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってます - 脳の視覚のしくみをコンピュータで実現 -		10	中・高校生	
自動ピアノから学ぶ人間の不思議 - 人の感覚を探る -		2	高校生	
生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 - 先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで		3	高校生	
ニューラルネットのロボットへの応用 - 脳をまねてロボットを動かすはなし -		2	高校生	
携帯電話もパソコンもテレビも車も集積回路(IC)がぎっしり - ICってなに？半導体ってなに？ -		2	高校生	
カーボンナノチューブによる半導体ナノテクノロジー - カーボンナノチューブとは？ -		3	高校生	
超伝導体による浮上実験 - 超伝導体と磁石はどう違うか？ -		11	小・中・高校生	
電気のいろいろな作り方 - 身近なもので電気をつくろう -		2	小学生	
生物のつくるナノ構造を観察しよう！ - コンピュータを使った新しい自然観察 -		1	高校生	
DNAと遺伝子 - やさしい遺伝子のはなし -		1	高校生	
医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術 - 生物に学ぶドラッグデリバリーシステム -		1	高校生	
なぜ砂糖や塩に味を感じるのか？	1	高校生		

平成 2 2 年度	エコポ・ワークショップ! 植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 - 自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう -	1	高校生
	魚のすみやすい川づくり	1	高校生
	風を生活に役立てる最先端研究 - 何がわかって、何がわかってない?	2	高校生
	地球温暖化問題と自然エネルギー - 風力発電を含めて -	2	高校生
	お日様パワーは地球を救う - 太陽電池のはなし -	4	高校生
	電子レンジで化学の実験 - マイクロ波が促進する化学反応 -	3	高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - びせいぶつの不思議な世界	1	高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - リサイクルを考えよう -	1	高校生
	あっ、プラスチックが水に溶ける! - プラスチックのリサイクルを考える -	1	高校生
	データを科学する: 判断や認識に潜む危うさを見抜く - 血液型で性格判断できるってホント? 認識って実は何? -	2	高校生
	正多面体のはなし - 折り紙でいろいろな立体をつくろう -	3	中・高校生
	相対性理論と4次元時空間 - アインシュタインが目指したもの -	1	高校生
	宇宙とは何か? 時間とは何か? 人間とは何か? - 科学と技術 -	2	高校生
	「アポロ13」はただの冒険映画じゃない - 技術者ってカッコいい!	2	高校生
	「紅の豚」はただのアニメじゃない - 技術者っていいもんだ! -	4	高校生
	自動車の出来るまで - ものづくりの現場を見てみよう -	5	高校生
	工学部ってどんなところ?	3	高校生
	もてる男の顔・対称性とその顔認証への対応 - バイオセキュリティの世界 -	10	高校生
	情報工学のもたらす新世界探訪 - 情報工学の可能性は -	5	高校生
	テレビはなぜ見える! - テレビの基本原理と電波のふしぎ -	6	小学・高校生
	世界最速のオーディオIC - 20年目の夢 -	3	高校生
	見えないことと、その支援方法	1	高校生
	いつも働いている脳 - 早寝、早起き、脳にご飯を -	5	高校生
	データを科学する: 判断や認識に潜む危うさを見抜く - 血液型で性格判断できるってホント? 認識って実は何? -	1	高校生
	人間の見るしくみをしらべてロボットの見るしくみをつくってます - 脳の視覚のしくみをコンピューターで実現 -	8	高校生・その他
	迷路とマイクロマウス - 人工知能ってなに -	1	高校生
	機械情報工学って何? - 身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術 -	5	高校生
世界初! 蝶ロボットの開発 - 何故、蝶は飛ぶことができるのか? -	3	高校生	
自動ピアノから学ぶ人間の不思議 - 人の感覚を探る -	3	高校生	
生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 - 先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで -	4	高校生	
ニューラルネットのロボットへの応用 - 脳をまねてロボットを動かすはなし -	5	高校生	
からくり人形とロボットの不思議	3	高校生	
超精密の不思議 - 身の回りにある超精密 -	3	高校生	
「鉄&鉄子」の楽しみ - 身近な電車の中の先端技術 -	1	高校生	
ミクロの機械の不思議 - マイクロマシン(微小な機械) -	1	高校生	
携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路(LSI)がぎっしり - LSIってなに? 半導体ってなに? -	9	高校生	
自動車の出来るまで - ものづくりの現場を見てみよう -	3	高校生	
カーボンナノチューブによる半導体ナノテクノロジー - カーボンナノチューブとは? -	2	高校生	
生命に学ぶナノテクノロジー - 機械工学へのナノテック応用 -	2	高校生	
シャボン玉から知る複合材料の科学	1	高校生	
超伝導体による浮上実験 - 超伝導体と磁石はどう違うか? -	15	小学・中学・高校生	
電気のいろいろな作り方 - 身近なもので電気をつくろう -	3	小学生	
お日様パワーは地球を救う - 電気から学ぶ資源とエネルギー -	1	高校生	
地球温暖化問題と自然エネルギー - 風力発電を含めて -	2	高校生	
エコポ・ワークショップ! 植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 - 自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう -	1	高校生	
魚のすみやすい川づくり	2	高校生	
風を生活に役立てる最先端研究 - 何がわかって、何がわかってない?	2	中学・高校生	
地盤災害はどうして起こる?	4	高校生	
生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - リサイクルを考えよう -	5	中学・高校生	
生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - びせいぶつの不思議な世界	3	高校生	
あっプラスチックが水に溶ける! - プラスチックのリサイクルを考える -	2	高校生	
生命がつくるナノ構造を覗き見る - コンピュータをつかった新しい自然観察 -	3	中学・高校生	
DNAと遺伝子 - やさしい遺伝のはなし -	2	高校生	
医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術 - 生物に学ぶドラッグデリバリーシステム -	2	高校生	
総合的学問「建築」への招待	3	高校生	
生き物の分子をデザインする - 遺伝子や蛋白質の美しさと生命科学の世界 -	1	高校生	
驚きのマイクロ波化学 - 電子レンジがCO2を減らす -	1	高校生	
宇宙とは何か? 時間とは何か? 人間とは何か?	1	高校生	
正多面体のはなし - 折り紙でいろいろな立体をつくろう -	3	高校生	
「アポロ13」はただの冒険映画じゃない - 技術者ってカッコいい!	7	高校生	
「紅の豚」はただのアニメじゃない - 技術者っていいもんだ! -	1	高校生	
工学部ってどんなところ?	3	高校生	
もてる男の顔認証 - バイオセキュリティの世界 -	10	小学・中学・高校生	
情報工学のもたらす新世界探訪 - 情報工学の可能性は -	5	高校生	

	テレビはなぜ見える！ - テレビの基本原理と電波のふしぎ -	5	中学・高校生・その他
	世界最速のオーディオIC - 20年目の夢 -	2	高校生
	見えないことと、その支援方法	2	高校生
	環境にやさしいプラスチックで作る自在に曲がる電子デバイス - ポリマーで拓く未来の情報機器とロボット -	2	高校生
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く - 血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ -	2	高校生
	人間の見るしきみをしらべてロボットの見るしきみをつくってます - 脳の視覚のしきみをコンピューターで実現 -	5	高校生・その他
	迷路とマイクロマウス - 人工知能ってなに -	1	高校生
	機械情報工学って何？ - 身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術 -	4	高校生
	世界初！蝶ロボットの開発 - 何故、蝶は飛ぶことができるのか？ -	1	高校生
	ロボットから学ぶ人間の不思議 - 人の感覚を探る -	3	高校生
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 - 先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで -	6	高校生
	ニューラルネットのロボットへの応用 - 脳をまねてロボットを動かすはなし -	2	高校生
	超精密の世界 - 身の回りの超精密 -	5	中学・高校生
	「鉄&鉄子」の楽しみ - 身近な電車の中の先端技術 -	2	高校生
	ミクロの機械の不思議 - マイクロマシン(微小な機械) -	2	高校生
	携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路(IC)がぎっしり - ICってなに？半導体ってなに？ -	5	中学・高校生
	日本刀に学ぶマテリアル工学	2	高校生
	自動車の出来るまで - ものづくりの現場を見てみよう -	8	高校生
	シャボン玉から知る複合材料の科学	4	高校生
	最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう！ - 制がん剤から新幹線まで -	2	中学・高校生
	超伝導体による浮上実験 - 超伝導体と磁石はどう違うか？ -	7	小学・中学・高校生
	電気のいろいろな作り方 - 身近なもので電気をつくろう -	3	小学生・その他
	お日様パワーは地球を救う！ - 電気から学ぶ資源とエネルギー -	1	高校生
	地球温暖化問題と自然エネルギー - 風力発電を含めて -	5	小学・中学・高校生
	見えない"流れ"を見る！ - 何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ -	2	高校生
	エコボ・ワークショップ！植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 - 自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう -	3	小学生・その他
	地震災害はどうして起こる？	5	小学・高校生
	生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - リサイクルを考えよう -	1	中学生
	生命が創るナノ構造を覗きみよう - コンピュータを使った新しい自然観察法 -	2	高校生
	DNAと遺伝子 - やさしい遺伝のお話 -	1	高校生
	3Dデザインで健康を科学します - メタボ、がん、肌、毛髪まで -	2	高校生
	医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術 - 生物に学ぶドラッグデリバリーシステム -	3	高校生
	総合的学問「建築」への招待	1	高校生
	生命の起源と進化を考える - 卵が先か、ニワトリが先か -	2	中学・高校生
	光や電磁波を使っている最新技術をみてみよう - 電子線、蛍光、ミリ波、マイクロ波、ラジオ波って何だろう -	1	高校生
	正多面体のはなし - 折り紙でいろいろな立体をつくろう -	1	高校生
	「アポロ13」はただの冒険映画じゃない - 技術者ってカッコいい！	1	高校生
	「紅の豚」はただのアニメじゃない - 技術者っていいもんだ！ -	3	中学・高校生
	工学部ってどんなところ？	3	高校生
	大学ってどんなところ？ - 当世大学・学生事情 -	1	高校生
	理系(技術系)人材養成のためのプロジェクト学習について - 企業で求められる人材とは？ -	3	高校生
平成24年度	もてる男の顔認証 - バイオセキュリティの世界 -	10	小学・中学・高校・高専・予備校
	情報工学のもたらす新世界探訪 - 情報工学の可能性は -	6	小学・中学・高校・高専・予備校
	技術者ってカッコよくなって、わるくない！ - アニメや映画にみる技術者の姿 -	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	テレビはなぜ見える！ - テレビの基本原理と電波のふしぎ -	4	小学・中学・高校・予備校・一般
	切っても切れない情報社会 - スマートフォンから予防医療まで -	2	中学・高校・高専・予備校
	見えないことと、その支援方法	2	中学・高校・高専・予備校
	データを科学する：判断や認識に潜む危うさを見抜く - 血液型で性格判断できるってホント？認識って実は何？ -	1	高校・高専・予備校
	人間の見るしきみをしらべてロボットの見るしきみをつくってます - 脳の視覚のしきみをコンピューターで実現 -	7	小学・中学・高校・高専・予備校
	迷路とマイクロマウス - 人工知能ってなに -	2	小学・中学・高校
	機械情報工学って何？ - 身近な機械情報工学、医療・ロボット開発で活躍する情報工学技術 -	6	高校・高専・予備校
	世界初！蝶ロボットの開発 - 何故、蝶は飛ぶことができるのか？ -	4	高校・高専
	見えない"流れ"を見る！ - 何故、ボールは変化する？何故、昆虫は飛ぶことができる？ -	3	高校・高専
	ロボットから学ぶ人間の不思議 - 人の感覚を探る -	3	中学・高校・高専
	生物の動きを真似たマイクロマシンと磁場 - 先端医療デバイスからアミューズメントロボットまで -	3	高校・高専
	人のためのロボット	1	高校・高専

ニューラルネットのロボットへの応用 - 脳をまねてロボットを動かすはなし -	1	高校
超精密の不思議 - 身の回りの超精密 -	2	小学・中学・高校・高専
携帯電話もゲームもパソコンも自動車も集積回路 (IC) がぎっしり - IC ってなに? 半導体ってなに? -	3	中学・高校・高専・予備校
自動車の出来るまで - ものづくりの現場を見てみよう -	5	高校・高専・予備校
シャボン玉から知る複合材料の科学	1	高校
最先端のハイテクを支える錯塩の科学に触れよう! - 制がん剤から新幹線まで -	2	中学・高校・高専・予備校
世界最強! 日本磁石研究最前線 - 世界を変えた強力磁石。レアメタル問題を救えるか? -	4	中学・高校・高専・予備校
不思議な金属 - 金属から学ぶ材料のいろいろ -	2	高校・保護者
超伝導体による浮上実験 - 超伝導体と磁石はどう違うか? -	10	小学・中学・高校・高専・予備校
電気のいろいろな作り方 - 身近なもので電気をつくろう -	3	小学
お日様パワーは地球を救う! - 電気から学ぶ資源とエネルギー -	3	高校・高専
共に考えよう、地球温暖化とエネルギーのこと - 自然エネルギーの利用の話を中心に -	2	小学・中学・高校・予備校
エコポ・ワークショップ! 植木鉢から学ぶ身近な自然と日本の文化 - 自分でデザインした植木鉢をつくって植物を育てよう -	2	小学・中学・高校・高専・予備校
地盤災害はどうして起こる?	2	小学・中学・高校
総合的学問「建築」への招待	3	高校
生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - リサイクルを考えよう -	1	小学・中学
生ゴミからプラスチックと肥料をつくる - びせいぶつの不思議な世界 -	1	小学
パンデミックシミュレーション - 新型インフルエンザや口蹄疫流行の予測 -	1	中学・高校・高専
生物の創り出すナノ世界を覗き見る - 生物を理解するための情報工学と物理 -	1	小学・中学・高校・高専・予備校
医薬品の安全で効果的な体内取り込み技術 - 生物に学ぶドラッグデリバリーシステム -	1	高校・高専・予備校
3Dデザインで体の健康を科学します - 血管、がん、肌、毛髪、歯骨まで -	3	中学・高校・高専・予備校
驚きのマイクロ波化学 - 電子レンジでグリーンイノベーション -	2	小学・中学・高校・高専・予備校
科学を装ったニセモノの世界 - ニセ科学にだまされるな! -	2	中学・高校・高専・予備校予備校
生命の起源と進化を考える - 卵が先か、ニワトリが先か -	2	中学・高校・高専・予備校
宇宙とは何か? 時間とは何か? 人間とは何か?	1	高校・高専・予備校
相対性理論と4次元時空間 - アインシュタインが目指したもの -	1	高校・高専・予備校
数学と物理のコラボが導く新しい理系眼 - 数学を通して見た高校と大学の接続 -	1	高校・高専・予備校
管楽器はどうして鳴るか - なぜ音は出るの? -	1	中学・高校・高専・予備校
工学部ってどんなところ?	3	高校・予備校
理系(技術系)人材養成のためのプロジェクト学習について - 企業で求められる人材とは? -	2	中学・高校・高専・予備校

大学見学時の模擬授業含む

5.1.5 情報公開

大学院工学研究院・工学府・工学部の情報公開の実施状況を表5.1.5に示す。

表5.1.5 各種情報公開の現状

現在公開（公表） している情報等	編集方針	年間発行回数 発行時期	公開・情報提供先	編集組織の名称
大学院工学研究院・工学府・工学部自己点検・評価報告書	大学院工学研究院・工学府・工学部とその関連部局における自己点検・評価を行い、その結果を公表する。	1回・2月	大学公式ホームページ上で、学内外へ公開	大学院工学研究院部局評価委員会

5.2 学生の国際交流

表5.2.1 外国人留学生(国籍別・課程別・費用別)在学状況一覧表

外国人留学生在学状況 平成24年5月1日現在

(単位:人)

所属・課程・費用別等		国 籍																								合計				
		中国	韓国	マレーシア	インドネシア	ベトナム	フランス	タイ	オーストラリア	台湾	ラオス	インド	アメリカ	バングラデシュ	アフガニスタン	ネパール	シリア	ブラジル	ミャンマー	イラン	スリランカ	リベリア	アルジェリア	フィジー	エジプト		モンゴル	パキスタン	フィリピン	
工学部 工学研究科	課程別	博士後期課程	15	3		4		1					1						1			1	1		1	1				29
		博士前期課程	37	1			1	1			1	1												1				1		44
	内 訳	学 部 生	7	2	3							2																		14
		研究生/聴講生	15	9		1		1				2	3															1	32	
		費用別	国 費	1	2		1						1							1			1	1						9
	内 訳	本国政府派遣			3																			1	1					3
		私 費	73	13		4	1	3			1	2	2	3	1											1	1	1	1	107
	JASSO																												0	
	国 籍	小 計	74	15	3	5	1	3	0	0	1	3	2	3	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	119	
情報工学部 情報工学研究科	課程別	博士後期課程	5		2	3	1			3				1															16	
		博士前期課程	19			2													1										21	
	内 訳	学 部 生	9	2	1		2									1													15	
		研究生/聴講生	2						1	4	3																		10	
		費用別	国 費	1			1									1														3
	内 訳	本国政府派遣			1																									1
		私 費	34	2	2	4	3		3	4	3			1					1										57	
	JASSO							1																					1	
	国 籍	小 計	35	2	3	5	3	0	4	4	3	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62	
生命体工学研究科	課程別	博士後期課程	7	1	7		2						1									1							19	
		博士前期課程	8	2					1						1		1				1								14	
	内 訳	研究生/聴講生	2					2																					4	
		費用別	国 費	1																	1								2	
		本国政府派遣	1																										1	
	内 訳	私 費	15	3	7		2	3					1		1		1					1							34	
		JASSO																												0
	国 籍	小 計	17	3	7	0	2	3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	37	
合 計	課程別	博士後期課程	27	4	9	7	3	1	3	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	64	
		博士前期課程	64	3	0	2	1	2	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	79	
	内 訳	学 部 生	16	4	4	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	
		研究生/聴講生	19	9	0	1	0	3	1	4	3	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	
		費用別	国 費	3	2	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	14
	内 訳	本国政府派遣	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
		私 費	122	18	9	8	6	6	3	4	4	2	3	3	2	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	198	
	JASSO	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	国 籍	合 計	126	20	13	10	6	6	4	4	4	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	218	

JASSOは、独立行政法人日本学生支援機構による大交流計画奨学金または留学生交流支援制度(短期受入れ)によって在籍する者
 研究生/聴講生は、協定校等からの特別聴講(研究)学生を含む

表5.2.2 外国人留学生(学科別・専攻別)在学状況一覧

(平成24年5月1日現在)(単位:人)

所 属 区 分	機械知能工学科			建設社会工学科			電気電子工学科			物質工学専攻		総合システム工学科 機能システム創成工学専攻 先端機能システム工学専攻		合 計
	機械知能工学専攻			建設社会工学専攻			電気電子工学専攻			応 用 化 学 科	マ テ リ ア ル 工 学 科	機 能 シ ス テ ム 創 成 専 攻	先 端 機 能 シ ス テ ム 工 学 専 攻	
	機 械 工 学 コー ス	宇 宙 工 学 コー ス	知 能 制 御 工 学 コー ス	建 築 学 コー ス	地 域 環 境 デ ザ イ ン コー ス	都 市 再 生 デ ザ イ ン コー ス	シ ス テ ム エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス コー ス	電 気 エ ネ ル ギ ー 学 コー ス	電 子 デ バ イ ス コー ス					
博 士 後 期 課 程	2	1	8	2			3	5	0	4	1	0	3	29
博 士 前 期 課 程	12	2	4	3			8	3	1	5	0	0	6	44
学 部 生 2 年 生 以 上	1	2	2	4			0	0	1	0	0	1	0	11
学 部 生 1 年 生	3			0			0			0	0	0	0	3
研 究 生 ・ 聴 講 生	4			0			2			2	0	2	0	10
短 期 留 学 生	9			4			2			2	2	0	3	22
合 計	50			13			25			13	3	15		119

表5.2.3 学生の海外派遣

年度	国名	交流協定校	学生派遣数
20	イギリス	サリー大学	短期留学2名
	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修8名(工学部8名)
	オーストラリア	モナシュ大学	語学研修12名(情報工学部12名)
	フランス	ロレーヌ工科大学	短期留学1名
	韓国	忠州大学校	相互交流12名(工学部12名)
21	イギリス	サリー大学	短期留学1名(工学府1名)
	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修8名(工学部8名)
	フランス	国際宇宙大学	短期留学3名(工学府3名) 派遣先:アメリカ
	ニュージーランド	オークランド工科大学	語学研修2名(情報工学部2名)
	オーストラリア	シドニー工科大学	短期留学2名(工学部1名、工学府1名)
	インド	バナラスヒन्दゥー大学	短期留学1名(生命体工学研究科1名)
	韓国	釜山大学 忠州大学校 浦項工科大学	短期留学1名(工学府1名) 相互交流12名(工学部12名) 合同ワークショップ13名(生命体工学研究科13名)
22	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修8名(工学部8名)
	イギリス	サリー大学	語学研修12名(工学府8名、情報工学府2名、生命体工学研究科2名)
	フランス	ロレーヌ工科大学	短期留学2名(工学府1名、生命体工学研究科1名)
		国際宇宙大学	短期留学3名(工学府3名)
	オーストラリア	シドニー工科大学	短期留学1名(工学部1名)
	韓国	忠州大学校	相互交流14名(工学部14名)
23	アメリカ	オールド・ドミニオン大学	語学研修8名(工学部8名)
		クラークソン大学	短期留学2名(情報工学府2名)
	イギリス	サリー大学	短期留学1名(情報工学府1名) 語学研修12名(工学府7名、情報工学府4名、生命体工学研究科1名)
		フランス	国際宇宙大学
	オーストラリア	ウォロンゴン大学	語学研修1名(情報工学部1名)
	韓国	韓国交通大学校 (旧名・忠州大学校)	相互交流14名(工学部14名)
24	韓国	韓国交通大学校	相互国際交流(工学部13名、情報工学部1名)
		昌原大学校	相互国際交流(工学部8名)
	オーストラリア	ウォロンゴン大学	語学研修1名(情報工学部1名)
		シドニー工科大学	交流協定3名(情報工学部・府3名)
	フランス	ロレーヌ大学	交流協定1名(工学府1名)
		サテリエ国立高等鉱山学院	短期留学5名(工学府5名)
	タイ	ADAMAS (THAILAND) CO., LTD.	インターンシップ1名(情報工学部1名)
		タマサート大学シリンドホーン 国際工学部	語学留学1名(情報工学部1名) 語学留学1名(情報工学部1名)
		キングモンクット工科大学	短期留学6名(情報工学部4名、情報工学府2名) 語学研修1名(情報工学部1名)
			台湾
	トルコ	Gebze Institute of Technology	短期留学(生命体工学研究科1名)
	インド	Nihon Technology Private Limited	インターンシップ1名(情報工学部1名)
	中国	デンソーソフトウェア上海 有限会社	インターンシップ1名(情報工学府1名)
	ロシア	三井住友銀行	インターンシップ1名(生命体工学研究科1名)
	米国	ポートランド州立大学	語学研修1名(情報工学部1名)
		オールドドミニオン大学	語学研修10名(工学部10名)
		クラークソン大学	短期研修3名(情報工学部2名、情報工学府1名)
		ポートランド州立大学	語学研修3名(情報工学部3名)
	英国	サリー大学	語学研修12名(工学府7名、情報工学府5名)
		ニューカッスル大学	語学研修2名(情報工学部2名)
イースタンリア大学		語学研修3名(情報工学部3名)	
ニュージーランド	Massey University	短期留学(生命体工学研究科1名)	
	オークランド工科大学	語学研修3名(情報工学部3名)	
カナダ	ピクワ大学	語学研修5名(情報工学部5名)	
	ブリティッシュ・コロンビア大学	語学研修3名(情報工学部3名)	

6 . おわりに

現状を確認し、それを分析し課題を見つけることは、どんな場合にも当てはまる改善のための普遍のプロセスでしょう。そして、この流れにしたがって個別的に多くの改善が成されてきました。この「現状と課題」はその役割を果たし、多くの項目で随分良くなったと言えると思います。では、総括的な改善はどのようなのでしょうか。個々の改善は束ねても必ずしも総括的改善になるとは限りません。残念ながら、昨今はローカルな改善議論に翻弄され、本筋を見据えた議論をする機会は寧ろ後回しにされているように感じます。今後は根本哲学に戻った議論が行えるよう進めるべきであり、そういう風潮になることを願っています。最後に、平成25年度版「現状と課題」を纏めるに当たり協力頂きました職員の方々、またアンケートの答えて頂いた本学卒業・修了生ならびに関係者に御礼申し上げます。

橘 武史 (大学院工学研究院部局評価委員会委員長)

2014年(平成26年)2月

平成25年度 大学院工学研究院部局評価委員会委員

橘	武史	工学研究院 教授【委員長】
横野	照尚	工学研究院 教授【副委員長】
山口	栄輝	工学研究院 教授
大村	一郎	工学研究院 教授
池田	敏春	工学研究院 教授
鈴木	芳文	工学研究院 教授
鳥井	正史	工学研究院 教授
齋藤	武美	工学部事務長
